

2021 年 報

**ANNUAL REPORT of
SEIREI YOKOHAMA HOSPITAL**



社会福祉法人 聖隷福祉事業団

聖隷横浜病院
SEIREI YOKOHAMA HOSPITAL

2021 年度聖隷横浜病院年報
Seirei Yokohama Hospital

ANNUAL REPORT
2021

【病院理念】

私たちは、隣人愛の精神のもと、
安全で良質な医療を提供し、地域に貢献し続けます

目次

2021年度年報発行にあたって	1	薬剤部	82
2021年度事業報告	2	検査課	84
病院沿革	4	栄養課	85
現況	6	リハビリテーション課	87
施設基準	7	臨床工学室	88
施設配置図	8	事務部	90
主な器械備品	9	医師臨床研修委員会	91
組織図	10	医療ガス設備安全委員会	92
委員会・運営会議	11	衛生委員会	93
医師職員数内訳、職員別・区分別職員数	12	栄養委員会	94
病棟構成	13	化学療法委員会	95
病院統計	14	感染対策委員会	96
財務統計	25	緩和ケア委員会	97
リウマチ・膠原病センター	26	救急委員会	98
脳神経血管・高次脳機能センター	28	クリニカルパス委員会	99
乳腺センター（乳腺科）	29	血液浄化センター委員会	100
人工関節センター（関節外科）	30	研修委員会	101
画像診断センター	31	減免・無料低額診療委員会	102
内視鏡センター	33	購入委員会	102
地域連携・患者支援センター	34	広報委員会	103
医療の質管理室	36	呼吸ケアサポートチーム（RST）	103
診療支援室	38	NST委員会	104
ドック・健診室	39	褥瘡対策委員会	105
腎臓・高血圧内科	40	役割分担推進委員会	105
内分泌・糖尿病内科	40	個人情報管理委員会	106
心臓血管センター内科	41	診療情報管理委員会	107
消化器内科	43	診療報酬適正化委員会	108
外科・消化器外科	44	接遇委員会	109
呼吸器内科	45	図書委員会	110
呼吸器外科	46	病院安全管理委員会	111
整形外科	47	防災委員会	112
耳鼻咽喉科	48	安全運転委員会	113
麻酔科・ペインクリニック・緩和ケア	49	薬事（治験）委員会	114
小児科	51	輸血療法委員会	115
眼科	52	臨床検査適正化委員会	116
放射線診断科	53	倫理・臨床研究審査委員会	117
救急科	55	医療の質改善委員会	118
病理診断科	56	特定行為管理委員会	118
総合診療科	58	外来運営会議	119
アレルギー内科	59	手術室運営委員会	120
泌尿器科	60	セーフティマネージャー運営会議	121
看護部	61	糖尿病療養運営会議	121
血液浄化センター	64	ボランティア運営会議	122
手術室・中央材料室	65	リハビリテーション課運営会議	122
外来	66	ドック・健診室運営会議	123
画像診断・内視鏡センター看護室	67	地域連携・患者支援センター運営会議	123
B3病棟	68	病床管理センター運営会議	124
東1病棟（回復期リハビリテーション病棟）	69	内視鏡センター運営会議	125
東2病棟	70	脳血管センター運営会議	126
東3病棟	71	膠原病内科・リウマチセンター運営会議	127
東4病棟	72	乳腺センター運営会議	128
西1病棟	73	回復期リハビリテーション病棟運営会議	129
西2病棟	74	緩和ケア病棟プロジェクト	130
西3病棟	75	OLS（骨粗しょう症リエゾンサービス）運営会議	131
急性期ケアユニット	76	情報システム運営会議	132
脳卒中ケアユニット	77	医師・医療従事者の働き方改革プロジェクト	133
看護相談室	78	教育・症例検討・講演会実績・市民公開講座	134
せいいい訪問看護ステーション横浜	79	学術業績	136
看護部委員会	80	第19回 聖隷横浜病院 病院学会	151

2021年度年報発行にあたって

聖隷横浜病院 病院長 林 泰広

2021年度はコロナ禍での診療体制2年目となりました。1年目の2020年度は不要不急の受診抑制等によって当院の運営は大きな影響を受けましたが、2021年度は、様々な取り組み、病院スタッフ一同の奮闘により盛り返しをはかって、結果的に良い方向へ向かった年度となりました。

まず、院内のコロナ対策ですが、「新型コロナウイルスを院内に持ち込まない、持ち込ませない」を継続的な基本方針とし、この方針に沿う形で、医療提供体制「神奈川モデル」の重点医療機関協力病院、発熱診療等医療機関としての役割を果たしました。またこれらの役割とは別にワクチン接種にも積極的に取り組みました。市民接種と職域接種、両者の枠組みを使い分け、基礎疾患を有する利用者だけでなく、取引業者、救急隊員、関東地区聖隷施設の職員家族にまで、多くの院内スタッフの協力の下、接種の範囲を拡大して継続的に実施しました。

また、診療体制の整備として、4月にアレルギー内科の常勤医を招聘し小児科との連携により質の高い専門的な診療体制を敷きました。10月には脳卒中ケアユニット（SCU）を6床から9床に増床し、他の医療機関が応需できない脳神経外科領域の救急患者を積極的に受け入れる体制を構築しました。その他、整形外科、心臓血管センター外科、放射線診断科の常勤医を新たに招聘し、専門外来を設置し、画像診断体制を強化しました。ドック・健診事業では、これまでの日曜乳がん検診に加え、婦人科検診も同時開催しました。さらに、2020年度に開設および増床した回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟も高稼働を維持できました。

加えて、2021年度は診療科の特徴に応じた指標と行動計画を科毎に策定し、その達成度合いを定期的にチェックしながら、指標を確実に実現できるように診療部だけでなく多部門を巻き込んで協働で取り組みました。また、地域連携をさらに強化するために、医師による紹介状の即日返信の実施、オンライン形式による市民公開講座の定期開催など、当院を利用してくださる方々へ当院をよりよく知ってもらうための活動にも積極的に取り組みました。

その他、働き方改革への対応として部門を横断した働き方改革プロジェクトを立ち上げました。対策の一例として、医師等の労働環境整備の一環として患者面談の原則時間内実施を開始しました。設備整備では利用者エリアの一部と会議室エリアにWi-Fi環境を整備しました。併せて老朽化した病棟の外壁塗装を継続的に実施し、壁面クラックならびにサッシからの雨漏り対策を実施しました。

2021年度はこれらの細かな取り組みを地道にコツコツと実施した年度となりました。幸いこれらが功を奏し、地域において当院の認知度や信頼度を高めると同時に、病院スタッフ間の連帯感も増したように思います。結果として2020年度と比べて入院患者数や外来患者数は大きく増加しました。2022年度も引き続きこのよい流れが続いているところです。

本年報を当院の成長の経過記録としてご覧いただければ幸いです。

2021年度事業報告

事務長 山本 功二

2021年度は、新型コロナウイルス感染症への対応も2年目となり、神奈川モデルにおける重点医療機関協力病院・発熱診療等医療機関としての役割を果たすことができた。ワクチン接種の取り組みを開始し、市民接種や職域接種の枠組みを用いて、基礎疾患を有する利用者、取引業者、救急隊員、関東地区聖隷施設の職員家族などへの接種を継続して行い、2021年度中に17,769回のワクチン接種を実施した。地域貢献の一環として、企業の職域接種実施に対する運営管理コンサルタント業務を行った。

診療体制の整備においては、10月に脳卒中ケアユニット（SCU）を6床から9床に増床し脳疾患の受け入れ強化を図り、他の医療機関が応需できない救急車も積極的に受け入れた。2020年度に開設および増床を行った回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟も高稼働を維持することができた。

各診療科の特徴に応じた指標と行動計画を策定し、診療部を含めた多部門協働での取り組みを推進した。また、地域連携の強化を目的に、紹介状の即日返信の向上、オンライン形式による市民公開講座の定期開催など、利用者に当院を知ってもらうための活動を積極的に行った。これらの取り組みが当院の認知度や信頼感を高め、新たな来院患者の獲得に繋がった結果、入院患者数や外来患者数が増加した。全職員の努力と取り組みに感謝したい。

1. 安全で良質な医療の提供

(ア) 医療安全管理体制および感染管理体制の充実

新型コロナウイルス感染症への対策として、全ての入館者に理解と協力を得ながら延べ281,190名の利用者に体調確認を実施した。従来の感染対策委員会に加えてICD（感染制御医師）および感染管理認定看護師を中心に新型コロナウイルス感染症対策会議を毎週開催し、情報共有や必要施策の検討を行った。

(イ) 救急診療体制の強化と充実

救急科入院患者の各科振り分け運用を開始し、救急科が受け入れ業務に専念できる環境を整備した。救急フォーラムの実施や救急隊への訪問活動などを継続的に実施し、コロナ禍においても応需率向上に向けて病院全体で取り組むことにより、4,544件（目標:3,600件）の救急搬送を受け入れた。

(ウ) 診療科体制およびドック・健診事業の整備

脳卒中ケアユニット（SCU）の増床（6床→9床）を行った。整形外科、心臓血管センター外科、放射線診断科の常勤医を新たに招聘し、専門外来の設置、画像診断管理加算2を取得した。ドック・健診事業では、これまで行っていた日曜乳がん検診に加え、婦人科検診も同時開催した。安心して受診できる病院併設型ドック・健診施設として新規利用者が増加し、過去最高の売り上げ実績を残すことができた。

2. 地域包括ケアシステムの構築と推進

(ア) 地域完結型医療の実践

2020年度に新規開設した回復期リハビリテーション病棟の効果的な利用を推進し、新規開

設後10ヵ月で入院料1の算定を開始することができた。緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟においても高稼働を維持することができた。

(イ) 外来機能の充実

アレルギー内科の常勤医を招聘、小児科との連携により質の高い専門的な診療体制を構築した。

(ウ) 地域連携の強化

紹介状に対する即日返信率のさらなる向上に取り組んだ。診療科医師と協働で戦略的にクリニック訪問を行い、顔の見える連携を強化した結果、診療所からの紹介件数が月平均 791 件（目標：800件）となった。SNS（YouTube）を利用したオンライン市民公開講座を開始した。（年間6回）

3. 資源を最大限に活用した健全な経営の実践

診療部と協働で各科の特徴に応じた指標と行動計画を策定し、取り組みを推進した。人件費率単月58%を目指し、収入確保、費用削減に取り組んだ結果、予算を大幅に上回ることができた。また、緊急時における安否確認および連絡体制としてANPICを導入し、大規模災害だけではなく自然災害での公共交通機関不通時の確認ツールとしての活用も同時開始した。

4. 多様な人材確保と育成

両立支援制度（育休・介護休等利用 46名、短時間勤務・ワークシェア等利用 39名）、障がい者新規雇用 2名。

5. 最適な環境づくりの推進

働き方改革関連法への対応として部門横断の働き方改革プロジェクトを立ち上げ、労働環境整備の一環として医師等との面談の時間内実施を開始した。

設備整備では利用者エリアの一部と会議室エリアにWi-Fi環境を整備した。併せて老朽化した病棟の外壁塗装を継続的に実施し、壁面クラックならびにサッシからの雨漏り対策を行ったが、未実施の箇所が残されているため引き続き整備を実施していく。

<地域における公益的な取り組み>

低所得者に対し広く事業を実施し、国が定める基準10%に対して10.8%の実績であった。

【数値実績】

	予算	実績	対予算	対前年
外来患者数	525 名	557 名	106.1 %	111.6 %
外来単価	15,800 円	17,351 円	109.8 %	105.3 %
入院患者数	280 名	305 名	108.9 %	126.6 %
入院単価	56,000 円	55,507 円	99.1 %	96.0 %
病床稼働率	76.3 %	83.1 %	108.9 %	126.6 %
職員数	677 名	700 名	103.4 %	102.8 %

病 院 沿 革

- 2003年（平成15年） 3月 国立横浜東病院から経営移譲を受け「社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷横浜病院」開院
井澤豊春初代病院長 就任
診療科：内科、外科、整形外科、泌尿器科、小児科、脳神経外科、
産婦人科（2014年閉科）、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、麻酔科、
精神科（2007年閉科）
医療法開設許可病床 350床（一般病床300床・療養病床50床）
稼働病床 一般病床150床（東2、東3、東4病棟）
4月 稼働病床 一般病床200床（東3、東4、西2、西3病棟）
8月 1.5T-MRI導入
9月 内科を総合診療内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、
腎臓・高血圧内科に専門分化
12月 血液浄化センター開設
- 2004年（平成16年） 4月 医師臨床研修制度開始
稼働病床 一般病床250床（西1病棟開棟）
8月 看護師宿舎「フェリーチェせいいれい」（地上4階、30部屋）新設
10月 内分泌・糖尿病内科開設
- 2005年（平成17年） 1月 オーダリングシステム導入
横浜市二次救急輪番病院参加
- 2006年（平成18年） 2月 64列マルチスライスCT装置導入
6月 一般病棟入院基本料7：1取得
8月 療養病床50床返還
- 2007年（平成19年） 4月 岩崎滋樹第二代病院長就任、井澤豊春名誉院長就任
内視鏡センター開設
7月 医師ジョブシェア制度導入
9月 血液内科開設（2010年閉科）
10月 耳センター開設
- 2008年（平成20年） 3月 院内保育施設「ひだまり保育園」開設
4月 消化器外科開設
7月 DPC制度導入
呼吸器外科開設
10月 脳血管内治療科（2012年閉科）
周産期科開設（2010閉科）
臨床検査科開設
稼働病床 一般病床276床（東2病棟開棟）
12月 日本医療機能評価機構「病院機能評価Ver.5.0」認定
- 2009年（平成21年） 7月 病理診断科開設
5月 横浜市の要請により「新型インフルエンザ発熱外来」設置
- 2010年（平成22年） 4月 形成外科開設（2012年閉科）
横浜市二次救急拠点病院事業参加（横浜市二次救急拠点病院B）

		横浜市脳血管疾患救急医療体制参加医療機関
		横浜市外傷（整形外科）救急医療体制参加医療機関
	10月	256スライスCT導入 稼働病床数 一般病床300床
2011年（平成23年）	11月	日本経済新聞社主催「2010年につけい子育て支援大賞」受賞
	5月	横浜市の要請により、東日本大震災被災地に医師、看護師派遣
	10月	神奈川県主催「第5回かながわ子ども・子育て支援大賞」受賞
	12月	病院ボランティア活動開始
2012年（平成24年）	2月	横浜市心疾患救急医療体制参加
	4月	脳卒中科（脳血管内治療科閉科） リハビリテーション科開設
2013年（平成25年）	3月	サポートドクター制度導入
	4月	NPO法人卒後臨床研修評価機構 認定病院
	12月	日本医療機能評価機構 病院機能評価 「一般病院2 3rdG：ver.1.0」認定
2014年（平成26年）	6月	3.0T-MRI更新
	10月	せいの訪問看護ステーション横浜を聖隷横浜病院へ事業移管
2015年（平成27年）	1月	林泰広第三代病院長就任
	4月	形成外科、心臓血管センター内科開設
	5月	地域包括ケア病棟開設（東4病棟51床）
2016年（平成28年）	1月	リウマチ・膠原病センター 開設 脳血管センター 開設
	4月	画像・診断センター 開設 心臓血管外科開設 横浜市営バス「聖隷横浜病院循環」 運行開始
	6月	新外来棟建築工事 起工式
2017年（平成29年）	2月	NPO法人卒後臨床研修評価機構 認定病院
	4月	ドック・健診室 開設
	5月	電子カルテシステム 導入・稼働開始
	7月	ハイケアユニット（HCU）開設（8床）
2018年（平成30年）	4月	乳腺センター開設
	8月	脳卒中ケアユニット（SCU）開設（6床）
	12月	日本医療機能評価機構 病院機能評価 「一般病院2 3rdG：ver.2.0」
2019年（令和元年）	7月	A棟（新外来棟）外来診療開始
2020年（令和2年）	2月	横浜市病院輪番制
	7月	東1病棟開設 一般病床338床稼働
	8月	B3病棟開設 一般病床358床稼働 回復期リハビリテーション病棟入院料6取得
	9月	緩和ケア病棟入院料2取得
2021年（令和3年）	1月	回復期リハビリテーション病棟入院料3取得
	3月	地域包括ケア病棟 60床に増床 一般病床367床稼働
	4月	アレルギー内科開設
	5月	回復期リハビリテーション病棟入院料1取得
	10月	脳卒中ケアユニット（SCU）9床に増床

現 況

2022年4月1日現在

開設者	社会福祉法人 聖隷福祉事業団
病院名	聖隷横浜病院
所在地	〒240-8521 神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町215 TEL(045)715-3111 FAX(045)715-3387
開院日	2003年3月1日
理事長	青木 善治
病院長	林 泰広
副院長	新美 浩 大内 基史
院長補佐	野澤 聡志 芦田 和博
総看護部長	兼子 友里
事務長	山本 功二
病院事業	無料低額診療施設事業
病床数	許可病床(367床:一般) 稼動病床(367床:一般、急性期ケアユニット、脳卒中ケアユニット、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟地域包括ケア病棟含む)
常勤職員	671名(2022年4月1日時点)
認定施設	保険医療機関 労災保険指定医療機関 結核指定医療機関 生活保護法指定医療機関 被爆者一般疾病指定医療機関 更生医療指定医療機関 育成医療指定医療機関 母子保健法指定養育医療機関 特定疾患治療取扱病院 臨床研修病院(基幹型) 公害医療指定医療機関 救急告示病院 小児慢性医療指定医療病院 労災保険二次健診等給付医療機関 DPC対象病院
学会認定	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会関連施設 日本消化器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本大腸肛門病学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本呼吸器学会関連施設 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設

日本糖尿病学会認定教育施設
日本リウマチ学会教育施設認定施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本脳神経血管内治療学会研修施設
脳神経外科学会認定施設
脳卒中学会認定施設
一次脳卒中センター(PSC)認定施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本病理学会研修認定施設B
日本がん治療認定医機構認定研修施設
特定施設非常利活動法人卒後臨床研修評価機構認定
日本栄養療法推進協議会NST稼働施設認定
日本静脈結腸栄養学会NST稼働施設認定
マンモグラフィ検診施設画像認定施設
日本認知症学会教育施設
日本乳癌学会関連施設
National Clinical Database
日本病院総合診療医学認定施設
日本診療放射線技師会医療被ばく低減施設認定
日本脊椎椎間病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設認定
日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設認定

標榜科目

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、内分泌・糖尿病内科、皮膚科、アレルギー内科、リウマチ科、小児科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、泌尿器科、脳神経外科、整形外科、形成外科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、リハビリテーション科、放射線診断科、麻酔科、ペインクリニック外科、病理診断科、臨床検査科、救急科、神経内科(計29科)

診療科目

呼吸器内科、消化器内科、腎臓・高血圧内科、内分泌・糖尿病内科、心臓血管センター内科、心臓血管センター外科、膠原病・リウマチ内科、アレルギー内科、小児科、外科、呼吸器外科、消化器外科、脳神経外科、脳血管内治療科、整形外科、関節外科、形成外科、乳腺科、麻酔科(ペインクリニック)、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、泌尿器科、総合診療科、救急科、放射線診断科、リハビリテーション科、臨床検査科、病理診断科、ドック・健診科、神経内科(計31科)

救急医療

横浜市病院輪番制
横浜市脳血管疾患救急医療体制参加医療機関
横浜市外傷(整形外科)救急医療体制参加医療機関
横浜市急性心疾患救急医療体制参加医療機関

災害医療 神奈川県災害協力病院

施設基準

2022年4月1日現在

○基本診療料

初再診料	電子の保健医療情報活用加算 情報通信機器を用いた診療に係る基準
入院基本料	急性期一般入院料 1
入院基本料加算	臨床研修病院入院診療加算(基幹型) 救急医療管理加算 超急性期脳卒中加算 診療録管理体制加算1 医師事務作業補助体制加算2 15対1 50対1急性期看護補助体制加算 看護職員夜間12対1配置加算1 療養環境加算 重症者等療養環境特別加算 栄養サポートチーム加算 医療安全対策加算1 医療安全対策地域連携加算1 感染対策向上加算2 感染対策向上加算 連携強化加算 感染対策向上加算 サーベイランス強化加算 褥瘡ハイリスク患者ケア加算 呼吸ケアチーム加算 後発医薬品使用体制加算1 病棟薬剤業務実施加算1 病棟薬剤業務実施加算2 データ提出加算2 データ提出加算4 入退院支援加算1 入退院支援加算 入院時支援加算 認知症ケア加算2 せん妄ハイリスク患者ケア加算 地域医療体制確保加算
特定入院料	ハイケアユニット入院医療管理料1 脳卒中ケアユニット入院医療管理料 回復期リハビリテーション病棟入院料1 地域包括ケア病棟入院料2 地域包括ケア_注3 看護職員配置加算 地域包括ケア_注4 看護補助者配置加算 緩和ケア病棟入院料2

○入院時食事療養

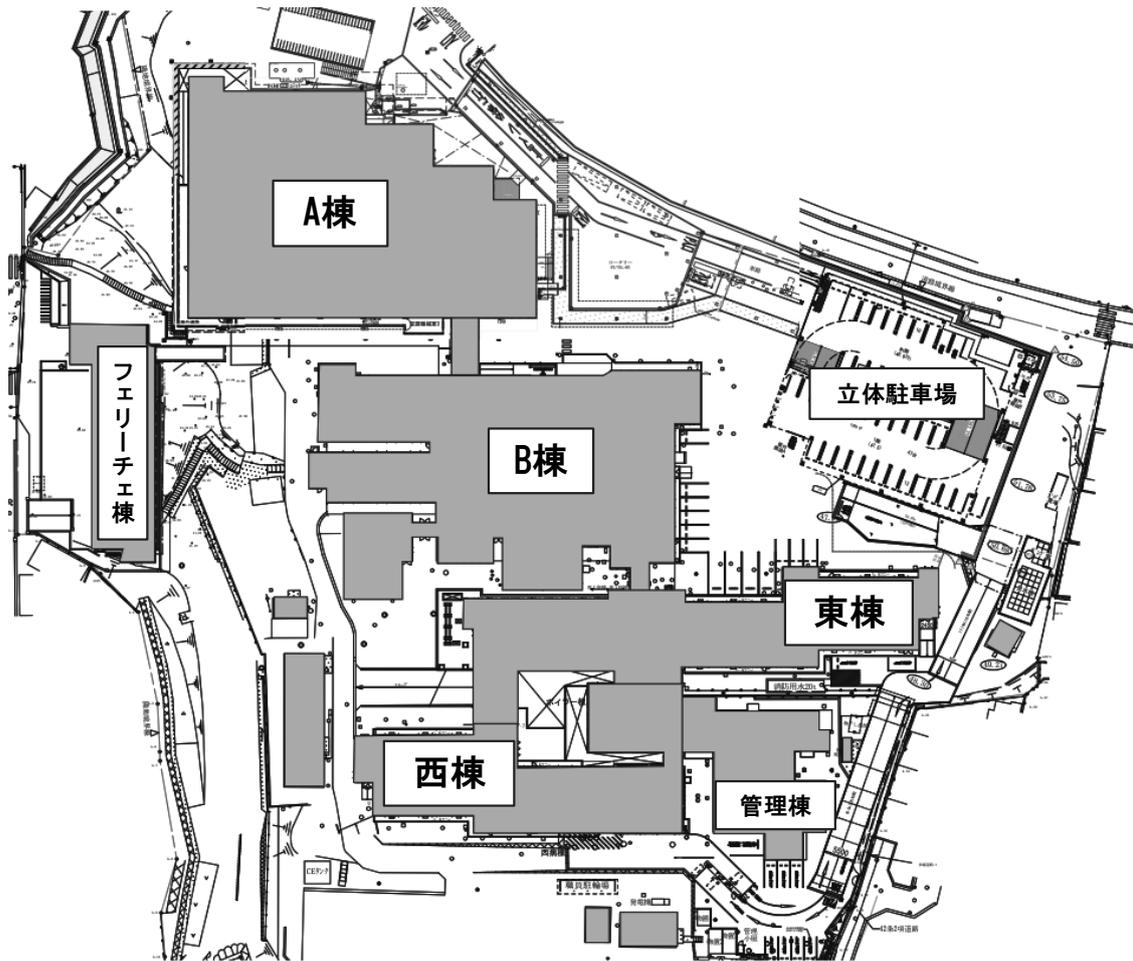
食事療養	入院時食事療養I・入院時生活療養I
-------------	-------------------

○特掲診療料

医学管理等	外来栄養食事指導料 注2 心臓ペースメーカー指導管理料 遠隔モニタリング加算 高度難聴指導管理料 糖尿病合併症管理料 がん性疼痛緩和指導管理料 がん患者指導管理料イ がん患者指導管理料ロ がん患者指導管理料ハ がん患者指導管理料ニ 糖尿病透析予防指導管理料 二次性骨折予防継続管理料1 二次性骨折予防継続管理料2 二次性骨折予防継続管理料3 小児科外来診療料 院内トリアージ実施料 夜間休日救急搬送医学管理料 救急搬送看護体制加算1 外来腫瘍化学療法診療料1 連携充実加算 ニコチン依存症管理料 がん治療連携指導料 薬剤管理指導料 医療機器安全管理料1
--------------	--

在宅医療	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
検査	遺伝学的検査 BRCA1/2遺伝子検査 検体検査管理加算(I)・(II) 遺伝カウンセリング加算 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 植込型心電図検査 時間内歩行試験 ヘッドアップティルト試験 神経学的検査 補聴器適合検査 小児食物アレルギー負荷検査 センチネルリンパ節生検片側(2単独法)
画像診断	CT透視下気管支鏡検査加算 画像診断管理加算2 CT撮影(64列以上マルチスライス) MRI撮影(3テスラ以上) 冠動脈CT撮影加算 大腸CT撮影加算 心臓MRI撮影加算 乳房MRI撮影加算 抗悪性腫瘍処方管理加算
投薬	外来化学療法加算1
注射	無菌製剤処理料
リハビリテーション	脳血管疾患等リハビリテーション料(I) 廃用症候群リハビリテーション料(I) 運動器リハビリテーション料(I) 呼吸器リハビリテーション料(I) リハビリテーション初期加算 がん患者リハビリテーション料
処置	静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの) 人工腎臓1 人工腎臓 導入期加算1 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
手術	組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。) 椎間板内酵素注入療法 脊髄刺激装置植込術又は脊髄刺激装置交換術 経外耳道の内視鏡下鼓室形成術 乳がんセンチネルリンパ節加算1 乳がんセンチネルリンパ節加算2 ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後) 内視鏡による縫合術・閉鎖術 経皮的冠動脈形成術 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) 経皮的冠動脈ステント留置術 ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術 植込型心電図記録計移植術 植込型心電図記録計摘出術 大動脈バルーンパンピング法(IABP法) 経皮的下肢動脈形成術 内視鏡的逆流防止粘膜切除術 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術 手術の通則の16に掲げる手術(胃瘻造) 手術の通則の19に掲げる手術 (遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術) 輸血管理料II 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
麻酔	麻酔管理料(I) 麻酔管理料(II)
病理診断	病理診断管理加算1 悪性腫瘍病理組織標本加算

施設配置図



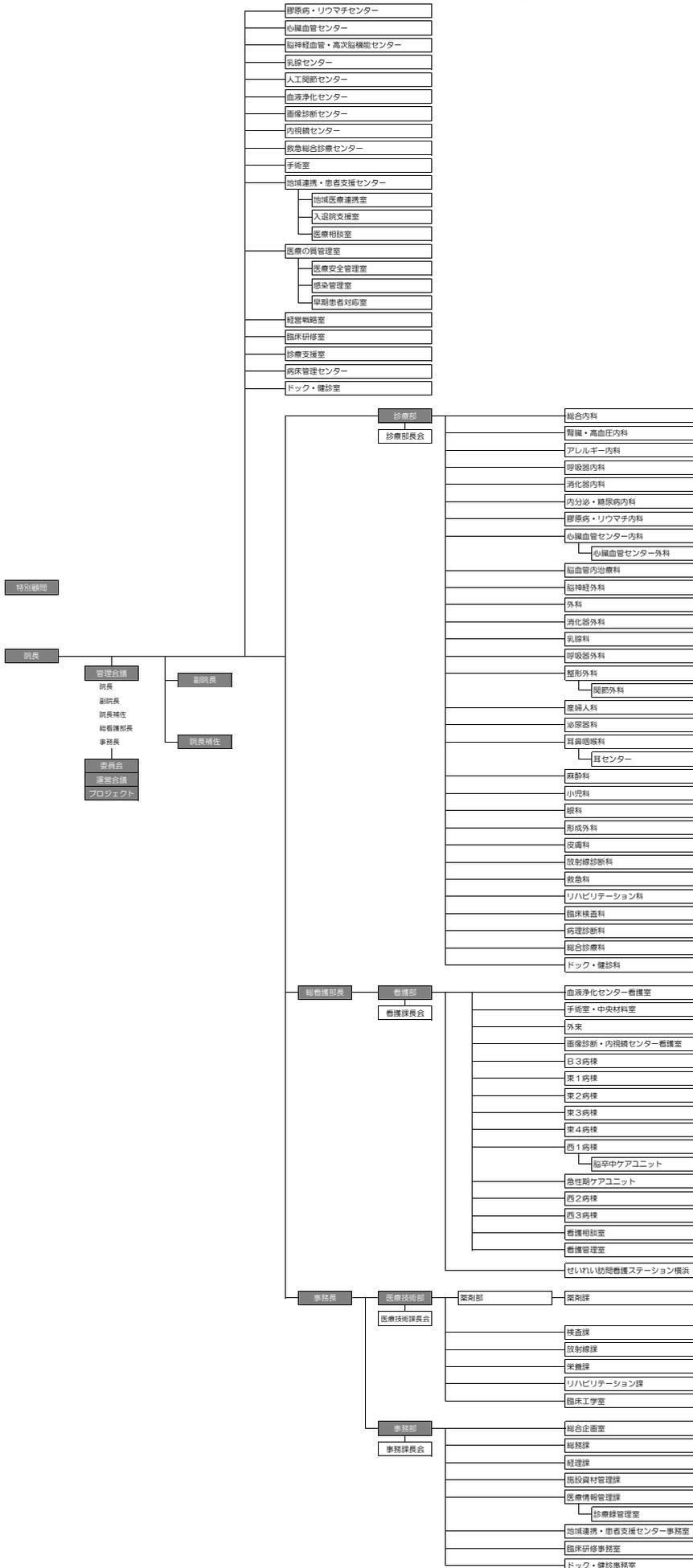
4F	血液浄化センター 医局 研修医室 大会議室		東4病棟 地域包括ケア病棟			事務長室 総務課 経理課 総合企画室
3F	外来 検査課 化学療法室 ドック・健診室 食堂	B3病棟 緩和ケア病棟	東3病棟	西3病棟		
2F	正面受付 外来 地域連携 ・患者支援センター 中央採血室	薬剤部 リハビリテーション課 医療情報管理課 売店	東2病棟	西2病棟		せいれい訪問看護 ステーション
1F	救急室 画像診断センター 内視鏡センター	MRI・CT	東1病棟 回復期 リハビリテーション病棟	西1病棟 急性期ケアユニット 脳卒中ケアユニット		ひだまり保育園
B1F	手術室・中央材料室 病理診断科		栄養課	霊安室・解剖室	総看護部長室 看護部管理室 医療安全管理室 臨床工学室 施設資材管理課	
	A棟	B棟	東棟	西棟	管理棟	フェリーチェ棟

主 な 器 械 備 品

機器名	数	メーカー名	機種名
MRI	2	フィリップス	Ingenia 3.0T、Ingenia Elition 3.0T
160列超高精細マルチスライスCT	1	キャノン	Aquilion Precision
128列256マルチスライスCT	1	フィリップス	Brilliance iCT
64列マルチスライスCT	1	キャノン	Aquilion64
乳房X線装置	2	キャノン、シーメンス	PeruruDIGITAL、MAMMOMAT Revelation
FPDシステム	1	コニカ	AeroDR
X線TVシステム	2	島津、キャノン	SONIALVISION G4、Ultimax80
骨密度測定装置	1	日立	DCS-600EXV
血管撮影装置	2	フィリップス	AlluraClarity FD10、FD20/15
X線撮影装置	3	島津	RADSPEED PRO
移動式X線撮影装置	3	シーメンス、島津	MOBILETT XP Hybrid、Mobile Art Evolution
外科用X線撮影装置	2	シーメンス	SIREMOBILE Compact L、Cios Select
超音波診断装置	10	キャノン	Xario、Aplio400、Aplio500
超音波診断装置	2	GE	LOGIQ P9、Versana Active
生化学自動分析装置	2	ベックマン・コールター	AU5810、DxC700 AU
全自動尿中有形成分分析装置	1	シスメックス	UF-1000i
多項目自動血球分析装置	1	シスメックス	XT-4000i
全自動血液凝固測定装置	1	シスメックス	CS-2100i
血液ガス分析装置	2	シーメンス	RAPIDPOINT500
全自動輸血検査システム	1	オーソ	オーソビジョン
自動染色装置	1	ロシュ	ベンタナ ベンチマークULTRA
脳波計	1	日本光電	NeurofaxEEG-1250
筋電図計	1	日本光電	Neuropack S3
心電計	7	日本光電、フクダ電子	ECG-2550、ECG-2450、FCP-7541
睡眠ポリグラフィ装置	1	日本光電	PSG-1100
血圧脈波検査装置	2	フクダコーリン	BP-203RPE III
麻酔器	5	ドレーゲル	Tiro、Apollo
外科手術用内視鏡システム	3	オリンパス	VISERA、VISERA ELITE II
耳鼻咽喉科内視鏡システム	1	オリンパス	VISERA ビデオシステム
耳鼻咽喉科NBI内視鏡システム	1	オリンパス	VISERA ELITE ビデオシステム
消化器内視鏡システム	4	オリンパス	EVIS X1、EVIS LUCERA ELITE、SPECTRUMビデオシステム
超音波手術装置	3	オリンパス、ストライカー	ソノサージ、ソノペットIQ
手術用顕微鏡	3	カールツァイス、ライカ	OPMI PENTERO900、M844-F40、M525-OH4
炭酸ガスレーザー	1	モリタ製作所	レザウィンII
白内障手術装置	1	アルコン	センチュリオンビジョンシステム
高周波手術装置	11	アムコ、メドトロニック、オリンパス	VIO-300D、Valley lab FT10、ESG-400、ICC-200・300、CMC-V 他
マイクロ波手術装置	1	アルフレッサファーマ	マイクロターゼ AZM-550
高周波熱凝固装置	1	トーヨーメディック	ニューロサーモ
成人用人工呼吸器	7	ドレーゲル、レスメド	Evita V300、V600、アストラル150
搬送用人工呼吸器	4	日本光電、ドレーゲル、スミスメディカル	HAMILTON-C1、Oxylog 3000プラス、パラパックプラス
臨床用ポリグラフ	2	日本光電	RMC-5000
人工腎臓（透析）装置	23	日機装、JMS	DCS-73、DCG-03、DBG-03、DBB-100NX、DCS-100NX、GC-110N
血液浄化装置	1	川澄化学	KM-9000
多人数用透析液供給装置	1	日機装	DAB-30NX
透析液溶解装置	2	東亜DKK	AHI-502、BHI-502
逆浸透圧精製水製造装置	1	日機装	DRO-NX
体外式ペースメーカー	3	バイオトロニック	REOCOR S
除細動器	11	フィジオ、フクダ電子、フィリップス	LP20e、DFM100、ハートスタートMRx
経皮の心肺補助装置	2	テルモ	キャピオックス遠心ポンプコントローラーSP-200
大動脈内バルーンポンプ	1	ゲティング	CS300
3次元眼底像撮影装置	1	トプコン	3D OCT-2000
眼軸長測定装置	1	カールツァイス	IOLマスター700
高圧蒸気滅菌器	3	三浦工業	RX-32FVW、RH-16EHW
低温プラズマ滅菌器	1	ジョンソン&ジョンソン	STERRAD100NX
無侵襲混合血酸素飽和度監視システム	2	メドトロニック	INVOS 5100C
ナビゲーションシステム	1	メドトロニック	ステルスステーションS7
術中神経モニタリング装置	1	日本光電	ニューロマスターG1
近赤外線治療器	1	東京医研	スーパーライザーPX

組織図

2022年4月1日現在



委員会・運営会議

2021年4月1日付（順不同）

委員会名称	開催日	構成人数				
		診療部	看護部 訪問看護	医療技術部	事務部	外部・顧問
管理会議	毎月 第1・3週火曜日	6	5	1	5	
訪問看護ステーション運営会議	毎月 第1火曜日	4	3	1	2	
診療部長会	毎月 第4週木曜日	24	1	1	5	
全体課長会	毎月 最終週月曜日	1	23	6	9	

《委員会》

医師臨床研修委員会 ※医師卒後臨床研修管理委員会	毎月 第2週水曜日	15	1	1	2	
医療ガス設備安全委員会	年1回	1	1	2	3	
衛生委員会	毎月 第1週水曜日	2	5	6	4	
栄養委員会	年5回 第4週木曜日	1	1	3	1	
化学療法委員会	毎月 第2週火曜日	6	5	3	1	
感染対策委員会	毎月 第4週水曜日	6	4	8	3	
緩和ケア委員会	毎月 第2週月曜日	2	5	3	1	
救急委員会	毎月 第4週月曜日	9	6	4	4	1
クリニカルパス委員会	毎月 第3週月曜日	1	4	6	1	
血液浄化センター委員会	毎月 第2週火曜日	2	2	3	1	
研修委員会	毎月 第4週火曜日		4	5	3	
減免・無料低額診療委員会	毎月 第2週火曜日		1		5	
購入委員会	毎月 第4週木曜日		1	1	4	
広報委員会	毎月 第2週金曜日	1	2	6	4	
RST(呼吸ケアサポートチーム)委員会	毎月 第1週火曜日	3	2	6		
NST(栄養サポートチーム)委員会	年5回 第4週木曜日	2	3	7		
褥瘡対策委員会	偶数月 第4週水曜日	2	4	3		
看護褥瘡予防委員会	毎月 第1週水曜日		12			
役割分担推進委員会	毎月 第3週水曜日	2	3	6	2	
診療情報管理(個人情報管理)委員会	毎月 第2週水曜日	2	2	3	5	
診療報酬適正化委員会	毎月 第4週金曜日	2	1	3	3	
接遇委員会	毎月 第2週水曜日	2	5	6	4	
図書委員会	隔月	1	1		3	
病院安全管理(医療事故調査)委員会	毎月 第3週水曜日	6	4	6	3	
医療機器安全管理委員会	毎月 第3週水曜日	1	1	5		
防災委員会	毎月 第2週火曜日	2	14	6	7	
安全運転委員会						
薬事(治験)委員会	偶数月 第4週火曜日	13	2	3	2	
輸血療法委員会	奇数月 第4週金曜日	2	2	4	1	
臨床検査適正化委員会	偶数月 第4週金曜日	2	1	3	1	
倫理・臨床研究審査委員会	毎月 第3週火曜日	4	4	1	4	2
医療の質改善委員会	随時	1	3	2	2	
特定行為管理委員会	随時	6	5	1	3	
特定行為小委員会	毎月 第1週金曜日	1	5			

《運営会議》

外来運営会議	毎月 第1週水曜日	3	6	3	6	
手術室運営会議	毎月 第1週水曜日	10	2	4	1	
セーフティマネージャー運営会議	隔月 最終週月曜日	1	職場長	職場長	職場長	
糖尿病療養運営会議	毎月 第1週火曜日	2	4	4		
ボランティア運営会議	奇数月 最終週月曜日		2		3	
リハビリテーション課運営会議	奇数月 第3週水曜日	4	3	6		
ドック・健診室運営会議	年4回 第4週水曜日	1	2	2	2	
地域連携・患者支援センター運営会議	毎月 第3週水曜日	6	3	1	6	
病床管理センター運営会議	毎月 第3週水曜日	1	4		5	
内視鏡センター運営会議	偶数月 第1週金曜日	4	2	3		
脳血管センター運営会議	毎月 第3週水曜日	2	3	4	4	
リウマチ・膠原病センター運営会議	随時	3	2	3	5	
乳腺センター運営会議	随時	2	2	2	5	
画像診断センター運営会議	偶数月 第3週火曜日	2	2	2		
回復期リハ病棟運営会議	毎月 第1週木曜日	3	2	4	5	

《プロジェクト》

緩和ケア病棟プロジェクト	隔月 随時	2	3	3	3	
情報システムプロジェクト	毎月 第2週月曜日	1	3	6	4	
医師・医療従事者の働き方改革プロジェクト	随時	7	3	6	3	

医師職員数内訳

2021年4月1日現在 単位：人

診療科等	常勤医師	非常勤医師	合計
院長	1	0.00	1.00
総合内科	0	0.20	0.20
消化器内科	3	0.10	3.10
内分泌・糖尿病内科	1	1.10	2.10
呼吸器内科	1	1.20	2.20
アレルギー内科	1	0.00	1.00
腎臓・高血圧内科	1	2.00	3.00
救急科	1	1.00	2.00
脳神経外科	4	1.00	5.00
脳血管内治療科	1	0.00	1.00
小児科	1	0.10	1.10
外科	4	0.00	4.00
乳腺センター	1	0.00	1.00
乳腺科	1	0.20	1.20
消化器外科	1	0.00	1.00
整形外科	5	0.80	5.80
関節外科	1	0.00	1.00
呼吸器外科	2	0.80	2.80
皮膚科	0	0.60	0.60
泌尿器科	1	0.65	1.65
眼科	3	0.40	3.40
耳鼻咽喉科	3	0.95	3.95
麻酔科	3	4.90	7.90
放射線診断科	3	0.70	3.70
病理診断科	2	0.00	2.00
形成外科	0	0.50	0.50
心臓血管センター内科	8	0.35	8.35
心臓血管センター外科	0	0.18	0.18
リウマチ・膠原病内科	3	0.30	3.30
総合診療科	1	0.90	1.90
初期研修医	10	0.00	10.00
リハビリテーション科	0	0.20	0.20
合計	67	19.13	86.13

職員別・区分別職員数

2021年4月1日現在 単位：人

部門名	職名	区分				合計
		ブロック・地域総合	地区限定	エルダー職	パート・非常勤	
診療部	医師	57	0	0	88	145
	初期研修医	10	0	0	0	10
看護部	助産師	0	0	0	1	1
	看護師	291	20	0	20	331
	准看護師	0	0	1	1	2
	看護助手	0	28	4	11	43
	視能訓練士	4	0	0	0	4
	救急救命士	7	0	0	0	7
	事務職	2	7	1	1	11
医療技術部	薬剤師	25	0	0	0	25
	薬剤事務	0	2	0	0	2
	臨床検査技師	17	4	0	1	22
	検査事務	0	1	0	0	1
	診療放射線技師	18	0	0	0	18
	放射線事務	0	1	0	2	3
	理学療法士	25	0	0	0	25
	作業療法士	13	0	0	0	13
	言語聴覚士	4	0	0	1	5
	臨床工学技士	19	0	0	0	19
	管理栄養士	7	1	0	0	8
	調理師	2	3	0	0	5
	調理助手	0	0	0	14	14
事務部	看護師	4	0	0	0	4
	事務職	36	39	0	14	89
	施設員	4	0	0	0	4
	医療相談員	6	2	0	0	8
訪問看護	看護師	9	0	0	5	14
	理学療法士	1	0	0	2	3
	作業療法士	0	0	0	1	1
	事務職	0	1	0	0	1
合計		561	109	6	162	838

病 棟 構 成

建物	階	名称	病床数	主な診療科	入院料
東棟	4	東4病棟	60	総合診療科、内分泌・糖尿病内科	地域包括ケア病棟入院料2
	3	東3病棟	52	消化器内科、外科（消化器、一般）	急性期一般入院料1
	2	東2病棟	53	呼吸器内科、呼吸器外科、眼科、乳腺科	急性期一般入院料1
	1	東1病棟	38	整形外科、脳神経外科	回復期リハビリテーション病棟入院料1
西棟	3	西3病棟	46	心臓血管センター内科、腎臓・高血圧内科 救急科、アレルギー内科	急性期一般入院料1
	2	西2病棟	47	整形外科、耳鼻咽喉科、麻酔科 リウマチ・膠原病内科、内分泌・糖尿病内科	急性期一般入院料1
	1	西1病棟 急性期ケアユニット 脳卒中ケアユニット	34 8 9	脳神経外科	急性期一般入院料1 ハイケアユニット入院医療管理料1 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
B棟	3	B3病棟	20	麻酔科	緩和ケア病棟入院料2
合計			367		

病院統計

年度別月別入院延べ患者数

(単位：人)

年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2017	8,506	8,056	7,956	8,798	8,410	8,070	8,409	8,650	8,851	9,184	8,504	8,918	102,312
2018	8,052	8,210	7,741	8,247	8,937	7,688	8,430	8,593	8,889	9,091	8,377	8,701	100,956
2019	8,532	8,851	8,374	7,759	8,588	7,778	7,784	8,212	8,839	8,441	7,833	7,557	98,548
2020	6,564	5,611	5,791	6,571	6,986	6,676	7,296	7,450	8,173	8,667	8,525	9,524	87,834
2021	8,714	8,726	8,780	8,770	9,218	9,363	9,372	9,338	9,823	9,833	9,009	10,314	111,260

年度別月別1日平均入院患者数

(単位：人)

年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2017	283.5	259.9	265.2	283.8	271.3	269.0	271.3	288.3	285.5	296.3	303.7	287.7	280.5
2018	268.4	264.8	258.0	266.0	288.3	256.3	271.9	286.4	286.7	293.3	299.2	280.7	276.7
2019	284.4	285.5	279.1	250.3	277.0	259.3	251.1	273.7	285.1	272.3	270.1	243.8	269.3
2020	218.8	181.0	193.0	212.0	225.4	222.5	235.4	248.3	263.6	279.6	304.5	307.2	240.9
2021	290.5	281.5	292.7	282.9	297.4	312.1	302.3	311.3	316.9	317.2	321.8	332.7	304.9

年度別月別外来延べ患者数

(単位：人)

年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2017	13,578	13,780	14,448	14,033	14,268	14,148	14,620	14,646	15,280	14,640	13,580	15,228	172,249
2018	13,594	14,272	14,216	14,341	14,528	13,547	15,623	15,165	14,464	14,434	13,344	14,388	171,916
2019	14,369	13,360	13,261	13,549	13,563	13,039	13,640	13,108	13,434	12,918	11,424	11,707	157,372
2020	10,068	9,161	11,077	11,722	10,734	11,155	12,131	11,053	12,077	10,824	10,294	12,830	133,126
2021	12,060	11,163	12,498	12,170	12,294	12,444	12,705	12,685	12,829	12,231	11,078	13,881	148,038

年度別月別1日平均外来患者数

(単位：人)

年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2017	565.8	574.2	555.7	561.3	548.8	589.5	584.8	610.3	664.3	636.5	590.4	585.7	588.9
2018	566.4	594.7	546.8	573.6	558.8	589.0	600.9	631.9	628.9	627.6	580.2	575.5	589.5
2019	574.8	580.9	530.4	521.1	521.7	566.9	568.3	595.8	610.6	561.7	544.0	509.0	557.1
2020	437.7	458.1	461.5	509.7	487.9	507.0	505.5	526.3	549.0	515.4	514.7	513.2	498.8
2021	524.3	558.2	520.8	553.2	534.5	565.6	552.4	576.6	583.1	582.4	553.9	578.4	557.0

年度別診療科別外来延べ患者数

(単位：人)

診療科	年度	2017	2018	2019	2020	2021
総合診療内科		15,807	8,174	6,639	3,863	3,412
呼吸器内科		8,543	7,727	7,248	6,050	6,748
消化器内科		15,296	17,786	14,608	9,126	8,756
腎臓・高血圧内科		4,094	4,980	4,058	1,865	3,151
内分泌・糖尿病内科		15,130	15,692	6,551	5,161	6,066
血液浄化		7,292	7,876	7,554	6,365	5,837
乳腺科		—	2,353	3,012	3,268	4,017
脳神経外科		8,993	10,254	10,892	9,688	9,725
小児科		5,540	5,093	4,387	2,333	2,347
外科		7,575	6,332	6,108	6,098	6,229
呼吸器外科		2,589	3,112	3,382	2,476	2,609
形成外科		1,265	1,075	1,395	1,148	1,083
整形外科		11,020	11,502	11,631	10,844	14,289
皮膚科		4,837	4,566	5,158	4,484	4,396
泌尿器科		7,947	5,773	4,937	4,775	6,669
眼科		9,206	9,331	8,574	8,336	9,299
耳鼻咽喉科		13,895	13,907	14,168	12,259	13,358
心臓血管センター内科		13,445	16,520	16,101	14,714	14,862
リウマチ・膠原病内科		6,994	8,619	10,241	8,693	10,009
総合診療科		1,034	1,114	1,119	992	963
放射線科		1,890	2,192	2,206	2,275	2,083
麻酔科		4,473	4,618	5,049	4,469	4,978
救急科		2,841	3,320	2,354	3,844	5,120
アレルギー内科		—	—	—	—	2,032

年度別診療科別1日平均外来患者数

(単位：人)

診療科	年度	2017	2018	2019	2020	2021
総合診療内科		53.8	28.0	23.2	14.5	12.8
呼吸器内科		29.1	26.5	25.3	22.7	25.4
消化器内科		52.0	60.9	51.1	34.2	32.9
腎臓・高血圧内科		13.9	17.1	14.2	7.0	11.9
内分泌・糖尿病内科		51.5	53.7	22.9	19.3	22.8
血液浄化		24.8	27.0	26.4	23.8	22.0
乳腺科		—	8.1	10.5	12.2	15.1
脳神経外科		30.6	35.1	38.1	36.3	36.6
小児科		18.8	17.4	15.3	8.7	8.8
外科		25.8	21.7	21.4	22.8	23.4
呼吸器外科		8.8	10.7	11.8	9.3	9.8
形成外科		4.3	3.7	4.9	4.3	4.1
整形外科		37.5	39.4	40.7	40.6	53.8
皮膚科		16.5	15.6	18.0	16.8	16.5
泌尿器科		27.0	19.8	17.3	17.9	25.1
眼科		31.3	32.0	30.0	31.2	34.9
耳鼻咽喉科		47.3	47.6	49.5	45.9	50.2
心臓血管センター内科		45.7	56.6	56.3	55.1	55.9
リウマチ・膠原病内科		23.8	29.5	35.8	32.6	37.7
総合診療科		3.5	3.8	3.9	3.7	3.6
放射線科		6.4	7.5	7.7	8.5	7.8
麻酔科		15.2	15.8	17.7	16.7	18.7
救急科		9.7	11.4	8.2	14.4	19.4
アレルギー内科		—	—	—	—	7.6
合計		588.9	589.5	557.1	498.8	557.0

年度別診療科別入院延べ患者数

(単位：人)

診療科	年度	2017	2018	2019	2020	2021
総合診療内科		5,319	1	981	218	0
呼吸器内科		9,209	4,480	5,162	3,567	4,748
消化器内科		11,627	12,279	9,153	7,064	5,476
腎臓・高血圧内科		4,138	5,465	3,553	138	2,354
内分泌・糖尿病内科		5,366	5,683	2,945	2,625	3,122
乳腺科		—	544	725	838	633
脳神経外科		18,356	17,941	16,399	17,737	19,531
外科		9,386	9,904	11,042	10,347	11,818
呼吸器外科		4,027	5,094	4,659	3,572	6,573
整形外科		11,328	14,618	19,545	18,163	24,788
皮膚科		227	0	0	0	0
泌尿器科		1,612	0	0	199	1,720
眼科		767	878	729	416	616
耳鼻咽喉科		2,388	2,400	2,245	2,052	2,607
心臓血管センター内科		9,000	10,508	10,766	9,248	10,682
リウマチ・膠原病内科		3,146	4,096	4,143	3,000	3,649
総合診療科		2,435	2,517	2,789	2,328	3,255
麻酔科		550	588	655	2,418	6,241
救急科		3,320	2,354	3,844	5,120	3,217
アレルギー内科		—	—	—	—	230

年度別診療科別入院患者数：1日平均

(単位：人)

診療科	年度	2017	2018	2019	2020	2021
総合診療内科		14.6	0.0	2.7	0.6	0.0
呼吸器内科		25.2	12.3	14.1	9.8	13.0
消化器内科		31.9	33.6	25.0	19.4	15.0
腎臓・高血圧内科		11.3	15.0	9.7	0.4	6.5
内分泌・糖尿病内科		14.7	15.6	8.0	7.2	8.6
乳腺科		—	1.5	2.0	2.3	1.7
脳神経外科		50.3	49.2	44.8	48.6	53.5
外科		25.7	27.1	30.2	28.3	32.3
呼吸器外科		11.0	14.0	12.7	9.8	18.0
整形外科		31.0	40.0	53.4	49.8	68.0
皮膚科		0.6	0.0	0.0	0.0	0.0
泌尿器科		4.4	0.0	0.0	0.5	4.7
眼科		2.1	2.4	2.0	1.1	1.7
耳鼻咽喉科		6.5	6.6	6.1	5.6	7.1
心臓血管センター内科		24.7	28.8	29.4	25.3	29.3
リウマチ・膠原病内科		8.6	11.2	11.3	8.2	10.0
総合診療科		6.7	6.9	7.6	6.4	8.9
麻酔科		1.5	1.6	1.8	6.6	17.1
救急科		9.4	10.8	8.4	10.7	8.8
アレルギー内科		—	—	—	—	0.6
合計		280.5	276.7	269.3	240.9	304.9

年度別診療科別入院患者数

(単位：人)

診療科	年度	2017	2018	2019	2020	2021
総合診療内科		20.6	0.0	3.8	0.5	0.0
呼吸器内科		32.8	16.7	17.0	13.4	14.2
消化器内科		82.6	83.3	61.8	44.4	41.2
腎臓・高血圧内科		19.1	21.3	15.7	0.5	8.5
内分泌・糖尿病内科		15.3	19.0	6.3	5.5	5.5
乳腺科		—	4.9	6.4	8.3	7.2
脳神経外科		72.1	74.0	72.7	56.3	53.6
外科		39.9	41.3	43.9	42.3	43.8
呼吸器外科		15.0	18.6	19.0	13.1	22.3
整形外科		29.8	34.3	48.3	49.3	57.8
皮膚科		2.2	0.0	0.0	0.0	0.0
泌尿器科		8.3	0.0	0.0	1.5	10.4
眼科		21.4	24.3	20.0	14.8	16.5
耳鼻咽喉科		28.8	30.6	31.3	26.5	31.1
心臓血管センター内科		94.5	97.6	92.8	75.8	78.6
リウマチ・膠原病内科		15.8	14.8	15.7	13.4	14.8
総合診療科		8.2	8.3	11.3	9.0	7.7
麻酔科		2.3	1.6	2.8	9.8	23.1
救急科		23.3	23.2	18.1	17.5	22.3
アレルギー内科		—	—	—	—	3.1
合計		531.9	513.7	486.9	401.9	461.3

年度別診療科別退院患者数

(単位：人)

診療科	年度	2017	2018	2019	2020	2021
総合診療内科		20.7	0.0	3.3	0.8	0.0
呼吸器内科		37.4	17.9	18.5	13.4	16.3
消化器内科		80.2	81.3	59.8	43.7	41.3
腎臓・高血圧内科		17.5	21.1	16.4	0.3	7.9
内分泌・糖尿病内科		16.8	18.2	7.8	5.8	7.4
乳腺科		—	4.7	6.5	8.0	6.9
脳神経外科		69.8	73.7	72.3	53.9	51.5
外科		44.8	44.3	47.1	44.3	45.2
呼吸器外科		15.9	20.3	20.3	13.3	21.8
整形外科		29.8	35.6	49.3	46.8	57.8
皮膚科		2.2	0.0	0.0	0.0	0.0
泌尿器科		9.4	0.0	0.0	1.7	12.1
眼科		21.5	24.3	20.0	14.7	16.4
耳鼻咽喉科		30.1	31.3	32.3	26.3	31.8
心臓血管センター内科		92.2	94.9	90.3	75.8	75.1
リウマチ・膠原病内科		15.9	15.5	16.2	13.8	15.4
総合診療科		7.9	8.8	11.1	9.3	10.4
麻酔科		2.8	2.4	3.5	9.7	27.5
救急科		17.8	19.9	14.3	13.9	12.3
アレルギー内科		—	—	—	—	2.8
合計		532.8	514.1	489.0	395.5	459.8

年度別平均在院日数：診療科別

(単位：日)

診療科	年度	2017	2018	2019	2020	2021
総合診療内科		21.0	0.0	13.3	4.1	0.0
呼吸器内科		21.2	20.3	23.9	21.9	26.3
消化器内科		11.0	11.5	11.8	12.5	10.1
腎臓・高血圧内科		17.7	20.8	16.4	4.4	24.6
内分泌・糖尿病内科		27.4	25.1	35.2	40.2	39.6
乳腺科		—	8.7	9.0	8.8	6.5
脳神経外科		20.8	19.6	18.2	25.9	30.2
外科		17.7	18.6	19.3	19.1	21.4
呼吸器外科		20.7	21.5	18.8	21.9	24.6
整形外科		31.1	34.4	33.2	30.5	35.0
皮膚科		5.7	0.0	0.0	0.0	0.0
泌尿器科		16.7	0.0	0.0	3.6	12.2
眼科		2.0	2.1	2.1	1.5	2.2
耳鼻咽喉科		5.8	5.5	4.9	5.5	6.0
心臓血管センター内科		7.1	8.1	8.9	9.3	10.6
リウマチ・膠原病内科		15.8	23.2	21.3	17.7	19.2
総合診療科		24.4	24.4	20.3	20.8	29.0
麻酔科		17.3	26.1	16.5	20.4	19.6
救急科		13.7	14.7	15.3	21.1	15.0
アレルギー内科		—	—	—	—	5.9
全科		15.1	15.4	15.9	17.4	19.1

年度別平均在院日数：病棟別

(単位：日)

診療科	年度	2017	2018	2019	2020	2021
東1病棟		—	—	—	142.3	148.2
東2病棟		14.5	12.0	12.9	13.1	17.2
東3病棟		13.8	13.9	14.8	14.0	13.6
東4病棟		41.5	39.8	39.6	35.3	39.3
西1病棟		20.8	17.8	17.0	20.7	19.9
西2病棟		11.8	17.2	17.7	17.7	18.8
西3病棟		9.6	9.9	10.3	10.5	10.5
急性期ケアユニット		17.6	39.7	26.5	11.8	17.0
脳卒中ケアユニット		—	16.9	15.5	18.7	18.8
B3病棟		—	—	—	26.9	19.9
全病棟		15.1	15.4	15.9	17.4	19.1

年度別病床利用率

(単位：%)

診療科	年度	2017	2018	2019	2020	2021
東1病棟 (38)		—	—	—	55.7	85.6
東2病棟 (53)		88.6	81.1	79.3	37.8	44.5
東3病棟 (52)		96.0	91.9	88.3	74.9	87.3
東4病棟 (60)		92.3	95.5	93.7	66.9	92.8
西1病棟 (34)		99.5	95.0	89.8	79.5	82.2
西2病棟 (47)		92.5	96.8	98.6	93.9	99.1
西3病棟 (46)		94.8	95.8	91.5	70.5	90.1
急性期ケアユニット (8)		80.1	81.5	73.0	72.7	82.0
脳卒中ケアユニット (9)		—	98.4	99.5	99.7	98.9
B3病棟 (20)		—	—	—	59.2	82.2
全病棟 (367)		91.4	92.2	89.9	70.2	83.1

年度別死亡数

(単位：人)

区分	年度	2017	2018	2019	2020	2021
死亡数		332	257	269	268	480

年度別解剖件数

(単位：人)

区分	年度	2017	2018	2019	2020	2021
解剖数		4	4	5	3	4

年度別救急車受入れ件数

(単位：件)

区分	年度	2017	2018	2019	2020	2021
救急車受入れ件数		5,249	5,326	5,357	3,814	4,544

年度別診療科別手術件数：（手術室実施）

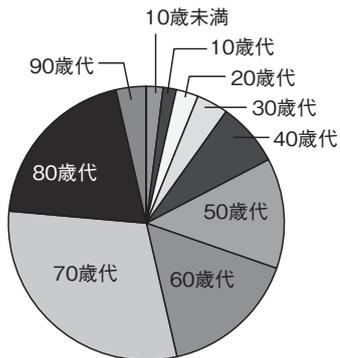
(単位：件)

診療科	年度	2017	2018	2019	2020	2021
腎臓・高血圧内科		61	58	33	8	22
脳神経外科		141	134	114	111	91
外科		368	345	357	346	332
呼吸器外科		80	81	89	52	83
形成外科		2	0	0	0	0
整形外科		278	344	498	446	638
泌尿器科		62	1	0	12	109
眼科		259	287	238	178	193
耳鼻咽喉科		225	226	216	160	197
乳腺科		—	41	63	59	63
心臓血管センター内科		0	0	1	0	7
麻酔科		0	0	1	4	6
合計		1,476	1,517	1,610	1,376	1,741

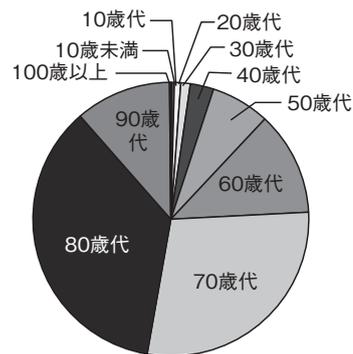
2021年度患者年齢別比率(単位：%)

年代	項目	外来	入院
10歳未満		2.0%	0.1%
10歳代		1.5%	0.3%
20歳代		2.6%	0.7%
30歳代		3.7%	1.1%
40歳代		7.5%	2.8%
50歳代		13.0%	6.9%
60歳代		16.1%	12.3%
70歳代		29.9%	28.6%
80歳代		20.0%	35.8%
90歳代		3.5%	11.3%
100歳以上		0.0%	0.2%

外来患者年齢別比率



入院患者年齢別比率



2021年度地区別比率 (単位：%)

地区	保土ヶ谷区	南区	西区	戸塚区	旭区	中区	港南区	神奈川区	磯子区	泉区	港北区	瀬谷区
比率	34.3%	27.7%	13.8%	3.9%	2.5%	2.9%	2.3%	1.7%	1.8%	0.5%	0.6%	0.7%

地区	都筑区	緑区	青葉区	金沢区	鶴見区	栄区	市外	県外
比率	0.4%	0.5%	0.2%	0.4%	0.5%	0.3%	2.4%	2.4%

年度別紹介件数：診療科別

(単位：件)

診療科	年度	2017	2018	2019	2020	2021
総合内科		475	36	139	35	27
呼吸器内科		401	439	455	375	420
消化器内科		1,012	1,171	939	891	862
腎臓・高血圧内科		206	312	251	93	184
内分泌・糖尿病内科		209	254	51	35	106
血液浄化		—	—	—	—	—
循環器内科		—	—	—	—	—
脳神経外科		294	307	359	295	322
小児科		30	45	33	10	8
外科		335	181	200	248	250
呼吸器外科		104	131	151	121	214
形成外科		33	23	36	46	44
整形外科		406	431	575	648	872
皮膚科		89	78	80	107	96
泌尿器科		257	204	217	319	365
産婦人科		—	—	—	—	—
眼科		213	199	186	154	210
耳鼻咽喉科		609	574	646	552	610
乳腺科		—	178	208	171	173
心臓血管センター内科		1,163	1,399	1,377	1,235	1,300
膠原病・リウマチ内科		298	274	279	254	290
総合診療科		97	100	109	104	93
ドック・健診科		—	—	—	—	—
放射線診断科		1,858	2,193	2,208	2,275	2,083
麻酔科		89	121	107	271	629
アレルギー内科		—	—	—	—	221
救急科		109	134	103	114	108
脳卒中科		—	—	—	—	—
総計		8,287	8,784	8,709	8,353	9,487

年度別紹介件数：即日入院件数

(単位：件)

診療科	年度	2017	2018	2019	2020	2021
総合内科		88	0	14	5	1
呼吸器内科		64	51	52	49	53
消化器内科		162	174	141	123	99
腎臓・高血圧内科		45	52	44	1	22
内分泌・糖尿病内科		22	36	34	3	8
血液浄化		—	—	—	—	—
循環器内科		—	—	—	—	—
脳神経外科		70	88	95	66	83
小児科		0	0	0	0	0
外科		49	57	75	80	99
呼吸器外科		42	63	58	50	134
形成外科		0	0	0	0	0
整形外科		49	41	83	119	120
皮膚科		5	0	1	0	1
泌尿器科		12	0	1	5	16
産婦人科		—	—	—	—	—
眼科		0	1	1	1	1
耳鼻咽喉科		34	51	54	58	79
乳腺科		—	0	4	1	0
心臓血管センター内科		139	180	170	154	179
膠原病・リウマチ内科		20	23	23	22	19
総合診療科		86	85	85	92	75
ドック・健診科		—	—	—	—	—
麻酔科		11	6	13	65	120
アレルギー内科		—	—	—	—	6
救急科		46	51	47	64	63
脳卒中科		—	—	—	—	—
総計		944	959	995	958	1,178

＜悪性新生物＞2021年4月1日から2022年3月31日までの退院サマリ完成分5518名の中で、悪性新生物による退院患者847名の発生部位/世代別/性別件数

	00～19		20～29		30～39		40～49		50～59		60～64		65～69		70～74		75～79		80～		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
C02 舌のその他及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞	1						1														
C03 歯肉の悪性新生物＜腫瘍＞	1																			1	
C10 中咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞	2										1										
C11 鼻＜上＞咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞	1																				
C13 下咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞	6														3					1	
C15 食道の悪性新生物＜腫瘍＞	20						1		1						6					4	
C16 胃の悪性新生物＜腫瘍＞	75								1		3				12					5	
C17 小腸の悪性新生物＜腫瘍＞	10								1						1					1	
C18 結腸の悪性新生物＜腫瘍＞	125						2		5		11				10					17	
C19 直腸S状結腸移行部の悪性新生物＜腫瘍＞	8						1				3				1					3	
C20 直腸の悪性新生物＜腫瘍＞	49						3		6		5				7					4	
C21 肛門及び肛門管の悪性新生物＜腫瘍＞	1														1						
C22 肝及び肝内胆管の悪性新生物＜腫瘍＞	31						1				1				6					10	
C23 胆のう＜嚢＞の悪性新生物＜腫瘍＞	9						2								1					4	
C24 その他及び部位不明の胆道の悪性新生物＜腫瘍＞	30														2					9	
C25 脾の悪性新生物＜腫瘍＞	69						1		3		4				7					14	
C30 鼻腔及び中耳の悪性新生物＜腫瘍＞	1																			1	
C32 喉頭の悪性新生物＜腫瘍＞	2														1					1	
C34 気管支および肺の悪性新生物＜腫瘍＞	123					1	3		2		6				10					23	
C37 胸腺の悪性新生物＜腫瘍＞	1										1										
C44 皮膚のその他の悪性新生物＜腫瘍＞	2								2												
C45 中皮腫	2																				
C48 後腹膜及び腹膜の悪性新生物＜腫瘍＞	2																			2	
C49 その他の結合組織及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞	5					1			1						1					1	
C50 乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	97						1		12		8				20					20	
C53 子宮頸部の悪性新生物＜腫瘍＞	6						2		1		1				1					1	
C54 子宮体部の悪性新生物＜腫瘍＞	3								2											1	
C56 卵巣の悪性新生物＜腫瘍＞	4						1		1						1					1	
C61 前立腺の悪性新生物＜腫瘍＞	55								8		4				13					13	
C64 腎盂を除く腎の悪性新生物＜腫瘍＞	3										1				1					1	
C65 腎盂の悪性新生物＜腫瘍＞	8														2					2	
C66 尿管の悪性新生物＜腫瘍＞	3														1					1	
C67 膀胱の悪性新生物＜腫瘍＞	36								2		1				3					5	
C71 脳の悪性新生物＜腫瘍＞	5								1						1					1	
C73 甲状腺の悪性新生物＜腫瘍＞	4					1														2	
C78 呼吸器および消化器の続発性悪性新生物＜腫瘍＞	13														2					4	
C79 その他の部位及び部位不明の続発性悪性新生物＜腫瘍＞	13										1				4					2	
C80 部位が明示されていない悪性新生物＜腫瘍＞	6														1					1	
C83 非ろ＜濾＞胞性リンパ腫	4								1		1				1					1	
C85 非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	5								1						1					2	
C90 多発性骨髄腫及び悪性形質細胞性新生物＜腫瘍＞	4								1						2					1	
C92 骨髄性白血病	1																				1
D05 乳房の上皮内癌	1																				1
(合計)	847	0	0	0	1	2	1	7	34	34	41	16	60	32	97	65	92	67	142	129	

疾病（大分類）別・診療科別・性別 退院患者数

集計期間：2021/04/01～2022/03/31

	合計	総合 内科	呼吸器 内科	消化器 内科	腎臓・高血 圧内科	内分泌・ 糖尿病内科	脳神経 外科	小児科	外科	呼吸器 外科	形成 外科	整形外科	皮膚科	泌尿 器科	眼科	耳鼻 咽喉科	乳腺科	心臓血管セ ンター内科	リウマチ・ 膠原病内科	総合診 療科	ドック・ 健診科	麻酔科	アレルギー 一内科	救急科
合計	3,034	121	286	63	51	379		335	162			243		105	88	221		62	60		186	14	74	
男	2,484	75	209	32	38	239		207	99		450		40	109	160		317	123	65		144	20	74	
女	69	7	7	7	1	1		2	26				4	2	7		2				4		7	
01：感染症及び寄生虫症	82	9	12	5	3	1		101	19		2		72		11		3		3		184		2	
02：新生物	492	14	77			7		61	25		3		13		7		81		1		133		2	
03：血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害	10		2					4											2					
04：内分泌・栄養および代謝疾患	12		1					4	1										1				3	
05：精神および行動の障害	36		1	2	31			4										5	1				5	
06：神経系の疾患	51		1	2	19	2		4									4	2	1				2	
07：眼および付属器の疾患	2					1																		
08：耳および乳突突起の疾患	7					1		1									1		1				1	
09：循環器系の疾患	80		1			2		1											9				1	
10：呼吸器系の疾患	106		1	1	1	41		8							43				1				2	
11：消化器系の疾患	69		1	1	1	21		14	2						18				9				1	
12：皮膚および皮下組織の疾患	91				1	1									88				1					
13：筋骨格系および結合組織の疾患	110					1								1	107									
14：腎原路生殖器系の疾患	88					6																		
15：妊娠、分娩および産じょく<構>	80		1			7																		
16：周産期に発生した病態	864	3	7	6	3	269		2	4										15				3	
17：先天奇形、変形および染色体異常	499	3	4	1	165			1	6										284	7	27			
18：症状、徴候および異常臨床所見異 常検査所見で他に分類されないもの	278	85	2	4	3			80							55		9	9	2				6	
19：損傷、中毒およびその他の 外因の影響	168	49			3			2	24						44		6	12	1				23	
20：傷病および死亡の外因	405	1	184	1	1			2							3		1	2	1				2	
21：健康状態に影響をおよぼす要 因および保健サービスの利用	255	1	136		1			209																
22：特殊目的用コード	34	1		3	1			5							5		1	2	4				2	
???分類不明	21	1						3							2		1	7	2				2	
	154	1	1	1	1	4		2											19				9	
	242	1	1	1	3	12		7											63	11	5		11	
	95	4	3	35	5			1						30					2	2	3		8	
	81		3	16	4	1		2						22					4	15			13	
	4			1																				
	1		1											2										
	40	4	1	2	4	6		2	1														6	
	44	2	2	1	3	12		2	1														2	
	218	1				43		1	7					1									3	
	363				1	26		5	8														9	
	7		1					2																
	4							3																
	26	1																						
	13																							

2021年4月から2022年3月までの退院サマリ完成分5,518名を対象としたものである。

疾病（大分類）別・診療科別・性別 退院患者数

集計期間：2021/04/01～2022/03/31

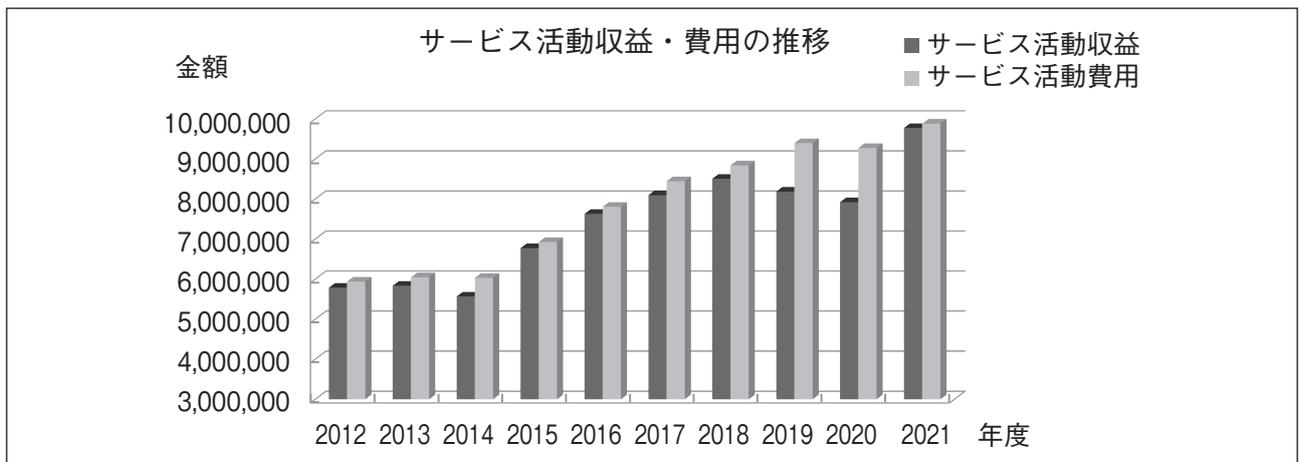
	合計	総合内科	呼吸器 内科	消化器 内科	腎臓・高 血圧内科	内分泌・ 糖尿病内科	脳神経 外科	小児科	外科	呼吸器 外科	形成外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻 咽喉科	乳腺科	心臓血管 センター内科	リウマチ・ 膠原病内科	総合 診療科	麻酔科	アレルギー 一内科	救急科
合計	3,034	286	121	63	51	379	379	335	162	243	105	88	221	83	584	62	60	186	14	74			
01：感染症及び寄生虫症	69	7	7	7	3	1	1	2	26	450	40	109	160	83	317	123	65	144	20	74			
02：新生物	492	14	77	5	3	7	7	101	19	2	72	11	11	81	2	3	3	184	2	6			
03：血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害	397	13	48	3	3	3	3	61	25	3	13	7	7	81	1	3	1	133	2	2			
04：内分泌、栄養および代謝疾患	10	2	1	1	1	1	1	4	4	4	4	4	4	4	3	1	1	1	3	3			
05：精神および行動の障害	51	1	2	2	31	4	4	1	1	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	5			
06：神経系の疾患	36	1	2	19	2	2	2	4	4	1	1	1	1	4	4	2	2	2	2	2			
07：眼および付属器の疾患	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
08：耳および乳様突起の疾患	7	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
09：循環器系の疾患	106	1	1	1	1	41	41	8	8	8	8	43	43	9	9	9	9	2	1	1			
10：呼吸器系の疾患	69	1	1	1	1	21	21	14	14	14	14	18	18	1	1	1	1	9	1	1			
11：消化器系の疾患	91	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	88	88	1	1	1	1	1	1	1			
12：皮膚および皮下組織の疾患	110	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	107	107	2	2	2	2	2	2	2			
13：筋骨格系および結合組織の疾患	88	1	1	3	1	6	6	5	5	5	5	81	81	1	1	1	1	1	1	1			
14：腎尿路生殖器系の疾患	80	1	1	6	3	269	269	2	4	2	2	71	71	15	15	15	15	3	3	3			
15：妊娠、分娩および産じょく<褥>	864	3	7	6	3	165	165	2	4	4	4	4	4	552	552	284	284	7	7	7			
16：周産期に発生した病態	499	85	2	4	3	80	80	1	6	6	6	1	1	284	284	9	9	2	2	2			
17：先天奇形、変形および染色体異常	278	49	1	4	3	3	3	2	24	24	24	55	55	9	9	9	9	2	2	2			
18：症状、徴候および異常臨床所見、異常検査所見で他に分類されないもの	168	1	184	1	1	1	1	209	209	209	209	3	3	6	6	6	6	12	12	12			
19：損傷、中毒およびその他の外因の影響	405	1	136	1	1	1	1	111	111	111	111	5	5	2	2	2	2	1	1	1			
20：傷病および死亡の外因	34	1	3	3	1	3	3	5	5	5	5	2	2	1	1	1	1	2	2	2			
21：健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	21	1	1	1	1	4	4	3	3	3	3	3	3	1	1	1	1	7	7	7			
22：特殊目的用コード	154	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	43	43	43			
???:分類不明	242	4	3	35	5	7	7	7	7	7	7	142	142	30	30	30	30	63	63	63			
	95	4	3	16	4	1	1	2	2	2	2	1	1	22	22	22	22	2	2	2			
	81	3	3	16	4	1	1	2	2	2	2	1	1	4	4	4	4	15	15	15			
	4	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1	1	2	2	2	2	1	1	1			
	1	1	1	2	4	6	6	2	1	1	1	7	7	5	5	5	5	2	2	2			
	40	4	1	2	4	6	6	2	1	1	1	6	6	7	7	7	7	4	4	4			
	44	2	2	1	3	12	12	2	1	1	1	155	155	1	1	1	1	2	2	2			
	218	1	1	1	1	43	43	1	7	7	7	1	1	1	1	1	1	2	2	2			
	363	1	1	1	1	26	26	5	8	8	8	1	1	1	1	1	1	2	2	2			
	7	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1	1	3	3	3	3	1	1	1			
	4	1	1	1	1	1	1	3	3	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
	26	1	1	1	1	1	1	24	24	24	24	1	1	1	1	1	1	2	2	2			
	13	1	1	1	1	1	1	13	13	13	13	1	1	1	1	1	1	1	1	1			

2021年4月から2022年3月までの退院サマリ完成分5,518名を対象としたものである。

財務統計ハイライト

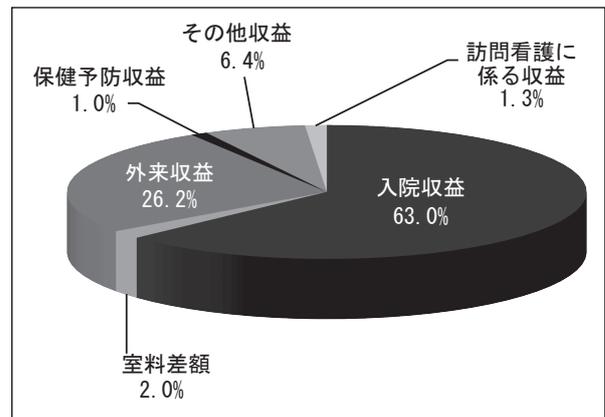
サービス活動収益・費用の推移（内部取引控除前）

年度	サービス活動収益（千円）	対前年比	サービス活動費用（千円）	対前年比
2012	5,790,489	101.8%	5,943,198	104.3%
2013	5,839,232	100.8%	6,050,310	101.8%
2014	5,570,368	95.4%	6,034,859	99.7%
2015	6,777,159	121.7%	6,931,513	114.9%
2016	7,632,739	112.6%	7,809,810	112.7%
2017	8,100,126	106.1%	8,446,671	108.2%
2018	8,509,516	105.1%	8,843,764	104.7%
2019	8,188,301	96.2%	9,399,903	106.3%
2020	7,925,349	96.8%	9,279,004	98.7%
2021	9,777,513	123.4%	9,884,629	106.5%

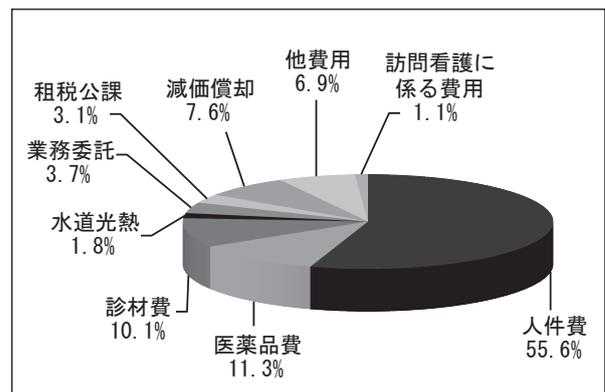


○ サービス活動収益・費用の内訳（2021年度）

	サービス活動収益(千円)	占有率
入院収益	6,162,977	63.0%
室料差額	194,883	2.0%
外来収益	2,564,147	26.2%
保健予防収益	101,243	1.0%
その他収益	622,296	6.4%
訪問看護に係る収益	131,967	1.3%
合計	9,777,513	100%



	サービス活動費用(千円)	対医収比
人件費	5,438,965	55.6%
医薬品費	1,100,103	11.3%
診療・療養材料費	983,680	10.1%
水道光熱費	172,962	1.8%
業務委託費	364,069	3.7%
租税公課	298,985	3.1%
減価償却費	742,769	7.6%
その他費用	670,758	6.9%
訪問看護に係る費用	112,338	1.1%
合計	9,884,629	101.1%



サービス活動増減差額 -107,116 -1.1%

※2014年度より せいでい訪問看護ステーション横浜を含む

※2015年度より 新社会福祉法人会計基準へ移行

※訪問看護に係る収益・費用・・・訪問看護ステーションにおけるサービス活動収益・費用を掲載

リウマチ・膠原病センター

センター長：山田 秀裕

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

医師	3名
部長	山田 秀裕 (1981年)
主任医長	伊東 宏 (2005年)
医員	先崎香朱実 (2016年)
リウマチケア看護師	4名
リウマチ専門薬剤師	1名
検査技師	1名
リハビリテーション療法士	2名
医師事務補佐	2名
医事課と地連の事務	各1名

業務内容

膠原病やリウマチ性疾患を対象に、多職種連携診療チームによる最先端かつ安全性の高い診療を提供する。スタッフ間の連携を円滑に行い、診療の質を高める。毎月第1火曜日にセンター運営会議を開催し、情報共有と現状での問題点の把握、今後の方針を相談する。関節リウマチ患者を対象としたリウマチ包括ケアを推進する。地域連携室や総務課と共同して広報活動やホームページ作成を行う。

多職種が連携したチーム医療を推進するため、我が国初のリウマチ包括ケア外来を2020年5月に開設以来、毎週火曜の午後に診療を行った。そこでは、関節リウマチと診断された患者さんに対し、看護師、薬剤師、リハビリテーション療法士とともに、関節保護や関節の運動療法、薬物療法、感染症などの合併症予防対策、口腔ケア、気道ケア、消化管ケアなどを包括的に指導した。リウマチ看護外来、フットケア外来もこれまで同様に継続した。

また、地域連携室と共同で、各種WEB講演会、近隣クリニックとのオンライン面談などによる地域連携、ホームページの更新など、広報活動を積極的に行った。

新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響で、診療間隔を3ヶ月に延長し、電話診療を積極的に採用した。一時的に外来受診者数が減少したが、その影響は軽微であった。また、免疫抑制療法を行う患者さんに対し、日頃から多職種連携して感染予防指導が徹底されていたためか、重症感染症を合併する患者さんはほとんど見られなかった。

実績

図1. 月別外来診療実績 2016/4~2022/3

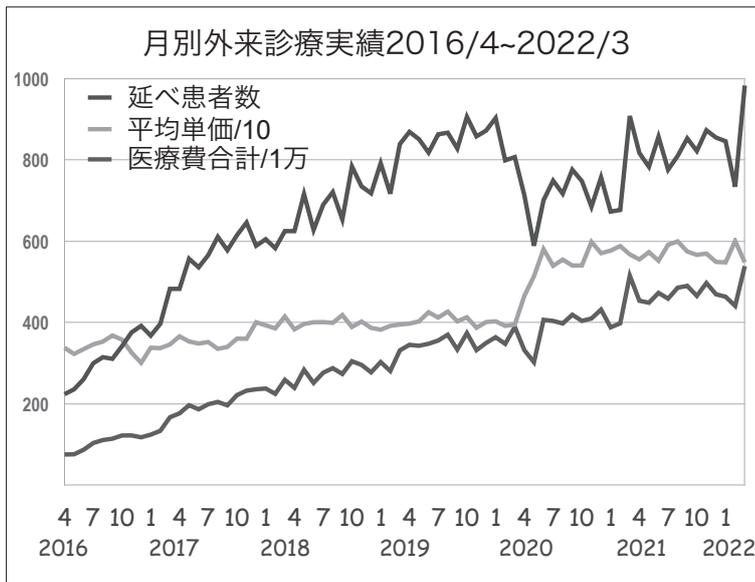


図2. 月別外来診療実績 2016/4~2022/3

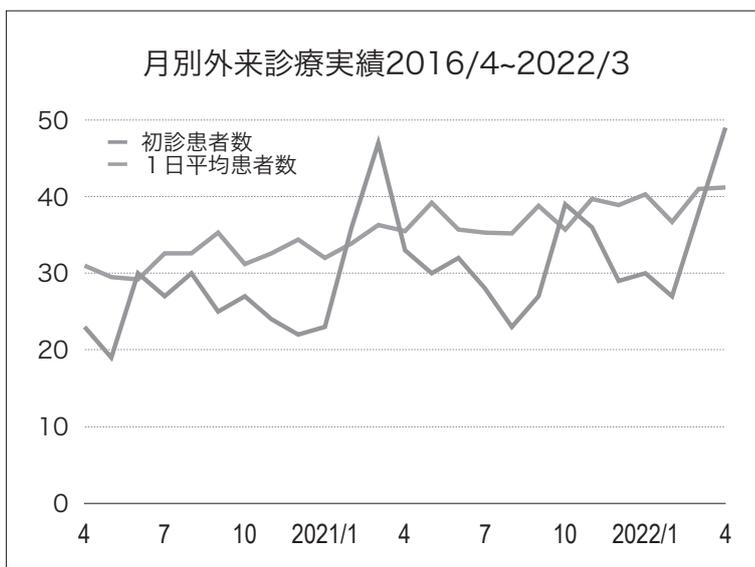
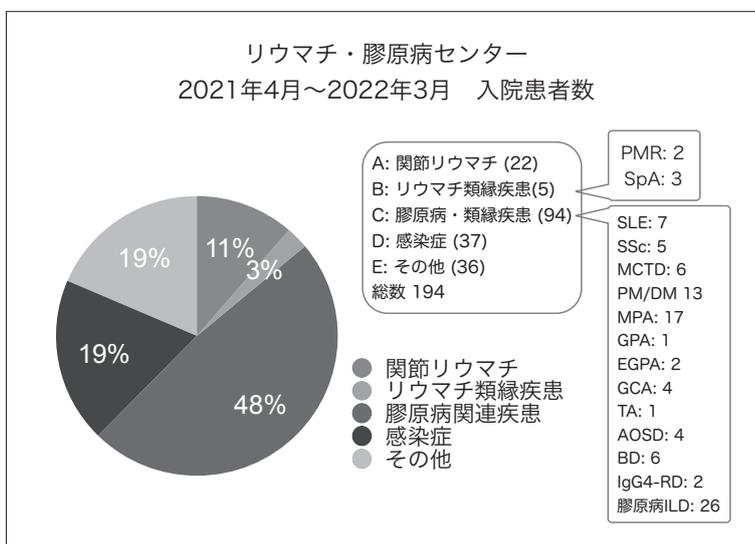


図3. 入院患者数 2021/4~2022/3



脳神経血管・ 高次脳機能センター

センター長：鈴木 祥生

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

脳神経血管・高次脳機能センター長兼院長補佐	鈴木 祥生 (1992年)
脳神経血管・高次脳機能センター副センター長	
脳血管内治療科部長	佐々木 亮 (2001年)
脳神経外科部長	青井 瑞穂 (1992年)
主任医長	荒木 孝太 (2009年)

業務内容

急性期脳梗塞やクモ膜下出血を始めとした急性期脳血管障害患者に迅速に対応すべく「脳卒中ホットライン」を有効に運用しながら、直達手術や脳血管内手術などを患者の状況に合わせ治療方法を選択し行った。また、脳血管障害は脳卒中ケアユニット (SCU) で入院診療を行い、全身状態の重症な患者は急性期ケアユニット (ACU) で治療を行った。脳卒中ケアユニット (SCU) の稼働と連携し早期リハビリテーションを充実させた。

回復期リハビリテーション病棟の新設に伴い、綿密に連携しながら、急性期治療から機能障害の回復まで一貫した治療を行い治療成績の向上に貢献したと同時に患者の満足度も向上した。外来では「高次脳機能外来」「物忘れ外来」を新設し、認知症などの高次脳機能障害の診断と治療を強化し、そのチームでの活動を病棟にまで拡げた。

2021年度総括

2016年からセンターが稼働、2018年8月には脳卒中ケアユニット (SCU) 開設、2020年7月から回復期リハビリテーション病棟オープン、その後診療体制の充実により2021年9月からSCU9床への増床を行った。それにより、「急性期治療から機能回復まで一貫した治療体制」という当センターの最終目標が達成され、患者満足度も向上した。

現在、新型コロナウイルス感染症の蔓延により各病院で診療制限などが行われたが、当センターでは急性期脳卒中治療に関して診療を継続、入院件数、手術件数はある程度低下を認めたものの、一定数の成果は維持できている状況である。

今後は、急性期から慢性期と包括的な脳卒中診療を軸として、周辺の病院・クリニックなどの医療機関、救急隊などとの関係性を向上し、より地域のため貢献できるセンターを目標とする。

乳腺センター（乳腺科）

センター長：徳田 裕

人員構成（2021年4月1日時点 括弧内：医籍）

乳腺センター長	徳田 裕（1978年）
乳腺科部長	劉 孟娟（1994年）
看護師	2名
放射線技師	1名
検査技師	1名
事務職	6名

業務内容

当科は乳腺の悪性疾患から乳腺症、乳腺炎、乳腺膿瘍、乳腺線維腺腫、葉状腫瘍、女性化乳房症などの良性疾患まで対応し、乳がんを中心に診療している。特に、初回の受診時にマンモグラフィ・乳房超音波検査、必要に応じて受診当日に細胞診や組織診を行い迅速な診断を行ってきた。また、遺伝カウンセリング外来を設置し、東海大学医学部遺伝子診療科と連携するとともに、BRCA1/2遺伝子検査の実施施設の認定を受けている。さらに、コニカミノルタ株式会社と共同の遺伝性腫瘍多遺伝子パネル検査の実施委託施設である。

乳がんを発症した症例については、標準的な乳房部分切除術、乳房切除術、腋窩リンパ節郭清術、センチネルリンパ節生検、一期的乳房再建術が実施可能である。また、術後の再発予防のための薬物療法や進行・再発症例での薬物療法も実施している。さらに、BRCA1/2陽性症例でのリスク低減乳房切除、両側卵巣切除も連携している東海大学医学部付属病院で実施可能となっている。

2021年度総括

乳腺セカンドオピニオン外来

2020年度より、セカンドオピニオン外来を毎週木曜日午後、完全予約制にて開始した。予約の窓口はすべて地域医療連携室に集約し、あらかじめ紹介状、画像等の資料を入手し担当医に提示したうえで予約日時を決定し依頼者に返信する。ま

た、受診の同意書、費用に関する覚書も作成した。2021年度は、受診者は1名であった。

遺伝カウンセリング外来

がんゲノム医療拠点病院である東海大学医学部付属病院遺伝子診療科と連携するとともに、同科所属の臨床遺伝専門医高橋千果先生（医学部医療倫理学教室准教授）を非常勤医師として招聴し、遺伝カウンセリング外来を2020年4月より毎週水曜日に開始した。

遺伝子検査の同意説明文書の作成、医療スタッフ育成のための勉強会等を実施し、BRCA検査の保険適応のための施設認定を獲得した。2021年度のBRCA1/2検査数は、25例であった。

また、コニカミノルタ株式会社と共同の遺伝性腫瘍多遺伝子パネル検査を1名に実施した。

センチネルリンパ節生検用RI注射の新依頼施設

センチネルリンパ節生検実施症例数の増加にともない、新たにみなと赤十字病院にRI注射を委託し、本格的に運用を開始した。2021年度の症例数は、市大センター病院32例、みなと赤十字病院16例であった。

ステレオマンモトーム生検

マンモグラフィで発見されたカテゴリ3以上の微細石灰化巣に対するステレオマンモトーム生検を2020年2月13日より開始し、第2、3木曜日午後各2例の予約で継続している。2021年度の実績は、27例であった。

実績

乳がん手術症例	56例
乳房部分切除術	41例
センチネルリンパ節生検	41例
腋窩リンパ節郭清	0例
乳房切除術	15例
センチネルリンパ節生検	9例
腋窩リンパ節郭清	6例

人工関節センター (関節外科)

センター長：竹下 宗徳

人員構成 (2021年4月1日時点)

人工関節センター長 関節外科部長
竹下 宗徳 (2003年)

概 要

生まれ育ち保土ヶ谷への思い入れが強く2016年に赴任した。

整形外科は分野がとても広い科なので、一般整形の診療も行うが、専門的手術として股関節や膝関節への人工関節手術を行っている。変形性股関節症や特発性大腿骨頭壊死症といった疾患に対し、どんな末期症例でも、最小侵襲手術 (MIS) での人工股関節全置換術 (THA) を、一番早期復帰可能な、殿筋を一切切らない特殊な手術手技で、全例行っている。膝も適応があれば低侵襲な人工膝関節単顆置換術を選択している。特殊な手術手技の恩恵で、脱臼や出血といったリスクが減ることでドレンは廃止でき、自己血貯血や術中術後回収血まで省略でき、術翌日からリハビリ開始が可能となった。

人工関節手術数は年々増加の一途だが、地域から人工関節手術相談でご紹介いただく例が年々増えている。今後もより一層、心をこめてご紹介に対応させて頂く所存である。

2021年は再生医療法に基づいた非常に厳しい基準をクリアして、当院で、変形性関節症への再生医療が軌道にのった1年でもあった。年間54関節への再生医療が行われた。次世代PRP療法による再生医療を、膝だけでなく股関節にも行える病院は全国的にまだまだ少ないこともあり、新聞や雑誌の取材を受けるなど、神奈川県全域から反響あり、小田原や真鶴、川崎、横須賀から治療に来院された。

2021年は、大腿骨近位骨折と椎体骨折の入院患者さんに、当院独自の骨粗鬆症リエゾンサービス

(OLS) を開始した。包括的に骨粗鬆症予防改善、二次骨折を防ぐの取り組みであり、当院では、医師、薬剤師、MSW、看護師、リハ、放射線技師、管理栄養士を含めた多職種での熱い連携で行っている。当院のOLSは、横浜市内で3番目に独自に立ち上げたものなので、その後、2022年度診療報酬改定での二次性骨折予防継続管理料導入は朗報で、さらに脚光を浴びることとなった。

当科は現在も千葉大整形医局の専門研修連携施設であり、2021年4月には、手外科専門医である木内医師が赴任した。2020年赴任した大田医師同様、私の前の職場からの赴任で、気心知れた後輩である。主に上肢 (肘・手・指) の専門的な診断や治療、手術を担当している。次は肩の専門的な手術に応えるべく同様の企画中である。

同時に2019年から当科は、北里大整形医局の専門研修連携施設にもなり、その一貫で2021年は整形後期研修医である吉田医師が赴任した。

2021年度総括

手術内容などの専門的な範疇はもちろんのこと、患者満足度を高くするために多職種と良い雰囲気でも熱く連携したい。「聖隷は主治医の先生も、皆さん (多職種) も良かったわ、聖隷で手術受けてほんとによかった、聖隷に紹介してくれて先生ありがとうございます！」と紹介元の医院へ、患者さんが退院の報告に受診頂けるよう今後も精進したい。

そして整形外科全体、全部の科、病院全体でさらに聖隷のファンを増やしたい。

実 績

再生医療	54関節
整形外科手術	650例
人工股関節置換術	78例
人工骨頭置換術	25例
人工膝関節置換術	44例
人工膝単顆置換術	2例
人工股関節再置換術	5例
人工膝関節再置換術	5例

画像診断センター

センター長・放射線診断科部長：新美 浩
副センター長・診療放射線技師長：釜谷 秀美

人員構成 (2021年4月1日時点)

放射線診断科常勤医	3名
放射線診断科非常勤医	9名
診療放射線技師	19名
内訳 マンモグラフィ認定技師	5名
血管撮影・インターベンション専門技師	2名
磁気共鳴専門技術者	1名
X線CT認定技師	2名
肺がんCT検診認定技師	1名
救急撮影認定技師	1名
第1種放射線取扱主任者	3名
放射線管理士	3名
放射線機器管理士	2名
医用画像情報精度管理士	1名
Ai認定診療放射線技師	2名
衛生工学衛生管理者	1名
シニア診療放射線技師	1名
アドバンスド診療放射線技師	3名
事務兼検査補助員	3名

業務内容

- 単純撮影装置、乳房撮影装置、骨密度測定装置、X線テレビ装置、血管撮影装置、CT装置、MRI装置を用いた診断目的画像撮影
- 各装置を用いた放射線診断技術の治療的応用 (IVR) 時の機器操作
- 放射線機器の保守管理業務
- 撮影画像管理業務
- 高精細モニタ管理業務
- 放射線被ばく低減のための管理業務
- 放射線検査に対する相談窓口業務
- 撮影技術等の学術研究

- ・院外からの紹介検査 (実績)
CT：年間1,904件 (対前年比92.1%)
MRI：年間184件 (対前年比91.5%)
- ・2021年4月からMMGにCADを取り入れ、乳腺エコーの診断能を高める共同研究を行った。

実績

(月平均件数)

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	前年度比(%)
一般撮影	胸部・腹部	2,524	2,524	2,254	1,754	1,956	111.5
	骨	1,069	1,135	1,204	1,056	1,224	115.9
	マンマ軟線	93	100	112	127	148	116.5
	ポータブル	622	651	711	566	670	118.4
	骨塩定量	32	52	42	53	69	130.2
	小計	4,340	4,462	4,323	3,556	4,067	114.4
造影	G I	18	30	29	42	47	111.9
	注腸	5	5	4	6	3	50.0
	ブロック	7	9	11	11	9	81.8
	T Vその他	76	78	69	69	76	110.1
	小計	106	122	113	128	135	105.5
C T	件数	1,544	1,615	1,542	1,742	1,831	105.1
	造影率	25.1%	24.3%	22.3%	18.0%	16.6%	92.2
M R I	件数	477	515	568	531	549	103.4
	造影率	6.5%	6.0%	5.2%	5.1%	5.0%	98.0
A N G I O	循環器	76	81	70	54	54	100.0
	頭頸部	38	40	29	17	18	105.9
	体幹部	5	3	2	2	1	50.0
	四肢	5	4	4	4	0	0.0
	小計	124	128	105	77	73	94.8

内視鏡センター

センター長：吹田 洋將

人員構成 (2021年4月1日時点)

医師	10名
消化器内科	4名
呼吸器内科	1名
呼吸器外科	3名
外科	1名
総合診療科	1名
看護師	16名 (うち内視鏡技師 6名)
臨床工学技士	19名 (うち消化器・内視鏡センター担当5名)
看護助手	1名

業務内容

当センターは、2007年4月にそれまでの内視鏡検査室を整備して、内視鏡センターとして開設され、2012年4月には消化器・内視鏡センターと名称が変更された。

2019年7月には新外来棟オープンに合わせ、センター(内視鏡室)も新外来棟に移った。

患者さんが安全、快適かつ迅速に内視鏡検査や内視鏡治療を受けられるように、専用の待合室、更衣室、リクライニングシートを兼ね備えたリカバリールームを完備している。同時に消化管早期癌の診断において有用な最先端の内視鏡システム(NBI)や拡大内視鏡の導入、そして、消化管腫瘍に対する内視鏡的ポリープ切除術、内視鏡的粘膜切除術(EMR)、内視鏡的粘膜下層切開剥離術(ESD)、内視鏡的乳頭括約筋切開術(EST)などの治療内視鏡を安全、迅速に行える高周波装置VIO300を導入している。

取り扱う内視鏡機材は、上部・下部の消化管内視鏡や経乳頭的胆管膵管造影(ERCP)用の胆膵内視鏡だけでなく、気管支鏡を含む。特に消化器内科においては、胆道系処置を積極的に行っているため、X線透視下での内視鏡検査治療も頻回に施行している。

当センター所属の医師は消化管については消化

器内科を中心として、一部を外科が担当し、気管支鏡については呼吸器内科と呼吸器外科が担当している。また人間ドックや検診での内視鏡検査では総合診療科の医師も内視鏡検査を行っている。特に人間ドックや検診の患者に対しては、苦痛のない検査目的で細径内視鏡検査を心掛けている。消化器内視鏡技師の専門資格を有する看護室スタッフ・臨床工学技士が検査の介助を担当して、円滑に業務を遂行している。

2021年度総括

患者の待ち時間や検査時間を短縮し、苦痛や不安のない検査・治療を実践することを目指して、より安全で効率的なセンター運営を行ってきた。外来担当医や内視鏡検査・治療担当医との緊密な連携のうえに質量ともに十分に満足のできるものであった。

内視鏡治療において技術的難易度の高いESD(早期胃癌や早期大腸癌)・ERCP(胆膵内視鏡を用いた胆道系の治療)も順調に件数を伸ばしており、かつ安全に治療を完遂できている。緊急治療が必要とされる内視鏡的消化管止血術や、化膿性胆管炎に対する胆道ドレナージも、患者の安全を考慮し、細心の注意を払って内視鏡治療を行っている。

2022年度は、診療実績のより一層の充実と患者にとってさらに安全で快適な診療の実現を目指す。

実績

項目	件数
上部消化管内視鏡検査	1,503件
うち内視鏡治療	67件
早期胃癌ESD	23件
経皮的内視鏡下胃瘻造設術	9件
内視鏡的止血術	19件
食道静脈瘤硬化療法	1件
下部消化管内視鏡検査	1,140件
うち内視鏡治療	245件
早期大腸癌ESD	14件
大腸ステント留置術	19件
内視鏡的大腸ポリープ切除術	201件
経乳頭的胆管膵管造影	166件
うち内視鏡治療	155件
内視鏡的乳頭切開術	78件
内視鏡的胆道ステント留置術	71件
気管支鏡検査	21件

地域連携・患者支援センター

センター長：山田 秀裕

人員構成 (2021年4月1日時点)

地域連携室	6名
医療相談室	6名
入退院支援室	4名

業務内容

地域連携室

- ①地域医療機関・患者からの受診・入院相談
- ②診療情報提供書管理・返書管理
- ③地域医療機関や地域住民向けセミナーや医療講座開催
- ④地域医療機関や多職種との連携会実施と訪問活動

医療相談室

- ①医療費や退院後の生活、介護・福祉制度利用など医療に関する相談
- ②無料低額診療事業に関する相談

入退院支援室

- ①入院支援：多職種による入院前オリエンテーションや面談の実施
- ②退院支援：入院前や入院早期より、退院に向けた意思決定支援と療養先への退院調整

2021年度総括

◎地域医療連携室

- ・5月22日 オンライン市民公開講座「地域包括ケア病棟の紹介」
- ・7月16日 市民健康講話開催「高齢化する消化器がん患者と治療」
- ・年3回 「救急フォーラム」開催（オンライン2回、出張講演2回）
- ・年11回 各救急隊訪問実施（搬送症例についての報告・検討）
- ・年5回 医療機関向けオンライン講演会・webセミナー開催
- ・年7回 個別症例検討会（オンライン含）
- ・院内多職種連携OLS（骨粗鬆症リエゾンサービス）活動
- ・新入職医師・診療科を中心とした医師会・地域医療機関へ訪問活動
- ・診療情報提供書即日返信の推進（紹介患者受診日当日の返信作成率：98%）

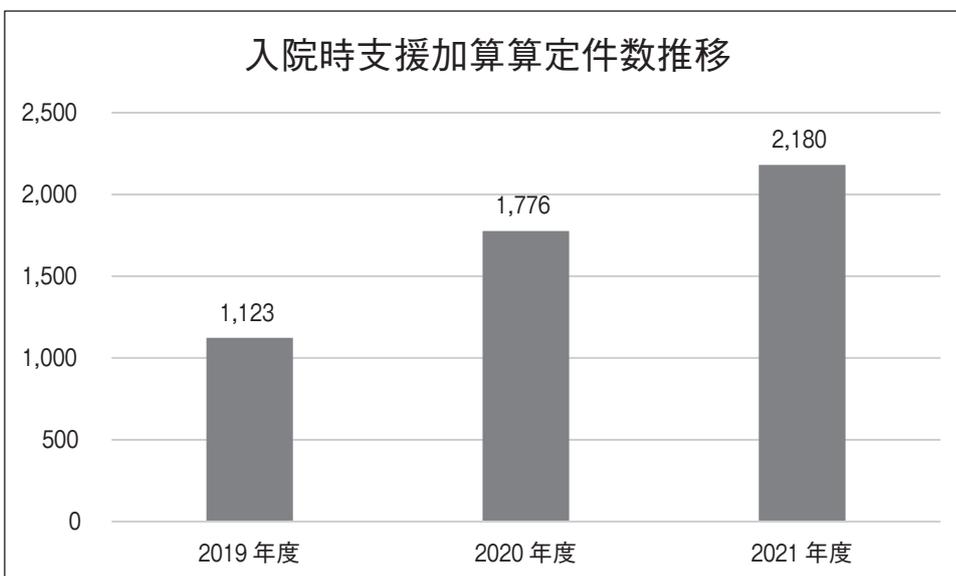
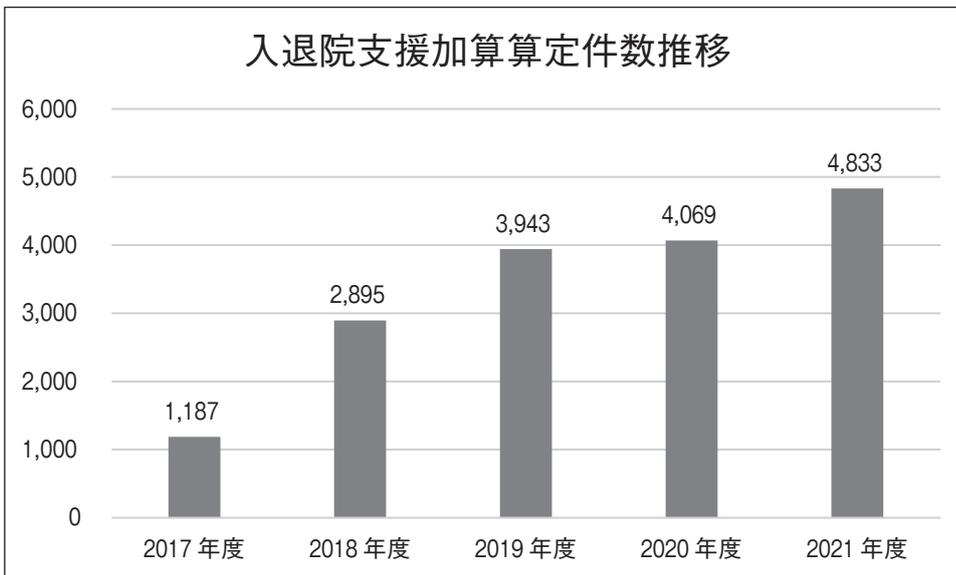
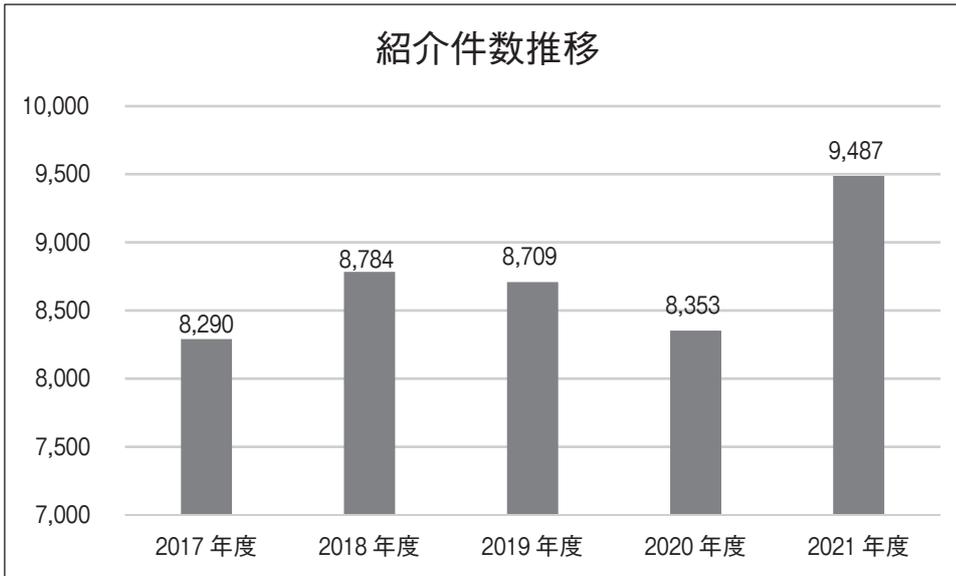
◎医療相談室

- ・医療福祉相談、退院支援、無料低額診療事業、医療安全等
- ・地域で選ばれる相談室をめざして～現状と今後の取り組み～（院内学会発表）

◎入退院支援室

- ・病床管理センターメンバー（退院支援専従看護師、当センター課長）
- ・看護部 在宅療養支援委員会メンバー（入退院支援専従看護師、当センター課長）
- ・地域包括ケア病棟への在宅サポート入院や転院の相談、受け入れ調整
- ・転院調整システム「CAREBOOK」を通じた転院相談体制の構築
- ・緩和ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟への受け入れ体制づくり
- ・コロナ禍における入院時の対応について各部門との調整および受け入れ体制の構築

実績



医療の質管理室

室長：大内 基史

人員構成 (2021年4月1日時点)

医師	2名	
看護師	3名	
専従医療安全管理者	1名	
専従院内感染管理者	1名	
集中ケア認定・特定行為看護師	1名	
事務	1名	

【医療安全管理室】

業務内容

- 病院安全管理委員会で用いられる資料作成並びにその他委員会の運営
- 医療安全対策に関する日常活動
- 医療事故発生時の指示、指導など
- 医療安全に関する職員への教育、研修の実施
- 医療安全体制の構築および対応策の検討、策定

2021年度総括

- 病院安全管理委員会、セーフティマネジャー運営会議内で報告事例の共有
- 重点施策達成のためのワーキンググループ活動(セーフティマネジャーとの連携)継続
 - ・セーフティマネジャーW.G.主催にて、「無断離院対応シミュレーション」を行い、マニュアルの検証を行った。その結果を踏まえ、マニュアル改訂後、再周知した。
- 医薬品、医療機器、職場環境安全ラウンドの実施と情報共有
- 医療安全推進週間の取り組みとして『GoodJobアワード』を企画・実施
 - 〃Best of GoodJob賞”2件、“GoodJob賞”3件
 - ・院内各部署から合計38件エントリーされ、各職場の患者安全に貢献している取り組みを共有できた。
- 職員医療安全研修：e-learning形式で企画・開催

- ・第1回職員医療安全研修【患者確認と指差呼称】受講率：98.5%
- ・医薬品セミナー【転倒転落を防ごう～転倒とくすりについて】受講率：92.3%

- 院内医療安全管理指針・医療安全マニュアルの整備
- 「安全管理情報」の発行：年間12部発行、「医療安全標語応募」を継続
- 医療安全地域連携加算Ⅰ相互ラウンドの実施
 - ・JCHO横浜保土ヶ谷中央病院、育生会横浜病院との相互ラウンド実施

【感染対策室】

業務内容

- 患者、家族および面会者を含む訪問者や全職員を医療関連感染から守るため、感染防止対策活動を通じて安全で質の高い医療を提供する。
- 感染管理の分野において感染防止対策を実践し、指導および教育を行う
- 職業感染(針刺しや感染症の曝露)の現状把握とその対応を行う
- 患者が安全で安心できる療養生活を送れるため、環境調整を行う

2021年度総括

- 新型コロナウイルス感染症対応
 - ・陽性患者発生時の届出、接触者の確認、陽性患者の転送、接触職員の検査対応
 - ・陽性患者受け入れ時の対策
 - ・面会制限、入院時全員検査確認
 - ・ワクチン接種(市民、外部職域接種)
 - ・職員の就業制限、復帰の確認
 - ・事業団関連施設の発生時の対策指導
 - ・地域福祉施設の感染対策指導、研修
- 職員へのワクチン接種実施(インフルエンザ、HBs、MR、新型コロナウイルス)
- 全新入職員への入職時オリエンテーション実施
- 結核患者発生時の届出、接触者の確認、接触者の健診対応
- 針刺し事例の状況確認、対策指導

【早期患者対応室】

業務内容

- 予期しない急変発症低減を目的に病棟ラウンド
重症患者や何かしらの事象があった患者の情報を確認し病棟のラウンド実施。
特に重症患者が収容される急性期ケアユニットや脳卒中ケアユニットは、午前・午後に必ずラウンドを実施。早期警告スコア (NEWS) を用いた急変予測も実施。
- スタッフ教育 ～気づき力向上～
特定行為を実施しながらアセスメント内容を多職種へ伝達し共有。
RRSに必要な知識と技術についてRRS研修を開催し、翌年にはフォローアップ研修開催。

2021年度総括

- 2021年度は10.75回/月で要請あり、そのうち76%の患者が軽快している状況である。
 - 各職場1名程度選出し、合計13人へRRS研修を行った。
 - 2020年度のRRS研修生へ各職場におけるRRSとしての問題と対策を検討し、取り組みをサポートした。
- ※2022年度の課題
- 各職場と早期患者対応室との連携体制整備
…各職場長、リンクナースとともに
 - 過去の急変や死亡症例から学ぶM&Mカンファレンスの開催とRRSでの問題解決
…リンクナースと年2回実施し、職場における問題を明確化し対策する
 - 多職種連携やチーム化を視野に入れ、RRS研修への看護部以外の参加を検討

診療支援室

室長：野澤 聡志

人員構成 (2021年4月1日時点)

医師	1名
看護師	1名
医師事務作業補助者	28名 (うち派遣 12名)

業務内容

- リウマチ・膠原病内科、乳腺外科の診療支援（オーダーリング代行入力、診察記事入力代行、各種統計処理など）
- 外来診察における診療支援（書類準備、検査結果確認など）
- 麻酔科・リウマチ膠原病内科の新規患者問診入力代行
- 新任医師への外来診察の事務的支援
- 消化器内科の問診入力代行
- 術前検査等のスケジュールリングやオーダーリングの入力代行
- 検査予約と変更の代行（画像・内視鏡・生理検査、定期受診、帰国者・接触者外来患者のLAMP検査予約代行）
- RIやPET等の院外特殊検査・治療の予約代行
- 血液浄化センターにおける定期注射・検査オーダーの入力代行
- 証明書、診断書、退院サマリの作成支援（一部入院中から作成）
- 手術症例登録（一般社団法人NCD）
- 学会関係のデータ入力（整形外科、心臓血管センター内科、脳血管センター）
- 認知症スケールの実施（長谷川式簡易知能評価スケール、ミニメンタルステート検査(MMSE)）
- 脳神経外科のカンファレンス記録入力代行
- リウマチ・膠原病内科、病理診断科への専任診療支援
- 緩和ケア病棟紹介状の入力代行

2021年度総括

2021年度も引き続き感染症予防対策を講じながら、良質な医療提供の道を探った。2021年4月より医師事務作業補助者の増員を図り、医師事務作業補助体制加算は15対1を取得、外来支援の対象診療科を拡大した。また「医師の働き方改革」に向けてプロジェクトが開始され、診療科や医師の増加に合わせた医師事務作業補助者の業務拡大も行ってきた。室内では、書類班の外来支援を定着させるとともに、外来支援班の書類作成業務も始まった。医師事務作業補助者として、事業団職員として、患者のために何ができるか、を実践してきた年であった。

実績

項目	件数
医師からの業務依頼件数	30件
術前スケジュールリング業務	175件
検査代行予約業務	4,719件
PET・RI検査予約業務	145件
診断書、証明書等の発行件数	8,877件
入院予約の変更等	9件
検査予約変更等	953件

ドック・健診室

部長：平野 進

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

部長 平野 進 (1991年)

概要

2016年1月に当科が開設され、3年目の2019年7月には新外来棟にドック・健診室が移設された。事業規模の拡張にともない多職種との連携と専従事務員の教育に力を注ぎ、業務全体が円滑化された。

医師については、呼吸器外科の診療応援が開始され継続されている。2019年10月から婦人科医師の採用により新たに子宮がん検診を開始。平日の内視鏡検査に関しては非常勤医師によって円滑に運営されるようになった。

2020年度に引き続き健診をはじめとする保険外診療全般を行い、各種ワクチン接種や雇い入れ就学時健康診断等の他、横浜市の住民健診、事業所の定期健康診断や個人利用の人間ドックが増加している。

2018年4月より健診結果管理システムが導入され現在まで継続運用されている。

2021年10月より当科専従保健師、2022年1月より専従看護師が配置され当科での保健指導が開始された。

2021年度総括

当院における健診も地域への認知度の上昇に伴い、当科開設以来順調に受診者数が増加し、業務内容も年々大幅に拡充されてきた。

特に2019年度より開始された婦人科検診の影響は多大であり婦人科検診の設定がある日の受診者数は明らかに他の曜日に比べて多い傾向が継続している。

2021年度最大の当科の変化は保健師、専従看護師の就任である。これによって従来管理栄養士に依頼していた保健指導が当科で行えるようになったばかりでなく、受診者の疑問などに専門的な対

応が診察室外でも出来るようになったことのメリットは多大であった。2022年1月より保健師による指導が徐々に開始されたが、今後指導への流れや指導法など効率的なシステムの構築を行い、さらなる指導件数の増加を図る予定である。

例年同様、消化器内科、婦人科、病理診断科、乳腺外科、呼吸器外科、放射線科などの協力で全ての横浜市がん検診を実施出来ている。

乳腺科の協力により2021年度も日曜乳がん検診を行った。

横浜市職員共済組合を除く企業健診については協会けんぽの生活習慣病予防健診を中心に2021年度も大きく伸びた。この要因としては協会けんぽ加入事業所を中心とした近隣企業への定期的なダイレクトメールが実を結んだものと思われる。

インフルエンザの出張集団接種事業も引き続き行った(1校7社)。新型コロナウイルスの影響で2020年度より減少したが、今後も動向に注視しつつ新たな出張先の開拓をしていく予定である。

当科における健診では異常所見を認めた場合には、速やかに当該専門科に受診依頼して午前中に専門診察を受けていただけるというのが最大の特徴である。殊に多いのは心雑音・不整脈、高血圧、鼠径ヘルニアであった。2021年も引き続きこの病院で行う健診のメリットを受診される方々に提供しつづけるため丁寧な診察を継続する所存である。

2022年度への展望

2022年度も引き続き新型コロナウイルス感染症対策として「3密」を避けた受診環境の整備に努めつつ、収益を確保していく所存であるが、予約受付業務の円滑化や受診者数の増加を鑑みるとそろそろ現状のスペースでは限界が近づいているものと思われる。各種認定獲得や契約増加のためにも健診フロアの独立化が継続的な課題である。

昨今の需要に応じて乳腺科や婦人科、放射線科、生理検査などとの総合的な協力によって今後レディース健診の開設を検討することも病院の方針として策定され現在検討され準備中である。

腎臓・高血圧内科

医師：大石 真理子

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

医師 大石 真理子 (2011年)

医師 野田 翔平 (2015年)

2021年度総括

2021年度は常勤医が1名から2名へ増員となったため、外来診療を拡大し、透析導入や腎生検といった、専門領域での入院診療を再開した。

2021年度入院患者数は118名、血液透析導入件数18例、内シャント造設術11例、カフ型カテーテル留置術2例、経皮的血管拡張術(シャントPTA)8例、経皮的腎生検5例であった。透析導入となった18例のうち、8例が当院の維持透析へ通院することとなり、維持透析患者数の増加にも繋がった。

今後も新規紹介患者、外来患者数を増やすことで、腎生検、バスキュラーアクセス関連手術、透析導入といった専門領域での入院症例確保や当院維持透析患者数の確保にも繋げていきたい。また、慢性腎臓病、透析患者の周術期を含めた併診など他科との連携にも力を入れるとともに、慢性腎臓病看護外来をはじめ多職種連携も推進し、地域の腎臓・高血圧診療の向上に寄与できる診療科を目指したい。

実績

	2020年度	2021年度
入院患者数	7	118
経皮的腎生検	0	5
血液透析導入	1	18
内シャント造設術	2	11
カフ型カテーテル留置術	0	2
経皮的血管拡張術	8	8

	2020年度	2021年度
外来受診患者数	155.4人/月	266.9人/月
紹介患者数	93人/年(7.0人/月)	184人/年(12.1人/月)

内分泌・糖尿病内科

主任医長：升田 雄史

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

主任医長 升田 雄史 (1998年)

2021年度総括

当科の入院外来診療において、2019年度からの当科の診療体制縮小は大きく影響を及ぼした。

入院診療に関しては、糖尿病教育入院は新型コロナウイルス蔓延により縮小したものの、他科からの入院患者のコンサルテーション受け入れは積極的に継続した。

外来診療に関しては、一時は中止した外来初診患者の受け入れを2021年度に再開した。同時に糖尿病療養指導の在り方に糖尿病療養チーム内で話し合いを重ねた。

心臓血管センター内科

部長：芦田 和博

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

部長	芦田 和博 (1997年)
主任医長	新村 剛透 (2005年)
医長	中島 啓介 (2003年)
医長	眞壁 英仁 (2007年)
医長	河合 慧 (2009年)
医長	山田 亘 (2011年)
医員	福田 正 (2012年)
医員	宮崎 良央 (2013年)

2021年度総括

当科開設から7年が経過した。当科の所属医師は全員が医局人事ではなく、一人ひとりが意志をもって集まってきた医師である。このチームでより一層地域に貢献するためにはどうすればよいか？この命題に対する取り組みを2020年に引き続き行った。

具体的には高齢化社会にある当院周辺環境、および夜間に急変・発症しやすい循環器診療を考慮すれば、今まで以上に断りのない救急診療が最も大切である。2018年と同様、病院全体として満床近くになる冬場にあっても、病棟看護師、救急スタッフなど様々な人々の不断の努力と協力をもってして、断りのない救急診療を展開することができた。

診療内容として、循環器全般に対応してきたが、特に得意とする虚血性心疾患・下肢虚血治療のみならず、地域で増加している高齢者心不全診療にも注力し、積極的な受け入れを行ってきた。地域への度重なる講演会を通じての啓蒙活動、院内スタッフ向けの勉強会(心不全マスターコース)なども展開してきた。心不全療法指導士は2021年から始まった資格だが、様々な当院スタッフが積極的に自分の時間を費やして資格取得された(2021年9名が合格；神奈川県下で第2位。横浜市で第1位)ことには頭が下がる思いである。積極性に感謝申し上げたい。2018年から導入したカテー

テルアブレーション治療件数も増加し、今や国民病とも言われるようになった心房細動の根治術として、少なからず地域に貢献できていると思われる。

10月からは血管外科の乗松医師の就職に伴い、心臓血管センターチームとして協働するようになった。扱う疾患も動脈瘤・静脈瘤を中心に拡大し、より一層地域に貢献できる体制が整った。またPCPSなど補助循環装置を装着した重症患者の管理、weeningから抜去に至る点でもチームで連動することにより、より高度な医療の提供につながっている。

そのほかの特徴としては、高齢社会に伴い、様々な疾患を併発している患者さんが増加傾向にあるが、民間総合病院ならではの、様々な診療科と風通しの良い密な連携を構築することで、包括的な患者対応ができるように尽力している。地域連携室の密接できめ細やかなサポートにも感謝している。

またこの7年間、一貫して言えることは、当院は様々なメディカルスタッフが常に全面的に協力してもらえる病院だということである。我々の分野も日進月歩であるが、メディカルスタッフが先取的に研修・知識習得に励んでもらえることにより、チームとして安全・安心な医療が提供できていると自負している。彼らの献身的な協力体制に対し、この場を借りて深く感謝したい。またこういった組織作りを先導されている、院長、看護部長、事務長にも深謝申しあげる次第である。

一方で、国内外の様々な学会、研究会においても医師、スタッフともに多くの発表をしてきた。COVID19禍でwebでの発表が多くなるが、自施設における日常診療だけで独りよがりになってしまうのではなく、学会という批評の場で積極的に発表してくれたチームの仲間に敬意を表する。これからも様々な循環器診療、学会活動といったoutputを通じて個人的にもチームとしても人間的成長を目指し、より地域に貢献できる診療科を目指したいと思う。

図1

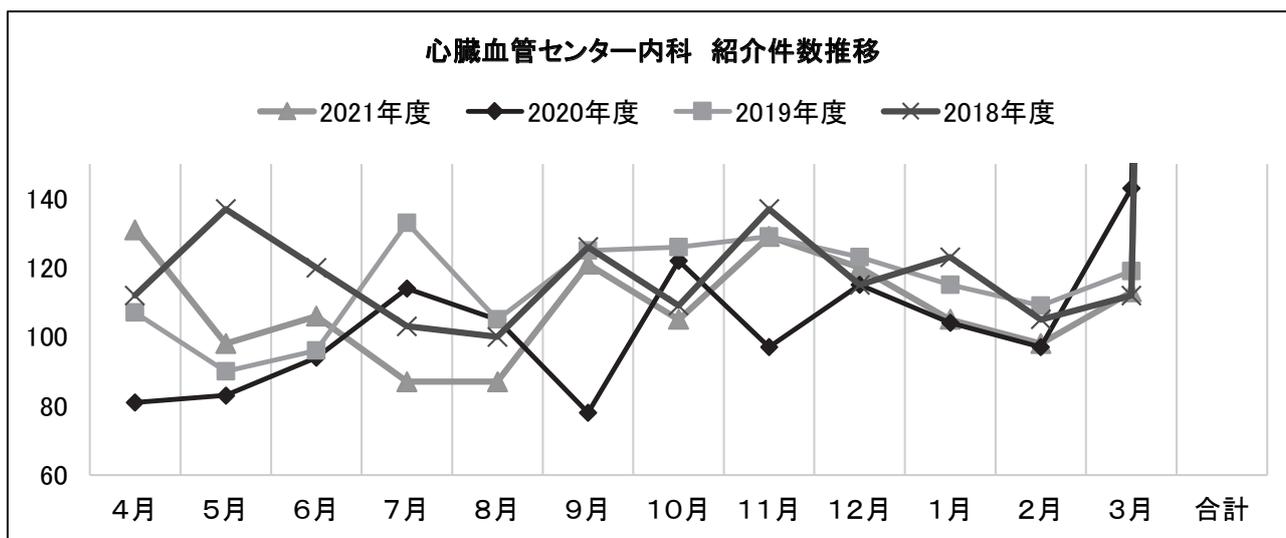


図2

PCI	323件
心臓カテーテル検査	130件
アブレーション	67件
ペースメーカー留置	22件

消化器内科

部長：吹田 洋將

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

消化器内科部長 吹田 洋將 (1987年)
消化器内科医長 豊水 道史 (2010年)
消化器内科医員 佐藤 育也 (2015年)

2021年度総括

①外来業務

消化器内科は前年までは4名体制であったが、開業など諸事情で1名が退職したため、3名体制での診療を行っている。

2021年度の外来患者数は、総患者数：8756名、1日平均：32.9名であった。

医師数の減少に伴い、初診（予約外診察）の患者を週5日対応することは困難な状況となり、月水木の週3日のみの診療に縮小せざるを得なくなった。また内視鏡検査などのマンパワーの関係で、午後は予約患者のみの診療となっている。

初診（予約外診察）においては、待ち時間が長くなっているが、電子カルテの入力を医師事務に代行してもらうなど待ち時間の短縮化を図っている。

外来の混雑の緩和や業務の効率化のために、内服のみで病状の落ち着いている患者は地域の先生方に逆紹介させて頂き、内視鏡治療・入院加療が必要な患者を積極的に受け入れたいと考えている。今後も地域の先生方と連携を密にして外来業務を継続していきたい。

②検査業務

2020年度の内視鏡検査件数は、上部消化管内視鏡検査は1503件、下部内視鏡検査は1140件であった。治療内視鏡では早期胃がんESD23件、上部消化管内視鏡止血術19件、内視鏡的胃瘻造設術9件、大腸ポリープ切除術201件、早期大腸がんESD14件、内視鏡的十二指腸乳頭切開術78件、内視鏡的胆管ステント留置術71件などであった。ERCP関連の胆道系処置などを含め、今後も質の高い医療を提供していきたいと考えている。

③病棟業務

2021年度の延べ入院患者数は5476人であり、1日平均15.0人、平均在院日数は10.1日であった。

今後も地域の開業医の先生からの紹介患者をいつでも受け入れることのできる体制を構築し、内視鏡による検査・処置目的の入院も含め入院患者数の増加に対応できるようにしたい。そして、何より患者一人ひとりの病態や状況に即したきめ細やかな診療業務をより一層行っていきたい。

外科・消化器外科

部長：野澤 聡志

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

院長補佐 兼 消化器外科部長 野澤 聡志 (1990年)
主任医長 齋藤 徹 (1998年)
主任医長 永井 啓之 (1998年)
主任医長 横山 元昭 (2003年)

2021年度総括

郷地英二副院長兼外科部長が2021年3月をもって退職したことに伴い、2021年度は5人体制で診療を行った。胃癌・大腸癌・肝胆膵領域の癌を中心とした消化器がんに対する手術・化学療法を積極的に行った。また、胆嚢結石症などに対する腹腔鏡下手術、単径ヘルニアを中心としたヘルニア手術などの良性疾患治療、穿孔性腹膜炎やイレウス、急性虫垂炎・急性胆嚢炎など、急性腹症の積極的受け入れと緊急手術の実施など、近隣の医療機関や当院の各内科と連携し、地域のニーズに応えられるよう努めた。手術症例は年々高齢化しており、85才以上の超高齢者に対しても安全に手術手術を行った。

○消化器悪性腫瘍の集学的治療

胃癌、結腸直腸癌、肝癌、膵癌、胆道癌などに対し、1.手術治療、2.化学療法(外来化学療法を含む)を軸として積極的に治癒を目指して治療している。低侵襲と考えられる腹腔鏡下手術(結腸直腸切除術、胃切除術)も積極的に採用している。一方、大腸癌イレウスなど準緊急手術を要する症例も内科との連携により安全に根治性を保つ治療を行うなど、病状に応じて患者のニーズに幅広く対応している。

肝細胞癌・転移性肝癌に対する肝切除術、胆膵領域がんの膵切除術など高難易度の治療を安全に施行した。栄養管理や術前からリハビリテーションを積極的に導入するなどにより、超高齢者における大手術も安全に施行している。

大腸癌、膵癌などにおいて腫瘍縮小効果が高い化学療法が登場しており、積極的な治療に取り組

んでいる。多発両葉大腸癌肝転移に対する二段階肝切除など、積極的治療を行った。当初切除不能な腫瘍が化学療法により切除可能となった症例(コンバージョン手術)も得られた。

○一般外科領域の手術

腹腔鏡下虫垂切除術や、急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術、腹腔鏡下ヘルニア手術等、鏡視下手術の比率が上昇した。

○「National Clinical Database」(NCD)への手術症例登録

2011年1月から運用された外科系の専門医制度と連携したデータベース事業「National Clinical Database」に継続参加している。

実績

○2021年度の主な手術実績

胃癌	14例
結腸癌	40例
直腸癌	8例
肝切除術	11例
膵手術(膵頭十二指腸切除など)	4例
胆石症	76例
虫垂炎	24例
腹膜炎(穿孔性など)	6例
腸閉塞手術	20例
ヘルニア	89例

○2021年度の化学療法実績

2020年度は胃癌、大腸癌、膵癌、胆道癌の各疾患に対して入院化学療法32件、外来化学療法401件を実施した。

呼吸器内科

部長：小西 建治

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

部長 小西 建治 (2001年)

2021年度総括

2021年度のスタッフは2020年度に続き常勤1名で入院業務を行い、外来は非常勤スタッフに対応していただき、時間外や救急対応は他科の協力のもと可能な範囲で対応した。

気管支鏡検査は水曜日だけの施行ながら継続し、肺がんや肺結核の診断、間質性肺炎の精査などを行った。特に、肺がんに関しては当科で診断をつけて、呼吸器外科に手術を依頼することができている。

コロナウイルス感染症の流行により2020年度は外来・入院とも減少していたが、その年度末からは回復した状態で2021年度に入り、そのまま例年同様の人数を保っていた。

疾患としては、誤嚥性肺炎やCOPDを背景とした肺炎の他、コロナウイルスの流行の頃から器質性肺炎などの非特異的な間質性肺炎が増えていた。また呼吸器感染症の中でも、呼吸器症状が軽いため自宅で我慢したり、外来治療でコントロールされていたり、ある程度時間が経過してから、肺膿瘍や膿胸となって受診し入院となる症例が目立っていた。

他科に入院中の患者さんの呼吸器症状対応も多く、現状を保ちながら必要ときに入院対応ができるように今後も可能な範囲で続けていきたい。

実績

(単位：人)

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
外来	延患者数	8,543	7,727	7,248	6,060	6,748
	1日平均患者数	29.1	26.5	25.6	22.7	25.4
入院	延患者数	9,209	4,480	5,162	3,567	4,748
	1日平均患者数	25.2	12.3	14.1	9.8	13.0

呼吸器外科

部長：大内 基史

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

副院長 兼 部長 大内 基史 (1987年)
主任医長 竹内 健 (1996年)
主任医長 早川 信崇 (1999年)

2021年度総括

呼吸器外科では、手術と地域医療に貢献する医療の2本柱を行っている。

①手術の特徴としては、肺癌では胸腔鏡孔式手術(4~5cm切開創のみ)で行なっている。また疾患別特徴として当科は、非結核性抗酸菌症 (NTM) や肺アスペルギルス症の手術を得意として近隣医療機関からの紹介を得ている。

2021年度には、新型コロナウイルス蔓延に伴って先送りできる炎症性疾患の患者数が回復傾向があり、自然気胸手術も回復してきた。しかし院内の定期手術前検査にCOVID-CTが義務化され胸部CT撮影が増加し異常陰影が発見から院内紹介件数が増加してきたが、COVID - CTが定期検査から削除されたため偶発発見の早期肺癌手術数が年度後半から減少してきた。しかし単孔式5cm切開術、肺部分切除迅速診断、肺葉切除のスムーズな流れで行えている。

②地域医療に貢献する方法として、高齢者肺炎の入院治療から在宅調整など往診医や近隣開業医から紹介され入院治療を行っている。

地域医療面では、高齢者肺炎ばかりではなく新型コロナウイルス肺炎後器質化肺炎の患者を受け入れ退院させることが出来ている。年度後半には新型コロナウイルス肺炎後遺症患者の激減しており、ポストコロナ体制を検討中である。

実績

①手術：全87例

単孔式肺癌手術	9例
非結核性抗酸菌手術	10例
肺アスペルギルス症	8例

②地域医療

在宅医療からの入院治療	33例
転院からの入院治療	31例
コロナウイルス下り搬送	61例

整形外科

部長：天野 景治

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

部長 天野 景治 (1993年)
主任医長 山田 寛明 (1997年)
医長 横谷 純子 (2000年)
医長 大田 光俊 (2006年)
医長 木内 均 (2006年)
医員 吉田 直人 (2017年)

2021年度総括

整形外科は従来から千葉大学整形外科の関連病院であったが、2019年度より北里大学整形外科の関連病院にもなった。

千葉大学からは新規に手の外科専門の木内 均 医師が赴任、増員とともに体制増強となった。北里大学整形外科からは後期研修医1名の派遣があり、上記スタッフにて、外来、入院、手術といった診療にあたった。

- ・外来は月曜 午前3診午後1診、火曜午前3診、水曜午前3診午後1診、木曜午前3診、金曜午前3診+適宜専門外来。土曜日は2020年10月より第2、第4午前中1診にて再開。
- ・病棟は手術患者の周術期等メインには西2病棟で、緊急入院や保存治療入院は他病棟も利用させていただいている。術後おちついた症例は東4階地域包括病棟、東1階回復期リハ病棟へ転棟し、療養・リハビリテーション後退院している。
- ・手術は予定手術は、月曜日～木曜日。それに加えて金曜日に状況に応じて行った。股関節、膝関節の人工関節置換術、四肢の外傷、脊椎・骨盤の手術、そして手の外科手術を行った。

2019年度後半からの新型コロナ禍の影響は、特に大きかった2020年度に比べると2021年度には回復が見られ、手の外科症例の増加の効果もあり、手術件数は2019年度をも上回った。

実績

手術

整形外科手術総数：649件

脊椎手術： 74件

関節手術： 139件

(うち、人工関節手術は人工関節センター項)

外傷手術・他： 436件

耳鼻咽喉科

部長：松井 和夫

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

院長 林 泰広(1985年)
部長 松井 和夫(1978年)
医員 勝又 徳行(2012年)
医員 吉見 亘弘(2016年)

2021年度総括

耳鼻咽喉科は基本的には外科系の診療科であるが、実際には頭頸部の疾患すなわち鎖骨から頭蓋底に及ぶ領域のさまざまな疾患（脳と眼の疾患を除く）を取り扱う総合診療科という性格を有している。当科では耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患全般を対象疾患として取り扱っている。

乳幼児から高齢者までの、難聴、めまい、顔面神経麻痺、アレルギー性鼻炎、嗅覚・味覚障害、言語・音声などに関わる障害、呼吸・嚥下などにも関わる障害、種々の頭頸部腫瘍などを幅広くカバーしています。

入院治療を要する疾患としては急性の扁桃炎、扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍、急性咽喉頭炎、突発性難聴、めまい、顔面神経麻痺、手術治療で改善が望める鼻疾患、頭頸部腫瘍などである。

2022年現在の常勤勤務医は松井和夫部長・勝又徳行先生・林 暁利先生・週1回の外来診察を行う林院長の4人体制です。非常勤医師は横浜市立大学から畠山博充先生（横浜市立大学市民総合医療センター耳鼻咽喉科病院教授）、に加えて計3人が外来業務のお力添えを頂いています。昭和大学からも2人、以前当院で研修医だった中野先生には耳手術と外来業務をお願いしています。嚥下音声外来は西山耕一郎先生にご指導を受けています。外来も2021年は前年と比較して外来患者さんは増加しています。

手術については、当院は松井先生が耳科手術の暫定指導医を取得して。研修認可施設にもなっています。耳科手術は松井和夫部長が主に施行していますが、当院で長くご勤務された呉晃一先生（武蔵小杉くれ耳鼻咽喉科医院）、小林斉先生（昭和大学藤が丘病院准教授）から水曜日に指導を受けて

います。手術件数に関してはコロナの影響による影響が顕著であった2019年、2020年と比べ耳科手術・鼻科手術・頸部手術いずれも増加しました。

実績

耳科手術	計 190 件
鼓室形成術	88 件
鼓膜チューブ挿入術	計 39 件
人工内耳手術	0 件
アブミ骨手術	2 件
顔面神経減荷術	9 件
先天性耳瘻管摘出術	2 件
外耳道形成術	2 件
鼓膜形成術	9 件
乳突削開術	36 件
試験的鼓室開放術	1 件
中耳根本術	0 件
内リンパ嚢開放術	0 件
聴神経腫瘍摘出術	0 件
鼻科手術	計 51 件
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	計 27 件
鼻中隔矯正術	10 件
鼻甲介切除術	8 件
視神経管開放術	0 件
涙嚢・鼻涙管手術	4 件
眼窩吹き抜け骨折手術	1 件
顎・顔面骨折整復術	1 件
口腔咽喉頭手術	計 52 件
扁桃摘出術	計 37 件
舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術	計 15 件
口蓋垂・軟口蓋形成術	2 件
舌・口腔良性腫瘍摘出術	5 件
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	0 件
咽頭良性腫瘍摘出術	3 件
咽頭悪性腫瘍摘出術	0 件
喉頭微細手術	計 7 件
嚥下機能改善手術、誤嚥防止手術、音声機能改善手術	計 1 件
頭頸部手術	計 17 件
頭頸部腫瘍摘出術	計 17 件
顎下腺良性腫瘍摘出術	1 件
顎下腺悪性腫瘍摘出術	0 件
耳下腺良性腫瘍摘出術	2 件
耳下腺悪性腫瘍摘出術	0 件
甲状腺良性腫瘍摘出術	3 件
パセドウ病手術	0 件
甲状腺悪性腫瘍摘出術	3 件
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	1 件
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	0 件
喉頭悪性腫瘍摘出術	0 件
リンパ節生検	5 件
頸部嚢胞摘出術	2 件
顎下腺摘出術	1 件
異物摘出術（外耳・鼻腔・咽頭）	17 件
気管切開術	計 4 件

注) 口蓋扁桃摘出術、内視鏡下鼻内手術などのように、左右あるものは両側の場合は2例としてカウントする。腫瘍摘出と頸部郭清を行った場合にはそれぞれ別々にカウントできる（例：喉頭全摘+両頸部郭清→喉頭全摘1例、頸部郭清2例）。

麻酔科・ペインクリニック・緩和ケア

部長：木下 真弓

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

麻酔科部長	手術室長
	木下 真弓 (1987年)
主任医長	千葉 桃子 (1990年)
医長	高橋 紗緒梨(2009年)
医員	岡田 律子 (1993年)
医員	佐藤 理恵 (2000年)
医員	柏木 里恵子(2005年)
医員	山内 千世里(2005年)

2021年度総括

特色：

当院の麻酔科は手術麻酔、ペインクリニック、緩和医療の3本立てで業務を行っている。日本麻酔科学会認定病院 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設である。

1. 手術麻酔：手術中の全身管理と痛みのマネジメントを専門に行っている。手術の内容や患者さんの術前の状態を術前診察（術前外来）で把握し、個々の患者に適切な麻酔方法、麻酔薬を選択し、安心して手術を受けて頂くように説明を行っている。PCA (patient control analgesia) 法、手術前にエコーを使った伝達麻酔（体幹ブロック、下肢ブロックの単回ブロックやカテーテル留置など）硬膜外麻酔などを細心の注意を払い、行われた。新型コロナ感染拡大により2020年度は手術件数は減少したが、2021年度は十分な感染対策を行い、2130例の手術（麻酔科管理症例1,270例）が行

われ、2019年度の水準まで戻ってした。

2. ペインクリニック：「痛み」を専門に治療しており、帯状疱疹後神経痛や三叉神経痛などの各種神経痛や整形外科疾患による痛み、がんやCRPS、原因のはっきりしない痛みなど痛み全般の治療を行っている。ペインクリニック外来は月曜～金曜日まで午前午後通じて外来を行っている。新患外来は週4日火・水・木・金、週2日火・木午前に透視下ブロックを予定している。また、緩和ケア病棟の患者にも疼痛コントロールのために腹腔神経叢ブロック、硬膜外ポート埋め込み術、脊髄神経刺激装置埋め込み術等を行っている。
下記参照 NTT関東病院ペインクリニック科で研鑽を積んだ先生が入られ、診療内容が幅広くなっている。

緩和ケア：

ペインクリニック外来の場所で緩和ケア外来を月曜日から金曜日まで患者さん本人の化学療法日や当該科の診察日に合わせて来院していただき、がんの治療時期の早い遅いに関わらず、症状緩和を行っている。がんおよび非がん（呼吸不全、腎不全、心不全等）が対象である。入棟外来は毎月曜日から金曜日の午後に行い、急性期病棟患者の症状緩和やスピニチュアルペインなどの治療も行っている。痛みや呼吸困難などの症状緩和を積極的に行っており、他院からの受け入れも行っている。2020年8月より開棟した緩和ケア病棟の運営も麻酔科で行っている。運営は順調で、在宅支援、退院支援、在宅療養調整、外来でのサポートなどにより患者の望む療養支援の役割を担っている。特に新型コロナ感染拡大が生じて、感染防御をしっかりと行うことで面会は途切れることなく行うことができた。最期の時を家族と一緒に過ごす事の重要性を感じている。

実績

	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
手術件数	2,130	1,640	2,009	1,876	1,668
麻酔科管理症例	1,270	1,103	1,220	1,090	978

外来神経ブロック	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
星状神経節ブロック	155	352	417	250
胸部硬膜外ブロック	17	9	1	1
眼窩上神経ブロック	22	12	30	57
眼窩下神経ブロック	22	4	4	16
おとがい神経ブロック	9	2	3	4
大腿神経ブロック	0	1	3	2
肩甲上神経ブロック	20	6	3	2
肋間神経ブロック	123	130	146	154
仙骨部硬膜外ブロック	104	127	163	163
腕神経叢ブロック	82	67	78	90
腰部硬膜外ブロック	246	328	283	237
肩甲背神経ブロック	2	3	14	10
浅頸神経叢ブロック	51	38	32	50
椎間関節ブロック	104	82	169	152
トリガーポイント注射	20	24	23	18
トリガーポイント注射	267	276	452	626
硬膜外ブロック持続注入	98	6	16	12
腓骨神経ブロック	0	1	2	0
後頭神経ブロック	4	1	0	0
仙腸関節枝神経ブロック	0	2	0	0
坐骨神経ブロック	0	0	1	0
三叉神経ブロック高周波熱凝固神経破壊薬	10			
合 計	1,360	1,471	1,846	1,849

部位	透視下ブロック	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
頸部	硬膜外洗浄（頸部）	0	3	0	0
	神経根パルス（頸部）	10	4	14	7
	C2ガングリオンブロック	0	0	1	0
	神経根ブロック（頸部）	7	11	5	10
胸部	神経根パルス（胸部）	7	16	14	7
	神経根ブロック（胸部）	13	19	20	14
	持続硬膜外カテーテル挿入	1	0	0	0
腰部	腰交サーモ	0	1	0	0
	神経根パルス（腰部）	43	49	44	37
	神経根ブロック（腰部）	21	18	25	15
	椎間関節サーモ（腰部）	0	1	0	0
	椎間関節ブロック（腰）	5	6	7	3
	硬膜外洗浄（腰部）	0	0	1	0
	脊髄刺激装置埋め込み術	1	0	1	0
	脊髄刺激装置トリアル	1	1	0	0
	仙腸関節ブロック	3	0	0	0
	硬膜外カテーテル埋め込み術	3	0	0	0
腰部持続硬膜外カテーテル	4				
合 計			128	132	97

麻酔科入院患者数（2021年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
入院	22	21	31	28	20	25	21	28	23	19	16	23	277	23.1

小児科

部長：北村 勝彦

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

部長 北村 勝彦 (1982年)

非常勤医師 2名 (田野尻 咲帆医師、増田 敬医師)

2021年度総括

少子高齢化の波に加え2020年は2019年12月に発生した新型コロナウイルス感染症の国内流行が拡大し医療体制に大きな変化をもたらしたが、特に小児医療においては、行動制限や徹底した感染対策により新型コロナ以外の小児感染症流行が抑えられ急性疾患患者の著しい減少となった。さらに、医療機関受診抑制意識が高まり、検診や予防接種といった小児保健受診数も激減したため各小児科医療機関は大幅な減収となった。こうした中、2021年4月から同愛記念病院小児科で長年小児アレルギーを専門に診療されてきた増田敬医師を招聘し小児アレルギー外来を解説した。当初は月1回 (月曜日午後) の診療であったが、要望が大きく現在は月2回に増設されている。小児科におけるアレルギー疾患は喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎に加え食物アレルギー患者の増加が懸念されている一方で対応する医療機関がまだ追いつかない現状である。増田医師によるアレルギー外来が今後も当院小児科の大きな位置を占めるものとする。行動抑制により生活習慣の変化により、小児の健康に大きな影響が出始めている。運動制限により運動不足となり、肥満、便秘症などが、さらに感染抑制の厳しい管理により心身症的訴えを抱えて受診する症例が増えている。特に、頭痛、腹痛、便秘など不定愁訴が多くなり当科でも一人一人時間を割いて医療面接を行っている。夜尿症に関しても積極的介入を実施しており、改善する症例が多いが難治例に関しては当院泌尿器科との連携も図っている。

急性期疾患の大幅な減少への対応は困難であるが、保健活動としての地域小児科の役割は重要であると考え横浜市からの要請に応え2020年5月から通常保健所で行われる集団検診である4ヶ月検診、1歳半検診、3歳児検診の協力も行っている。

2021年5月に始まった市民向けの新型コロナウイルスワクチン集団接種に関しては、平素から予防接種を行っている小児科が中心となり約1万名以上の市民へのワクチン接種を行っている。集団接種に関しては医師、看護師、薬剤師、救急救命士のほか、事務部門との連携で現時点まで事故も無く地域の流行抑制に大きく寄与したのではと自負している。

2021年5月に始まった市民向けの新型コロナウイルスワクチン集団接種に関しては、平素から予防接種を行っている小児科が中心となり約1万名以上の市民へのワクチン接種を行っている。集団接種に関しては医師、看護師、薬剤師、救急救命士のほか、事務部門との連携で現時点まで事故も無く地域の流行抑制に大きく寄与したのではと自負している。

実績

年度別診療科別年間外来患者数

診療科	年度	2016	2017	2018	2019	2020
小児科		5,151	5,540	5,093	4,387	2,333

年度別診療科別1日平均外来患者数

診療科	年度	2016	2017	2018	2019	2020
小児科		17.6	19.0	17.5	15.6	8.7

眼科

主任医長：榮木 尚子

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

主任医長 榮木 尚子(1997年)
医長 原田 里美(2012年)
医員 露木 文 (2012年)

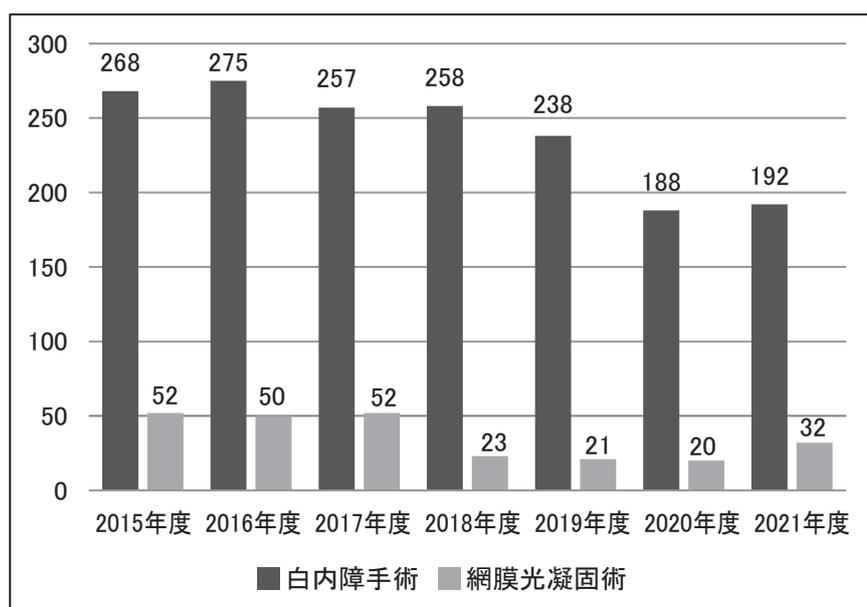
概要

当院眼科では地域に根ざした幅広い診療を行っている。大学病院とも連携し必要に応じて専門医に紹介を行っている。

・一般外来

当院眼科では白内障手術を中心とした診療を行うとともに、結膜炎などの前眼部疾患、緑内障、糖尿病網膜症など幅広い診療を行っている。

実績



・白内障手術について

毎週火曜日に白内障手術を行っている。入院は片眼で1泊2日を基本に行っているが、患者希望に応じて2泊3日の入院対応が可能である。全身状態がよい方は、日帰り白内障手術もできるようになった。手術は約1~2月程度で予定できる状況となっている。

2021年度総括

超音波白内障手術装置(センチュリオン)が新しくなった事により、さらに安全・正確に手術を行うことが可能となった。

放射線診断科

部長：新美 浩

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

副院長 兼 部長 新美 浩 (1985年)
主任医長 石川 牧子 (1990年)
医長 宮川 天志 (2011年)

概 要

- 当科は画像診断専門医による画像診断や臨床各科とのコンサルティングを主とする診療科で、特に地域医療機関との連携やモダリティの相互利用に最も注力していることを特色とする
- 日本医学放射線学会・放射線科専門医修練機関 (画像診断・IVR部門)
- 画像診断管理加算2、及び冠動脈CT、心臓MRI施設基準、乳房MRI施設基準
- 聖マリアンナ医科大学放射線医学講座 教育関連病院

2021年度総括

1. 2021年度の診療体制は、常勤医3名と非常勤医10名で、月間合計約2300～2400件に及ぶCT・MRI検査の約90%の迅速読影とコンサルティング、カンファレンスなどに対応し、画像診断管理加算2を再度取得した。
2021年度の常勤医は宮川医師を加え3名に増員したが、全員が放射線診断専門医、放射線科研修指導者である。非常勤医の派遣体制は引き続き、聖マリアンナ医科大学病院と同横浜市西部病院放射線科からの派遣と医局出身者が主体である。
2. 地域医療機関から依頼された全てのCT・MRI検査の読影診断を行い、地域の画像診断基幹施設の一つとして貢献している。
画像診断紹介数はここ数年順調な増加傾向にあり、新規依頼も年々増加傾向にある。画像診断の2021年度、月間紹介件数はCTとMRIの

合計約170～180件で、紹介患者比率も院内紹介患者数の約20%を占めている。

3. 2017年に電子カルテの導入、PACSシステムの更新、オンラインでの画像検査予約と画像レポート閲覧のシステム導入を行い、当センターで撮像された画像と診断レポートが、極めて短時間で依頼元の医療機関においてオンライン上で閲覧可能となり、今後はさらに地域医療機関とのオンライン連携の強化する必要がある。
4. 2019年7月に待望の新外来棟がオープンし、最新型の超高精細CTの導入 (Precision) と3テスラMRIの増設を行い、外来診療のCTは256スライスCTと160列の超高分解能CT、及び2019年時点での最新型の3TMRIによる三台体制で診療を開始した。また、入院診療としては、原則的に病棟専用として従来の64列CTと既存の3TMRIを使用している。
5. 超高精細CTは160列のマルチスライスCTであるが、解像度、空間分解能が従来CTに比して飛躍的に向上し、特に肺・縦隔や腹部骨盤領域を中心に種々の臓器で極めて高精細な画像が得られるほか、一部の領域ではAIを利用した再構成が導入され、特に低被ばく撮影時における高画質の画像再構成に力を発揮している。
6. 2021年度は、全体的には救急を含めた一般急性期診療の患者数が回復した。しかし、当科では引き続き新型コロナウイルス肺炎の影響が大きく、放射線診断科の紹介患者数は、度重なる新型コロナ感染増加に起因する紹介元の地域医療機関の外来患者減少に連動して有意な減少を認めた。当院では発熱外来や疑い例の診断加療を行い、2020年度下半期から重点医療機関協力病院として、超急性期を脱した新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを行ってきた。そのため、院内の外来患者では新型コロナウイルス肺炎の診断目的とする胸部CT検査の増加傾向は持続し、全体でのCT検査数は増加した。しかし、MRI検査は減少傾向にあったが、脳神経外科診療が24時間

救急を含めて稼働率が高く、比較的わずかな減少幅に留まった。

7. 過去5年間の画像診断実績推移（表参照）をみると、CT検査MRI検査ともに検査総数は漸増傾向を認め、コロナ以前に比しても有意な増加を認めた。

その原因として、当院では新型コロナウイルス感染症自体の診療は限定的であったが、それ以外の一般診療の縮小は行わず、厳密な感染対策の元に急性期診療は最大限の診療サービスを提供を維持してきたことが大きいと考える。しかし、紹介患者数は紹介元である地域医療機関の患者数回復遅延などの影響が大きく、減少傾向を認めた。

今後は、改めて地域医療機関との連携を強化するために様々な施策を考え、迅速に実行していく必要があると考える。

実 績

表：過去5年間の画像診断実績推移（2017～2021年度）

		2017年度 月平均	2018年度 月平均	2019年度 月平均	2020年度 月平均	2021年度 月平均	対前年度比(%) 2021/2020
一般撮影	件数	4,308	4,409	4,280	3,505	3,999	△ 14.1
造影	件数	106	123	115	127	144	△ 13.4
CT	件数	1,544	1,615	1,541	1,742	1,831	△ 5.1
	紹介件数	141	167	165	172	159	▼7.6
	心臓CT	88	96	88	92	77	▼16.3
	造影率	25.10%	24.30%	22.30%	18.00%	16.60%	▼7.8
	紹介率	9.10%	10.30%	10.70%	9.90%	8.70%	▼12.1
MRI	件数	477	515	568	531	549	△ 3.4
	紹介件数	15	18	18	17	15	▼11.8
	心臓MRI	4	4	3	4	4	△ 0.0
	造影率	6.50%	6.00%	5.20%	5.10%	5.00%	▼2.0
	紹介率	3.10%	3.50%	3.20%	3.20%	2.80%	▼12.5

救急科

部長：山口 裕之

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

部長 山口 裕之 (1993年)

2021年度総括

2021年度はSARS-CoV2感染症に対する対処法がある程度確立され、救急要請数も日中は2020年度を上回る状況となった。非常に多忙な状況であったが、聖マリアンナ医科大学救急医学講座の先生方の協力のもと、事故なく対応することが出来た。

入院症例に関して、高齢者の方の搬送が増加している。社会背景が複雑な症例もあり、救急搬送と共にMSWの方々の協力を得、地域の福祉関係の方とのコミュニケーションを依頼する症例もしばしば経験している。そして入院の契機となった救急疾患が治癒してもご帰宅できない症例が散見される状況が続いている。このような退院困難な症例は院内の地域包括ケア病棟に転棟するとともに他科医師が治療に当たる体制が構築され、救急科としての慢性期医療に対する仕事量は軽減したが完全には解消できない状態が続いている。

研修医教育に関しては患者のバイタルを安定化しながら、理学的所見をしっかりと取ることを重視しつつ、当院の診断機器を駆使して診断する方法を教授している。また2020年に続いて他院からの研修医の受け入れも行うことが出来、研修医同志での連携も生まれつつある。

当院は診断機器に恵まれているため画像診断に頼る傾向が生じてしまうが、今後の医師としての成長のため診断機器がない医療施設でも対応できるよう病態把握や理学所見をしっかりと取りながら患者の重症度、緊急性を判断するよう努めている。研修医には画像は理学所見などの答え合わせのつもりで検査を行うように指導を行っている。時に研修医からの指摘で診断に至ることもあり、日々お互いに研鑽している。

Off the job trainingとしては日本救急医学会認定ICLSコースを2回開催した。

当院は3次救急疾患を受け入れることも十分出来る設備・環境が整えられている。当院で提供できる医療は当院で行い、対応困難な疾患に関しては当院で診断を行ったうえでより高次の施設に依頼する形をとり、少しでも地域医療に貢献出来るようにと考えている。

また転院搬送で急性期治療を乗り切り、落ち着いた症例に関しては当院に戻って頂く形で少人数でも対応可能な救急医療を模索している状況である。

病理診断科

部長：末松 直美

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

病理専門医研修指導医	末松 直美 (1978年)
病理専門医	小菅 則豪 (2008年)
臨床検査技師	日比野 智博 (2010年卒/ 細胞検査士2013年取得)
	小川 健一 (2019年卒)
	牧田 佳奈 (2019年卒)
医師事務作業補助者	柴崎 修一
医師事務作業補助者	宇治野 綾香

概要

病理医二人の体制になって2年目である。下半期には、欠員であった臨床検査技師も補充され、人員体制は申し分のない状況である。来年度に繋がるように、スタッフ各人には、初心に帰ってさらに精進されることを願う。

2021年度総括

- ・2021年10月に、臨床検査技師 上野貴博が非常勤としてスタッフ入りし、一人欠員であった臨床検査技師が補充される形となった。ルーチン業務を担えるようになるには、少し時間を要する。周囲のサポートが鍵となる。
- ・小菅則豪医師は、2年目を迎えており、さらに活躍されることを願っている。
- ・臨床検査技師 牧田佳奈は、卒後3年目で、日本臨床検査同学院が主催する二級臨床検査士“病理”の資格を取得した。来年度は細胞検査士の資格取得を目指している。
- ・臨床検査技師 小川健一には、来年度、同資格取得に挑戦してもらいたい。
- ・「図1」には、組織診、細胞診の検体数の四半期平均を、過去7年間の年度別にグラフにした。
- ・組織診の2021年度件数は、四半期平均が451.0件で、コロナ禍前に戻りつつあるが、四半期ごとの推移では、コロナによる緊急事態宣言の発動・解除に一致して、検体数の増減が如実にみられる。診療業務も平穏時に戻ることを切に願う。
- ・組織診断に必須の免疫組織化学 (IHC) の件数は

増える一方である。コンパニオン診断のためのIHCが増加する中では必然ともいえる現象であるが、IHCを院内化していることで、一検体当たりのコストを抑えることが出来ており、増加に対応できる体制にある。

- ・細胞診は、婦人科健診の検体が順調に伸びたこともあって、315.8件/四半期で、昨年をさらに大きく上回った(2020年度：265.8件/四半期)。婦人科件数が全細胞診件数に占める割合は43.5%(550件/1263件)で半数に近い。
- ・2019年3月から院内化された、遺伝子変異自動解析装置 i-densy による遺伝子検査は、2020年度、2021年度と引き続き実施されている。2021年度に院内で実施された検査件数は EGFR：20(23)件、RAS/BRAF：36(44)件、IDH1/2：0(4)件、UGT1A1：6(12)件で、計62(83)件であった(カッコ内は昨年度値)。検査件数は減少傾向にあるが、次世代シーケンサーによる遺伝子検査の集中化が図られていることが一つの要因である。今後どのように対処するか、検討を要する。
- ・SARS-CoV-2 のPCR 検査は、帰国者・接触者外来が開かれていた8月までで237件実施された。このうち42件が陽性で、17.7%の陽性率である。これ以降は、院内の緊急検査3件が実施されたにとどまる。
- ・2021年度の剖検数は4例であった(表1)。剖検は、医療を検証する唯一の手段であり、医療の現場にあってこそ、死亡例という負の結果から学ぶ姿勢を絶やすべきではない。少しでも、その機会が増えることを切に願う。
- ・CPCの開催も2021年度は4例であった(表2)。全病院レベルで剖検によって明らかになった事実を共有し、今後の医療に資するところがあるように、臨床上の疑問に誠実に答えていきたい。
- ・臨床とのカンファレンスの開催状況を「表3」に記した。
- ・外科との術前カンファレンスは、次週手術予定の症例を対象に、乳腺科朝カンファレンスは前週の生検材料を対象に行っている。
- ・画像所見や病理所見を交えながらdiscussionし、術式や治療方針などを決めていく。研修の医師にとっても、通り一遍の知識ではなく、多角的な意見を聴くことができ出席して勉強になる会であると思う。
- ・消化器内科とのカンファレンスは、現在、月1回の開催にとどまっているが、症例数が増加していること、大腸炎など難しい症例が増えていることなどから、回数を週1回に増やすことができないかと考えている。

実績

図1 2021年度 四半期ごとの検体数の推移および過去7年間の四半期平均

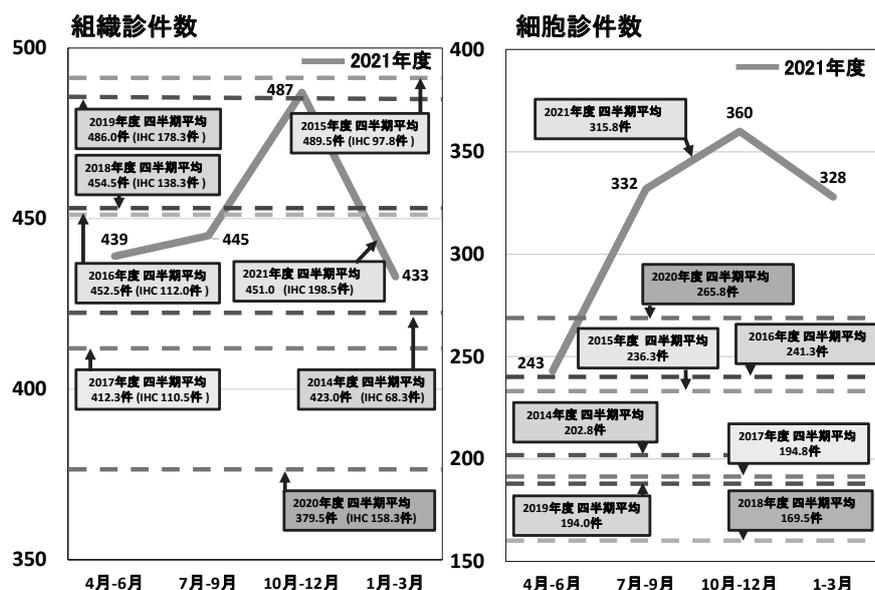


表1 2021年度 剖検症例一覧

剖検番号	死亡月日	剖検月日	執刀医	出所	担当医	患者年齢	患者性別	臨床診断
A0084	05/19	05/20	末松	救急	山口	71	M	肺炎 認知症
A0085	07/02	07/05	末松	心血	宮崎	56	F	心不全 アルコール依存症 うつ病
A0086	10/22	10/22	末松	救急	山口	90	M	肝硬変 腹水貯留 低栄養 貧血
A0087	03/15	03/16	末松	耳鼻	勝又	65	F	窒息と考えられるCPA後 呼吸不全 原因不明の発熱 肥満

表2 2021年度 C.P.C. 開催の一覧

開催回数	開催月日	剖検番号	患者年齢	患者性別	臨床診断	病理診断
第123回	5/25	A0082	60	男	胃癌疑い 多発リンパ節転移 右腎盂癌疑い 上行結腸癌疑い 食道狭窄	食道胃接合部に発したと考えられる未分化癌 (Esophageal undifferentiated carcinoma WHO 5th edition) +下部食道狭窄に対し執拗に繰り返された内視鏡的バルーン拡張術後の状態 〔直接死因〕 ①低Na血症←癌転移による副腎不全と腎の尿細管間質性腎炎 ②呼吸不全←肺の癌性リンパ管症
第124回	9/28	A0083	78	女	急性間質性肺炎 薬剤性肺胞出血 乳酸アシドーシス 両側腸骨内特発性血腫 ステロイド糖尿病	抗凝固剤(ヘパリン・ワーファリン)投与下での出血傾向 a) 現在も進行中の線維囊胞化を伴う新旧の肺内出血 b) 筋・軟部組織内への静脈性出血 ①右上腕皮下血腫 ②両側腸腰筋群から後腹膜・骨盤外膜の血腫 〔直接死因〕 ①抗凝固剤(ヘパリン・ワーファリン)投与下での骨格筋・軟部組織内への静脈性出血→失血→乳酸アシドーシス ②高ミオグロビン血症による近位尿細管障害→代謝性アシドーシス
第125回	10/26	A0084	71	男	肺炎 認知症	気管内のボール状異物と両下葉の誤嚥性肺炎 内分泌腺に多発する腫瘍あるいは過形成 〔直接死因〕 ①呼吸不全←気管内のボール状異物による両肺の過膨張と誤嚥性肺炎
第126回	2/22	A0085	56	女	心不全 アルコール依存症 うつ病	Alcoholic dilated cardiomyopathy + Alcoholic steatohepatitis with fibrosis 急性肺うっ血と肺出血 ヘパリン投与下での出血傾向 〔直接死因〕 ①心機能不全←アルコール多飲による心筋細胞障害 ②呼吸不全←肺内新鮮出血(IABPのためのヘパリン投与下)

表3 2021年度 臨床科とのカンファレンス開催状況

	開催回数/年	定例開催頻度
外科 術前朝カンファレンス	49	週1回 木曜日 8時～
消化器内科 内視鏡カンファレンス	11	月1回 第3火曜日 17時30分～
乳腺科朝カンファレンス	49	週1回 火曜日 8時20分～
耳鼻咽喉科カンファレンス	2	不定期

総合診療科

部長：平野 進

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

部長 平野 進 (1991年)

概要

2016年1月1日に当科が開設され、同年4月から地域包括ケア病棟における訪問診療医からの在宅サポート入院（レスパイト入院）および高次医療機関や周辺急性期病院からの継続リハビリや退院調整を主とした転院依頼を基本的に当科が担当する方針として入院受け入れを開始した。例年同様年間を通じて概ね5～10名程度の入院患者で推移したが、時に15名程度までの入院患者数となった時期も認められた。

2016年5月から隣接する有料老人ホーム横浜エデンの園の入所者訪問診療を週2回行い継続している。

外来診療は当科の性質上再診がないため、小職の前医からの担当患者の予約外来のみ継続した。

2021年度総括

2020年度転院受け入れ33件、サポート入院71件であったが、2021年度はサポート入院件数は2020年同数の71件、サポート入院は21件でわずかに2020年より減少傾向となった。

2021年より救急科の急性期加療が終了し退院調整が主となった患者を地域包括ケア病棟に転出するタイミングで当科が受け入れることにより救急診療の効率化を図る試みが開始され一定数の受け入れを行った。今後も継続して受け入れを行って行く予定となっている。

訪問診療医からの新規の定期的レスパイト入院患者は例年同様の件数で引き続き地域連携を強化して症例数の増加を図りたい。

高次医療機関や周辺の急性期病院などからの転院療養の受け入れに関しては、精神科疾患や血液内科疾患などを有し当院での受け入れが困難なケース

や、急性期から脱していない症例の申し込みも例年同様にあり全例受諾はできなかったが、年間を通じて安定した受け入れが例年同様にできた。

入院診療における急性期症状に関しての対応は例年同様院内ほぼ全ての科のご協力をいただき行った。当科の入院患者は基本的にかかりつけ医に戻り当科の再診がないことから、外来受診者数の増加は見込めないが、入院症例に関してはこの数年で緩やかな増加傾向になっている。

関東に点在すエデンの園をはじめとする聖隷福祉事業団の関連施設との連携強化・発展が総合診療科設立の際の目標であったため、隣接する横浜エデンの園入所者の定期診療や当院専門外来への適時紹介、日中の往診対応などを継続して行った。居室への訪問診療は非常に好評で継続している。また2017年4月より関連施設の横須賀愛光園への産業医業務出張を開始し継続している。

2022年度への展望

地域医療機関からのレスパイト入院受け入れに関しては、開設当初より100%の入院受け入れを引き続き目指す。また転院依頼症例に関しても可能な限り受け入れの方針を継続するが、急性期治療を要する症例が散見され、1名科である当科の陣容では対応が困難であることがあり今後の継続検討課題である。

入院管理患者数に関しては引き続き地域連携強化を強めて更なる受け入れ症例数増加を目指す所存である。

また先述した救急科入院患者の当科受け入れに関しては一定程度の救急科運営の効率化が図れたため引き続き行っていくが、内科的な加療を尚必要とするケースについては当科のみならず各科の担当も考慮するケースが散見されるため今後の検討課題であると考ええる。

アレルギー内科

科長：渡邊 直人

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

医長 渡邊 直人 (1988年)

2021年度総括

2021年4月より、当院にアレルギー科（アレルギー内科）を新設し、試行錯誤しながら、調整してきました。看護師への検査（特殊血液検査、皮膚試験、負荷試験など）や治療（特異的・非特異的免疫療法、生物学的製剤自己注射など）の指導・教育を行い、現状は大変ご協力を頂き、スムーズに検査や治療が進められております。

各科との診療連携および各部署との連携を試み、依頼やご紹介などで協力して頂いております。

当科は、外来診療中心で、他施設ではなかなか行えない、診断や治療を取り入れております。

近隣の医師会との協力連携にも力を入れてきました。WEBによる市民公開講座や、地域連携を含めた講演会の座長や演者を担ってきました。日本アレルギー学会でのシンポジウムのシンポジストや各企業の講演会演者を通して、当科の紹介も何度か行っております。

また、禁煙外来、睡眠時無呼吸外来を6月より立ち上げましたが、禁煙補助薬の回収やC-PAP医療機器の回収に遭遇して、8月より一時新患者の予

約受付中止に至り、特に禁煙外来においては、結局復旧の目処がつかず、2022年3月までの受け入れや治療は行えませんでした。C-PAP治療では、帝人在宅医療1企業から、フクダ電子産業も加え、競争意欲を高め、また2社により機器の供給不足を補いました。

しかしながら、主たるアレルギー内科の患者数としては増加傾向をたどり、2021年度の総外来受診数は2,032名でした。気管支喘息をはじめ、食物アレルギー、薬剤過敏症の診断・治療やアレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、慢性蕁麻疹に対する免疫療法や生物学的製剤治療を行っています。また、コロナワクチン接種後の副反応や、副反応を心配されてのワクチン接種相談にいられた患者も少なくありませんでした。そのように不安を抱えた市民の患者を含め、当科受診の患者（食物アレルギー、薬剤過敏症、アスピリン喘息など）を対象に、ファイザー製コロナワクチン接種を数回臨時施行いたしました。

入院においては、患者延数230名で、各種経口負荷試験やアレルゲン（スギ・ダニ）の急速皮下免疫療法を目的に入院され、診断（治療効果判定）や治療を行っております。

一方、1人ではありますが、研修医が当科での研修を希望され、1ヶ月間の研修・教育指導を行いました。11月に当科は、日本アレルギー学会認定の専門医教育研修施設に認定されております。

最後に、アレルギー・喘息関連学会や研究会において、当院所属での演題発表を数多く活動し、当院にアレルギー科が設立されたことを、全国的にアピールしてきております。

実績

外来患者 延数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
患者延数	62	106	149	165	207	217	157	165	197	141	184	282	2,032

入院患者 延数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
患者延数	6	13	7	33	19	25	27	5	20	13	41	21	230

外来診療

月曜、木曜、金曜日の午前 / 火曜日の午前・午後 / 第2週（第4週）土曜日の午前

泌尿器科

部長：波多野 孝史

人員構成 (2021年4月1日時点 括弧内：医籍)

部長 波多野 孝史 (1987年)

業務内容

常勤医師1名、非常勤医師4名が診療に従事している。

外来診療：毎日終日診療を行っている。

手術：水曜日午前、金曜日午後

検査：尿路内視鏡検査、造影検査、エコー検査、ウロダイナミック検査を毎日行っている。

2021年度総括

①オンライン診療の導入

新型コロナウイルス感染症が日本で最初に発見されてから、既に2年半が経過した。しかしこの感染症は、デルタ株やオミクロン株のように次々に新たな株に変異することにより猛威を振るい続け、その収束のめどは全くたっていない。このウイルスの蔓延に伴い、外来患者数の減少が予測された。泌尿器科では2021年1月からオンライン診療を導入した。オンライン診療は、通常対面で行われている問診、診察、処方、予約をインターネット上で行う診療形態である。オンライン診療は通院に要する時間的負担や経済的負担がなく、自宅で診療を受けることができる。また公共交通機関を利用したり、待合室で待つ必要がないため、新型コロナウイルス感染予防にもなり、現在の患者ニーズに即した診療形態である。当科は聖隷福祉事業団が推奨する「聖隷DX計画」の一環として、オンライン診療を拡充する予定である。これにより外来患者数の増加および当院のファンを増やすことに貢献するであろう。

②結節性硬化症専門外来の実践

当科では2020年12月より結節性硬化症に対す

る専門外来を毎週月曜日午後に行っている。結節性硬化症は常染色体優性遺伝の希少疾患であるが、専門的診療を実践している医療機関がほとんどないため、患者はほぼ全国から当科に受診されている。結節性硬化症は全身の臓器に病変が出現するとともにてんかんや精神発達遅滞を伴うことが多く、当院の各科と連携して診療を行っている。加えて精神発達遅滞により、適切にマスクを装着できない患者に対しては、看護課や検査課と連携して対応している。ハンディキャップを有する患者に対する当院スタッフの献身的な配慮に感謝する。

2021年には新型コロナウイルス感染症の急拡大に伴い緊急事態宣言が発令された。その際県をまたぐ移動が制限されたため、結節性硬化症患者に対しては上述のオンライン診療や電話診療で対応した。

実績

平均外来患者数：25.0人

平均入院患者数：4.7人

主な手術件数

手術名	件数
経尿道的膀胱腫瘍切除術	29
経尿道的止血術	3
経皮的腎瘻造設術	4
経皮的膀胱瘻造設術	2
尿管ステント留置術	19
尿道狭窄切開拡張術	4
環状切除術	3
経直腸前立腺針生検	44

看護部

総看護部長：兼子 友里

2021年度総括

看護部運営方針・目標

1. 地域に根付いた医療を提供し続けるための看護職員の育成と活用
2. ケアミックス病院の特性を最大限に活用し、高稼働を維持する
3. 高齢者の生活を整える基本的看護の充足（質の向上）
4. 感染対策を踏まえた本気の防災訓練

新型コロナウイルス感染症対策が2年経過した。ゲートコントロール業務や発熱外来対応、入院前感染症検査の実施、職域・市民予防接種など病院職員一人ひとりの力が結集し一丸となって取り組んだ。また、発熱病床では徹底された感染管理対策で入院患者に医療提供が行われており、さらなる感染者を一人も出すことなく今日も経過している。強靱な体制で患者を護る看護ケアを提供し続けている東2病棟スタッフ、ならびに新型コロナウイルス感染症に翻弄されず医療を受けるべき患者を見落とさず受診へつないだA棟で働く全看護職員に敬意を表する。

近年注力している日常の口腔ケアと周手術期口腔機能管理が定着し、誤嚥性肺炎などの合併症発生率は1%に留まった。さらにACPで患者の意思「生きる」を支援することや身体行動制限ゼロを目指す人権尊重したケア提供が定着した。病床高稼働でありながら、ベッドサイドナースや看護補助者たちの妥協しないケア提供に深く感謝している。

口腔ケア、意思決定支援、身体行動制限をしないケアは当院の看護部を代表する質高い看護ケアへと確立した年であった。

1. 看護師、看護補助者の応援体制の整備をした。患者へ最良の看護ケアを提供するために柔軟な人的資源活用が必要である。限られた人員の中で、お互いを助け合い協働できる組織へ発展したい。

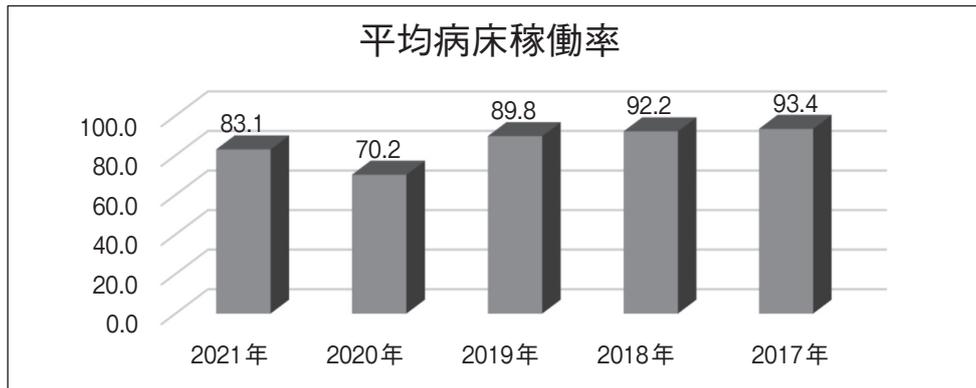
2. 回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟が安定稼働となった。患者の病期に応じた医療・看護が提供できるケアミックス病院の機能が発揮できた。
3. 入院中の生活能力を衰えさせないケア提供に口腔ケアと身体行動制限ゼロに果敢に取り組んだ一年であった。また、外来患者の暮らしとセルフケアを高める支援として、受診のタイミングや看護外来での日常生活指導にアクティブに介入した。
4. 職場単位で実施しているが診療部の参画を2022年度は予定している

2022年度看護部目標

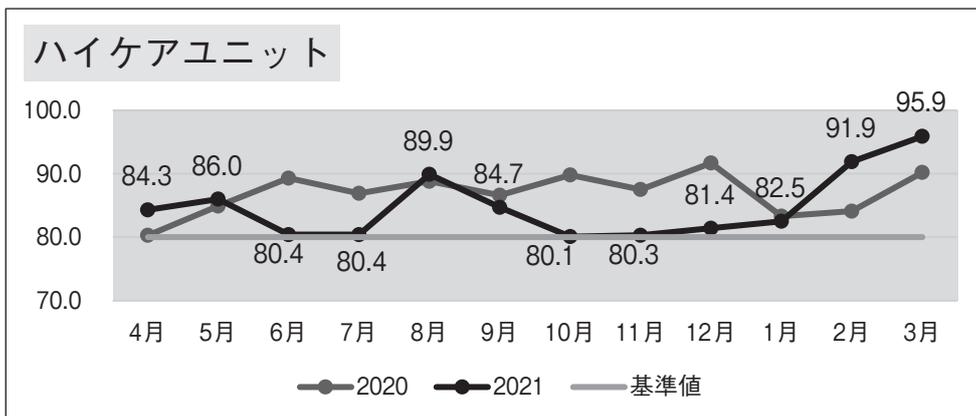
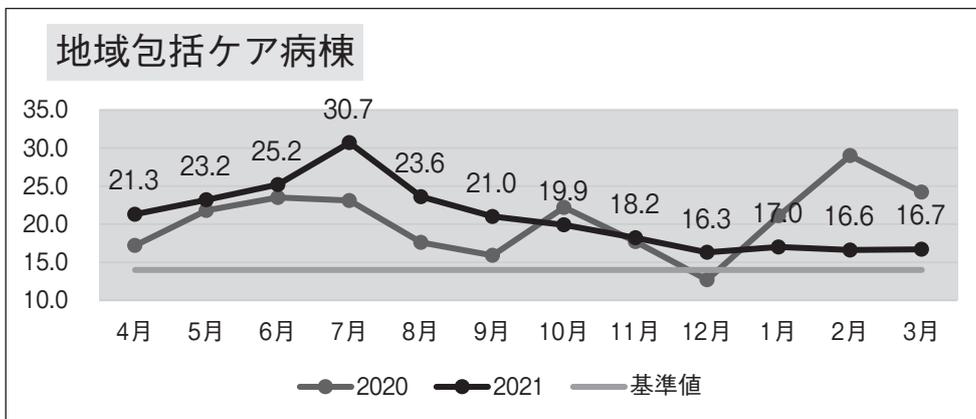
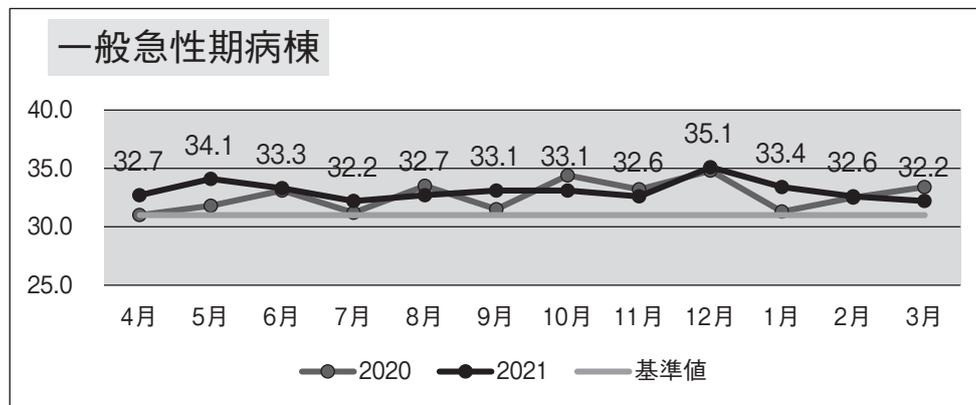
1. ケアミックス病院の機能を活かし、患者の病期に応じた基本的看護を充実させる
2. 患者を護るシステム・組織作り
3. ケアを充足するための業務改善と多様な働き方の維持
4. 感染対策を交えた院内防災訓練の実施

実績

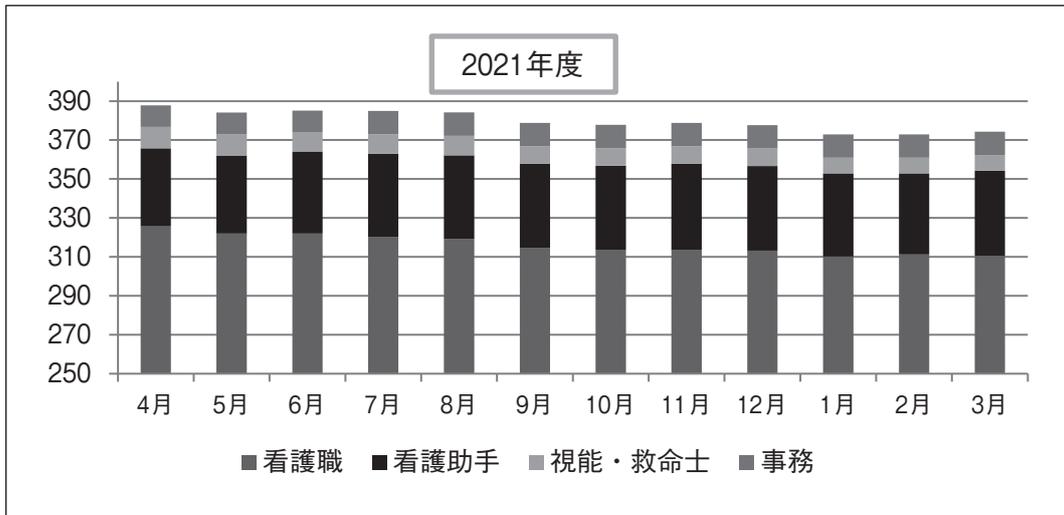
病床平均稼働率



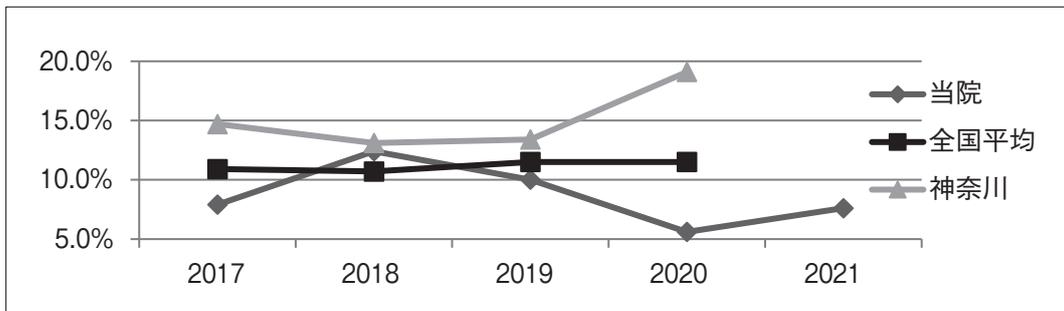
看護必要度



看護職員数（産休・育休・休職者含む）



看護職離職率



血液浄化センター

課長：平川 聡恵

人員構成 (2021年4月1日時点)

看護師	11名
看護助手	1名
クラーク	1名

運営方針

腎臓病患者の生活を

充実させる看護を実践しよう！

2021年度総括

1. 腎臓病患者の生活を支える看護の実践
「病みの奇跡」理論を用いた看護展開を実践し、職場内で発表会を開催した。また、ACPの取り組みを継続し、事前指示書が未提出の患者とも、「もしもの話」をして記録に残すことができ、意思決定支援につなげることができた。
2. つなげる看護の実践
病棟定期カンファレンスへの参加や、病棟との倫理カンファレンスの開催、ブラッドアクセスカテーテルの退院指導など病棟と連携することができた。訪問看護との連絡も積極的に行い、外来維持透析患者が当センターに通い続けられる支援を実施し、2021年度はクリニックへの転院が0件であった。
3. 自ら考え、行動できるスタッフの育成
神奈川県緊急時透析情報共有マッピングシステム (DIEMAS) に加入し、災害時情報入力訓練に参加した。また予定していなかったがオフライン透析を行う必要があり、手技の再確認をすることができた。
4. 透析室としての機能を再構築する
透析看護認定看護師を中心に継続的な意思決

定支援を行い、外来維持透析患者の腎移植登録者が4名となった。透析導入を再開し18名の導入があり、病棟と連携して導入期支援を行った。9月より入院患者のフットケア依頼を受け、51件のフットケアを実施した。

5. 気持ちよく働ける職場環境を作る
コミュニケーションの勉強会を実施し、スタッフ一人一人がコミュニケーション目標を立てて日々実践した。

実績

外来・入院透析件数

	2019年	2020年	2021年
外来維持透析	7,384	6,293	5,806
入院透析	1,116	349	1,122
合計	8,500	6,642	6,928

フットケア (糖尿病)

糖尿病疾患加算 (170点)	247件	41,990点
爪切り (60点)	90件	5,400点
胼胝・鶏眼削り (170点)	25件	4,250点

下肢末梢動脈加算 (100点)	488件	48,800点
-----------------	------	---------

フットケア (非糖尿病)

爪切り (60点)	16件	960点
胼胝 (170点)	6件	1,020点

手術室・中央材料室

課長：岩瀬 猛之

人員構成 (2021年4月1日時点)

看護師	14名
准看護師	1名
クラーク	1名

業務内容

- ・手術時の直接的介助・間接的介助および術前訪問の実施
- ・外来日帰り手術・緊急手術の応需
- ・各部門の鋼製小物および手術器械の洗浄・滅菌・供給
- ・衛生材料の管理および供給

2021年度総括

1. 患者の特性を知り、治癒力を高める能力を発揮できる手術室人材の育成と活用
2. 多職種と協働し安全な手術環境を提供する
3. 働きやすい職場づくり

実績

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2020	118	72	101	105	117	108	132	120	138	115	107	143	1,376件
2021	138	130	149	126	155	156	157	152	150	141	140	163	1,757件

緊急手術：132件

うち土日・時間外手術：67件/132件

- ・手術室認定看護師が中心となり、周術期口腔ケア加算取得の継続と対象科の拡大を行った。
- ・後期に外科医師とのSSIカンファレンスを実施し、内視鏡手術におけるSSI発生の要因について検討した。術後の創部被覆材の剥がすタイミングなどを検討した。
- ・後期に、ワークショップおよび看護の語り場開催予定であったが、オミクロン株の流行に伴い、中止となった。
- ・手術室内のリスク管理についての取り組みが、院内医療安全アワードの最優秀賞として受賞した。その月に起こったIAの注意喚起をパソコンのデスクトップに毎月表示し、意識付けをおこなった。
- ・院内統一のアクションカードを使用しながら防災訓練を行い、より現場に合わせた修正・検討を行った。
- ・手術室内の手指衛生回数の調査を実施。使用率向上のために外回り看護師に携帯型のラビジュールを導入。手術ごとの目標値には至らなかったが、使用率向上につながった。
- ・新たな科(血管外科)の新規手術導入に伴い、手順書・マニュアルの整備を行った。

外来

課長：鮫島 芳江

人員構成 (2021年4月1日時点)

看護師	30名
助産師	1名
准看護師	1名
看護助手	2名
クラーク	21名
視能訓練士	2名
救急救命士	7名

運営方針

地域に選ばれる病院を目指し、質の高い安全な医療と看護を提供します

地域とともにある救急外来を目指しチーム医療を実践します

2021年度総括

1. 利用者・地域にとっての安全な外来を創造する
発熱スクリーニングなど、新型コロナウイルス感染症対策として安全な診療環境に努めた。

実績

看護外来実績

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
糖尿病看護外来	861	462	601	878
ストマ看護外来	229	239	261	316
がん電話相談	33	35	40	34
リウマチ看護外来	2,408	2,284	1,724	1,702
CKD看護外来	(6月～) 308	336	134	381

コロナ禍における感染対策を講じた急変トレーニングを実施。また、e-learningにて全職員に対しBLSトレーニングを開催した。

救急救命士を中心に利用者の安全な誘導ができるよう火災を想定した防災訓練を実施した。コロナ禍におけるストレス緩和や承認しあえる職場風土を目指しワークショップを開催した。

2. 地域住民の暮らしを支える外来看護の実践と、患者を支えるスタッフの育成

その人らしい暮らしを支えるメッセージとして、病院ホームページにコラムを7話掲載、紙面による健康講座を5題配布し、利用者の生活に役立つ情報提供を行った。

ラウンドナースの配置により待合での体調不良の早期発見、在宅調整のための看護面談などを実践し、各看護外来や訪問看護・スペシャリストとの連携を図り、カンファレンスを開催した。

看護介入システムの構築では慢性心不全の介入基準を明確にし、地域でその人らしく暮らせるためのセルフケア支援を実施した。心不全療養指導士2名誕生。

画像診断・ 内視鏡センター看護室

課長：高井 千晶

人員構成 (2021年4月1日時点)

看護師 16名

看護助手 1名

運営方針

「専門性を発揮、安心・安全なケアを提供する」
～チームで考え、改善していく～

2021年度総括

1. 画内スペシャリストの育成を目指す
 - ・新人教育に伴いスタッフ全員にOJTの勉強会を実施し、教育体制を整備
 - ・新人教育に活用するチェックリストを作成。また根拠に基づいたマニュアルへ改訂
 - ・特定看護師およびRRSリンクナースによる急変徴候の学習会を実施。またテンプレート変更により看護の標準化と記録の充実
 - ・急変時の内視鏡ERCP検査のプロトコルを作成し、医師と共有。また急変対応シミュレーション・技術トレーニングを実施し、急変対応への知識・技術の向上に努めた
 - ・コ・メディカル会(内視鏡・カテ)、心臓血管センター内科・脳外科カンファレンスを実施
2. 看護実践を記録に残し看護を次につなぐ
 - ・検査記録の現状調査を実施し、スタッフ同士での看護実践を共有することができた。記録内容に個人差があることもわかり、実施した看護を記録に残すことへの啓蒙活動を行った。
3. 病院組織の一員としての役割を担う
 - ・放射線技師と協働し検査治療の搬送業務を実施
 - ・院内健康講座の実施
 - ・新規治療検査開始に伴い、勉強会を開催し必要な知識・準備すべき物品の理解に努め、マニュアル作成の実施：心臓血管外科による腹部大動脈瘤ステントグラフト開始

4. 患者安全のための職務遂行
 - ・患者誤認0達成
 - ・全エリアのタイムアウト実施にむけて内視鏡治療検査のタイムアウト拡大
 - ・確実な検体取扱いの継続：検体間違い0達成
 - ・6Rの徹底の継続
 - 薬剤投与方法の見直しと誤薬防止への整備
5. 危機に備える
 - ・アクションカードを使用し臨床工学技士・放射線技師と防災訓練の実施
 - ・火災発生時の避難経路および消火器・消火栓の確認
 - ・COVID対策として各検査マニュアルの周知と評価および修正

実績

項目	件数
上部消化管内視鏡検査(内視鏡治療含)	1,600件
下部消化管内視鏡検査(内視鏡治療含)	1,269件
経乳頭的胆管膵管造影(内視鏡治療含)	149件
気管支鏡検査	33件
心臓カテーテル検査 (経皮的冠動脈形成術含)	453件
アブレーション	67件
ペースメーカー留置	22件
脳血管造影検査(血管内治療含)	180件
透視下ブロック	119件
CT造影検査	3,656件
MRI造影検査	331件

B3病棟

課長：小林 明日香

人員構成 (2021年4月1日時点)

看護師 13名
看護助手 2名
クラーク 1名

主な担当科

麻酔科、緩和ケア

運営方針

人生最期の瞬間まで「その人らしい」人生や生活が継続できるように支援をしよう

2021年度総括

1. 緩和ケアの専門性を強化し、働き続けられる看護師の育成
 - ・カンファレンスの時間を変更。患者の倫理に即したカンファレンスを適宜開催し、共有の場、環境を作ることができた。
 - ・ペア制を導入し、お互いの協力体制を強化した。
2. 患者の様々な苦痛をケアするための看護実践力の向上
 - ・終末期せん妄に対して、タイムリーにアセスメント、評価ができた。
 - ・個別性を意識して部屋のレイアウト変更等を行い、患者がゆっくり過ごせる環境調整やケアを行うことができた。
 - ・患者の「最期までやりたい」をチームで検討し、可能な範囲で提供できるようになった。
3. 継続した緩和ケアが受けられるよう地域に根付いた高稼働での病床運用を行う
 - ・平均患者数15.56人であり、目標の85%には届かなかった。
 - ・緩和ケア緊急入院対応の窓口を病棟に変更し、

スムーズな受け入れが可能になった。

4. 緩和ケア病棟で起こりうる災害対策
 - ・今後、大規模災害に向けて、緩和ケアを必要としている人の対応、訓練強化が必要。

実績

2021年4月～2022年3月までの実績

入棟患者数	317人	
緊急入院加算数	37件	
平均入棟待機日数	4日	
平均入棟日数	19.25日	
転帰	自宅退院患者数	55人
	死亡退院患者数	244人
	その他	21人

東 1 病棟 (回復期リハビリテーション病棟)

課長：酒井 志乃

人員構成 (2021年4月1日時点)

看護師	16名
看護助手	4名
クラーク	1名

主な担当科

脳神経外科、整形外科

運営方針

- ・“その人らしく生活”できるように、すべての職種が協働しながら、援助を計画・実践する
- ・地域と連携し社会参加に向けて、個人の病態や生活環境に配慮したリハビリテーション支援を行う

2021年度総括

1. ケアミックス病院での回復期リハビリ病棟としての役割を果たす(多職種との協働)
2021.5に最短で入院料1の加算を取得。重症率・重症回復率・実績・在宅復帰率を維持しながら、稼働率も徐々に上昇した。多職種連携を大切にし、それぞれの職種ができることを発揮した。

実績

	2020.7~3	2021.4~9	2021.10~3	2021年度平均
重症者率	37	35.3	42.2	40.25
実績	56	54.25	56.96	55.6
平均在院日数	53.9	67.58	75.4	71.49
在宅復帰率	96	99	99.8	97.9
稼働率	56	79.3	89.4	84.35
1日当たりリハビリ提供単位数	4.9	5.06	5.03	5.05

日々退院支援看護師や急性期病棟課長と患者の情報共有をしながら、多職種での判定会で入棟予定患者の情報共有と入棟する時期について検討した。急性期治療を終えた患者が転院することなくスムーズに回復期病棟に移れることで、早期からリハビリの強化ができ、在宅復帰につなげることができた。

2. 患者の生活を整える基本的看護の充足(質の向上)
患者の「できるADL」から「しているADL」になるよう、多職種連携を強化しながらそれぞれの職種が活かせるよう関わった。看護では、身体状態の把握、患者・家族の意思決定支援、リハビリでの頑張りを労い患者のリハビリ意欲を維持できるよう支援した。その他にも入浴の自立に向けた支援、定期的な季節レクリエーションなどを含めた離床支援を実践した。
3. 働き続けるためのスタッフの育成と職場づくり
スタッフの育成、モチベーションを維持するために、日々実践している「見守る看護」の語る場を作った。業務改善や看護補助者へのタスクシフトも含め、働き続けられる職場環境づくりに取り組んだ。2021.4月~2022.3月まで離職率はゼロであった。

東2病棟

課長：小川 実花

人員構成 (2021年4月1日時点)

看護師	21名
看護助手	5名
クラーク	1名

主な担当科

呼吸器内科、呼吸器外科、乳腺科

運営方針

多職種協同で実践力を高め 患者の肺・乳（むね）によりそう看護を提供する

2021年度総括

11月より院内発生等のCOVID-19陽性者の受け入れが開始し、発熱エリアと一般病床の運営両立のため、感染対策や専門性向上、スタッフ育成を行った。

1. 安全な医療を提供し続けるためのスタッフ育成とWLBを意識した職場環境づくり
係長会、病棟会、カンファレンスの場を活用し、スタッフ同士が高め合う風土づくりを行った。パート看護師、助手の業務内容の拡大、終礼による残務調整により、時間外勤務の適性化を図った。
2. 入退院支援のさらなる向上と継続
DPC勉強会、入院時情報収集の強化、退院支援リンクナースの活動日の設定、受け持ち看護師主体のカンファレンス実施により、スタッフ全体の意識が向上し、退院支援の早期介入に繋がった。
3. 治療の段階にあった看護が提供できるための専門性の向上

各リンクナースによる勉強会の開催からOJTへ繋げ、現場での継続教育を実施した。乳腺科手術見学は3名実施した。

4. 感染・急変・災害に強い病棟づくり

変化する感染エリアの役割に合わせて環境を整備し、感染対策を行った。急変時シミュレーション実施（年4回）、防災関連物品の整備は病棟の特性を考慮して感染対策を含めて実施した。

実績

平均在院日数	12.5日
看護必要度	42.8%
乳腺科 手術件数	49件
呼吸器外科 手術件数	51件
発熱エリア 転院スクリーニング対応	333件
発熱エリア 陽性患者受け入れ	13件
発熱エリア 陰性化患者受け入れ	58件

東3病棟

課長：野上 智子

人員構成 (2021年4月1日時点)

看護師	30名
看護助手	5名
クラーク	1名

主な担当科

消化器外科、消化器内科、泌尿器科

運営方針

患者中心の医療。

看護が実践できるチームになろう！

2021年度総括

感染対策を継続しながら看護の質を担保し、地域完結型を目指すために必要な取り組みを実践した1年であった。

1. 病棟の特性を踏まえ、患者の意向に沿った適正な病床管理と退院支援
早期退院を目指し、関連職種とのカンファレンス開催は定着してきている。退院支援加算取得においては昨年を上回る件数であった。感染対策に留意し、必要な患者に対し地域との拡大カンファレンスを行うことができ、介護支援連携加算取得につなげることができた。
2. 患者の生活を捉え、整える基本的看護技術の提供
誤嚥性肺炎予防として口腔ケアの推進に取り組んだ。結果、入院中の誤嚥性肺炎併発率は昨年の4%から1%へ低下した。
RRSリンクナースが中心となりNEWの勉強会や急変のシュミレーションを実施。重症化を未然に防ぐためのスタッフ教育や急変対応力向上に努めた。

3. やりがいを持ちいきいきと働ける人材育成と活用
補助者活用としてフロア化の運用を開始した。また、やりがいにつながるよう互いの看護感を知る機会として、関連職場との合同カンファレンスを開催した(3回/年)
4. 感染対策を踏まえ災害で1人1人が動けるスタッフの育成
有事に備えアクションカードを使用し病棟で医師を含めたトリアージについて訓練を実施した(1回/年)

東4病棟

課長：利根川 綾

人員構成 (2021年4月1日時点)

看護師 28名
看護助手 10名
クラーク 1名

主な担当科

総合診療科他

運営方針

こころを燃やせ+こころをつかって考える

2021年度総括

1. 次世代を担う看護スタッフの育成
リーダーごとに共有目標を立て、ジェネラリスト3名が担当しフォローアップした。リーダーごとに目標を立てたことで課題が明確化され、課題に合わせて具体的に介入を行うことができた。若いスタッフにグループリーダーを担ってもらい、リーダーとは何かを学び先輩の支援を受けながらグループ運営をすることができた。集合研修が難しいこともあり、メール・アンケート機能を利用して勉強会を行った。
2. つながる記録・つながる看護
退院支援の一貫として、5W1Hを意識したカンファレンスを行い記録に残し、介入したことで退院支援を計画的に進めることができた。
3. 高稼働を維持する
平均稼働は88%で目標の90%を超える日も多くなってきた。病院全体の稼働に左右されることが多いため、DPCを意識して地域包括への入棟が必要な患者の見極めをしていきたい。リハビリと、患者の目標を日々確認しながら

退院支援を進めたことにより患者獲得や退院支援の計画的な実施を行うことができた。

4. 高齢者の生活を整える基本的看護の充足
入院環境を生活環境へと目標設定し、患者のベッドサイドで患者が安全で過ごしやすい環境を検討した。検討の際は看護師・看護助手・リハビリとともに患者のADLや嗜好を元に環境調整を行った。認知症があっても身体拘束することなく過ごせるよう調整した。安全で美味しく食べることのできる環境作りとして、栄養士・リハビリと相談し食事形態や食事内容を検討した。高齢者も多く脱水予防で点滴を継続している患者がいるが、認知機能の低下から点滴を自己抜去してしまうケースも多いため、点滴をせず経口摂取量を増やしていけるよう検討し実施した。認知症がありながらも、食べたいものを美味しく食べながら療養生活を送ることができるような場を作った。
5. 自分も大事みんなも大事
コロナ禍でメールを使用しての机上学習となったが、防災訓練を実施した。パート遅番を活用し業務分担をしながら超勤削減に努めた。20時間以内/月を達成することができた。

実績

病床稼働率	平均88%
在宅復帰率	平均84%
拡大カンファレンス・リハビリ見学	161件/年

西 1 病棟

課長：佐藤 典子

人員構成 (2021年4月1日時点)

看護師	26名
看護助手	4名
クラーク	1名

主な担当科

脳神経外科

運営方針

一人一人の持っている力をチームの力につなげよう

2021年度総括

1. 患者の生活を整える看護の質の向上
リハビリカンファレンス・病棟内デイケアを新たに導入し、週末のリハビリ継続と離床の機会を増やし、せん妄・認知症ケアとして実践した。
2. 個々のキャリアに繋がるスタッフの育成と活用
RRS研修を終了したスタッフの提案・勉強会を通し、NEWSの活用を軌道にのせることができた。またOJTを実践する中で、チームリーダーのさらなる育成が今後の課題とされる。
新人教育については、臨床実習の経験が少ないスタッフが増加することを考え教育プログラムを個々に合わせたものへ修正することができた。
3. 早期介入しスムーズ&シームレスな退院支援の実践
グループの活動を強化し、より家族・本人指導のプランニングに繋げることができている。家族看護の視点をさらに持ち、さらに早期退院支援を意識し関わるのが今後の課題である。

4. 危険予測を考えた安全な療養環境の提供
病棟での防災訓練を勤務内(日中・夜間)に開催することができたが、多職種と協働した訓練を行うことが2022年度の課題である。
褥瘡・安全・口腔ケアなどの患者ケアについてのカンファレンスを定期(毎週)開催し、看護実践に繋がるよう取り組むことができた。
急変シミュレーションは3回/年実施し、事例の振り返りも含め実践することができた。
看護補助者の業務改革として、ACU・SCUと共にワンフロア化を導入した。
今後起こる看護補助者の確保も視野に入れ、タスクシェアを考えた業務改善に取り組む。

西2病棟

課長：田口 和美

人員構成 (2021年4月1日時点)

看護師	35名
看護助手	6名
クラーク	1名

主な担当科

膠原病リウマチ科、耳鼻咽喉科、内分泌糖尿病科、整形外科、麻酔科

運営方針

チーム力を強め変化を乗り越えよう2021

2021年度総括

2021年度は整形外科医師の増員により、入院患者数・手術件数の増加があり、病床管理にも大きな影響を与えた。

そのため、緊急入院をスムーズに受け入れることができるように、退院調整の促進・ケアミックス病院の機能を活かした、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟との連携を強化につとめた。

看護師として早期の退院支援介入できる能力の向上を目指し、リンクナース・係長中心に活動を行ない、病棟目標としての「回復期・地域包括ケア病棟対象者のトリアージ能力の育成」をすすめていた。現在もこの能力に向上に対する取り組みは継続しており、2022年度も継続した課題となっている。

手術件数増加と共に術式も多様となり、また、周手術期看護能力の向上も求められている。病棟看護師はそれらの看護に対応できるように学習を進める1年となった。

運動器疾患・高齢者患者を担う病棟として、患者の持てる力をいかす看護を目指し、2020年度より取り組みを進めている「リハビリダイアリー」に

ついて、院内学会での発表を行った。学会発表からも、この取り組みは、患者のリハビリ意欲の向上につなげることができる試みであることが証明された。さらに、看護師だけでなく、リハビリ部門や医師など多職種に向けてのアプローチにもなり、「チーム医療」への貢献にも繋がった。この取り組みは、2022年度の運動器看護学会への発表を目指し準備を行っており、さらに看護の成長に繋げている。

西3病棟

課長：伊東 路子

人員構成 (2021年4月1日時点)

看護師	29名
看護助手	5名
クラーク	1名

主な担当科

心臓血管内科、腎臓内科、救急科、アレルギー内科、眼科

病棟目標

1. 家族と共に心不全患者を支える
2. 高齢者を支える基本的看護の実践
3. 専門職としての真を持ち心豊かな感性を持った看護職員の育成と活用

2021年度総括

1. 家族とともに心不全患者を支える
心不全患者のセルフケア支援の強化を軸に病状にあった心不全療養指導計画の立案や病期に応じた療養指導の実践をした。教育ツールに心不全手帳を活用し他病棟や外来へ継続支援を展開した。心不全教育入院は2年目となり、教育入院患者9名の受け入れをした。心不全指導療法士は新たに2名誕生した。ACPを意識しカンファレンスを活用し病態にあった個別性のある看護展開が今後の課題となる。
2. 専門職としての真を持ち心豊かな感性を持った看護職員の育成と活用
新人離職率は3年連続0%を維持した。看護管理体制を編成しパートナーシップを導入した教育体制を構築した。日々のカンファレンスではスペシャリストを活用し専門的な視点をもち患者への最善のサポートをチームで提供できるよう取り組んだ。急変シミュレーションは年間2回開催した。

3. 高齢者の生活を支える基本的看護の実践
チーム体制を編成しケアナースと看護補助者で清潔ケアをタスクシェアし日々のケアを実践している。グループを中心に定期的に5Sの環境ラウンドを実施し安全で清潔な療養環境作りに努めた。身体行動制限はゼロには至らなかったが、認知症看護認定看護師を中心に抑制しない看護やせん妄標準予防ケアの実践をしている。

急性期ケアユニット

課長：内野 友美

人員構成 (2021年4月1日時点)

看護師 13名
看護助手 1名

主な担当科

全科における重症患者もしくは術後など重症化が懸念される患者

運営方針

多職種協働により質の高い医療を提供しよう

2021年度総括

2020年度から全科の重篤患者の受入れを強化し、2021年度では院内の重症患者の集約が可能となった。特に重症心疾患患者の受け入れに力を注ぎ、IABP・PCPS装着患者の受け入れ態勢も整えられ、急性期ケアユニット（ACU）としての役割をさらに拡充することができた。

1. 急性期患者の先を見据えたチーム医療の提供
2020年度同様、患者の容体が安定し一般病棟へつなげることを使命とし、多職種と協働し情報を共有しながら、患者の懸念される二次的合併症予防やPICS予防を意識したケアの提供を行った。また観察力の強化により、より安全で質の高い看護の提供を行うことができています。そして、重症心疾患の患者の受け入れが多くなる一方、心不全急性増悪の患者が増えており、一般病棟との継続的介入の必要性がさらに高まった。今後は、一般病棟と連携し退院後の生活を考え、心不全指導を早期から導入していく必要がある。
2. 安全で安心できる療養環境の提供
COVID-19中等症以上の患者を受け入れられる

よう、マニュアルの整備、受け入れ時の配置図の修正を行いスタッフ全員で共有することができた。

災害訓練の実施が初動訓練となってしまったため、重症患者の搬送を実践訓練として実施することが今後の課題となる。

3. 広い視野と専門性をもった人材育成
他病棟で経験できない重症患者のケアや人工呼吸器管理などクリティカル領域の看護を学べる場として、他病棟からの体験研修の受け入れを継続している。また、認定看護師過程進学者が1名おり、2023年度に慢性呼吸器疾患認定看護師誕生予定である。
4. 働きやすい環境整備
看護補助者フロア化を導入すべく1階フロア（西1病棟、SCU、ACU）の助手業務内容を西1病棟課長と作成し実施した。安定的な看護補助者の供給があり、患者退出時の物品搬送や検体搬送、ベッド作成を看護補助者へ移譲することができ看護師のケア時間の充足に繋げることができた。

脳卒中ケアユニット

係長：森谷 のり子

人員構成 (2021年4月1日時点)

看護師 13名

主な担当科

脳神経外科

病棟目標

一人一人の持っている力をチームの力につなげよう！

2021年度総括

1. 急性期脳卒中患者の特性を理解し的確なケアを提供できる
2. 脳卒中看護の専門的知識・技術を持った看護師を育成する
3. 危険を予測し、安全で快適な療養環境の提供ができる
4. 超急性期から退院に向けた患者の社会復帰をめざす

実績

実病床稼働率	98.9%
平均在棟日数	9.4日

疾患	総数	脳梗塞	脳出血	くも膜下出血	その他
人数	301人	230人	59人	11人	1人

転帰先	自宅	回復期	その他
人数	171人	76人	54人

在宅復帰率：56%

脳卒中ケアユニットでは、脳卒中を発症早期から24時間体制で集中的に治療する病棟である。この病棟で治療することにより、症状の早期回復、入院期間の短縮、自宅への退院率の増加、さらには重症患者の死亡率の低下などが得られ、長期的な日常生活能力や生活の質（QOL）の向上を目指している。

当病棟は2021年度に病床数を6床から9床へ増床した。地域の患者へ脳卒中のケアを提供する体制を整えた。また、重症患者の受け入れも開始しており、多様な病状の患者に対する治療・ケアを提供する環境を整えた。それに合わせ、専門性の高いケアを提供するため、知識・技術の向上のためスタッフ育成に努めた。

超急性期からの退院支援として、365日を通してリハビリが行えるよう、脳外科カンファレンス・リハビリカンファレンスを継続し、週末・祝日に関わらず患者へ必要なリハビリの提供を継続した。

2022年度は、より脳卒中患者へ安全に治療を受けられる環境を提供し、専門性の高いケアの提供に取り組んできたい。

看護相談室

課長：根岸 恵

人員構成 (2021年4月1日時点)

看護師 2名

がん看護専門看護師 1名

精神看護専門看護師 1名(非常勤)

運営方針

- ・エンドオブライフケアの質向上
- ・多様な人材育成に向けたキャリア支援

2021年度総括

がん看護専門看護師の活動は緩和ケア病棟関連の面談がほとんどを占めた。緩和ケア病棟の入棟相談外来と入院調整を担当し、入棟相談外来件数は506件、入棟患者数317名であった。ACPに関しては、年間で2,278件の事前指示書が提出され、1,767件のもしもの話し合いが診療録に記載されていた。質の高いもしもの話し合いをまとめた「ACP Letter」を毎月発信した。

精神看護専門看護師(非常勤)は認知症ケアチームラウンドへの参加を開始し、病棟看護師へ認知症ケアについてアドバイス・ケア推奨を行った。新入職員の体験カウンセリングは本年度も継続して実施した。

実績

がん看護相談件数：791件

相談内容	延べ件数
緩和ケア病棟入棟	480
症状マネジメント	211
在宅療養の調整	149
がん診断・治療	127
家族問題	45
心理的問題	20
アドバンス・ケア・プランニング	16

精神看護相談件数：386件

相談内容	延べ件数
患者の精神症状 抑うつ	46
患者の精神症状 せん妄	3
患者の精神症状 その他	13
家族の精神症状 抑うつ	2
職員メンタルヘルス支援	127
復職支援	29
体験カウンセリング	70

せいれい 訪問看護ステーション横浜

所長：川並 あさき

人員構成 (2021年4月1日時点)

看護師	13名
理学療法士	2名
作業療法士	2名
事務	1名

運営方針

- 1) 経営指標に基づいた事業運営
- 2) 聖隷横浜病院とのさらなる連携
- 3) 質の高いサービスの提供
- 4) 感染症対策の充実と継続
- 5) 働きやすい職場環境づくり

実績

	収入(千円)	支出(千円)	訪問単価	介護訪問件数	医療訪問件数
予算	143,113	118,000	10,566円	10,395件	3,150件
実績	132,000	112,754	10,573円	9,901件	2,610件

2021年度総括

COVIDの影響を大きく受けることなく経営は安定していたが、7月以降は医療保険、介護保険ともに利用者数や訪問件数が予算に未達で収支も下回った。8月末に退職した職員の補充ができなかったことも要因の一つである。

院内との連携は外来看護師、緩和ケア病棟との連携強化ができているが、2021年度は回復期病棟への積極的な働きかけができず、退院前からのかわりを持つことができなかった。

看護部委員会 2021年度 実績報告

委員会名称	開催回数	年間活動目標 (大項目のみ)	活動実績
在宅療養支援 (TUNGU) 委員会	8回	<ol style="list-style-type: none"> 在宅療養支援において、中心的役割を担うことができる。 (ロールモデルになる) リンクナースの活動を通し、病院と地域の「TUNAGU」をひろげる 	<ol style="list-style-type: none"> DPCとケアミック病院としての機能について勉強会を開催、毎月退院支援について事例検討を実施 看護サマリーを活用した退院支援の情報提供について検討するとともに、在宅療養指導用パンフレットの修正について検討した
看護リスクマネジメント委員会	12回	<ol style="list-style-type: none"> 転倒転落に伴う有害事象（骨折）を7件以下にする 患者誤認ゼロを目指す 医療事故・急変危険予知・対応力の向上 	<ol style="list-style-type: none"> 3原則に基づく記録や鎮静薬剤の使用状況など身体行動制限記録調査の実施：有害事象14件 転倒転落看護計画の見直し 簡易レポートと転倒転落の相関性を明らかにする（看護研究） 与薬関連の患者誤認レポート検証 確実な照合をするための啓蒙活動 各職場で取り組む安全管理対策の共有
認知症ケア向上委員会	10回	<ol style="list-style-type: none"> 認知症ケア・せん妄ケアにおける知識・技術・態度を習得する 認知症ケアに関する事例検討を行い、患者の立場に立った問題がわかる 「認知症サポートチーム」の体制構築に向けて取り組む 	<ol style="list-style-type: none"> リンクナースとしての知識・技術の習得と各職場への還元 職場内での認知症ケアの成功体験や悩みの検討と共有 COVIDにより中止となっている院内デイケアに変わり各職場の取り組みを院内への周知と「オレンジレーター」の作成 2月より「認知症サポートチーム」として、看護師・薬剤師・リハビリと院内ラウンドを開始。今後は医師を含めたチームとしての活動を目指す
看護パス・記録監査委員会	10回	<ol style="list-style-type: none"> 看護記録監査の実施 クリニカルパスの理解と運用 全ての看護師がフォーカスチャーターティングについて学び記録できる 	<ol style="list-style-type: none"> 記録監査（91症例） 新人対照電子カルテ操作訓練 フォーカスチャーターティング勉強会 マニュアル改訂 (クリニカルパス、IC記録) テンプレート承認
看護感染予防委員会	11回	<ol style="list-style-type: none"> 職場の特性を踏まえた感染予防対策に取り組む 感染予防委員としての知識技術の習得 	<ol style="list-style-type: none"> 新人研修の講師を通じて自身の知識・技術の再確認 手指消毒剤使用量を各職場で目標設定し、使用量向上に向けての取り組み 感染対策に関する勉強会を5回/年実施 各職場の取り組みの共有と、良い所をフィードバックし職場への反映に繋げた

委員会名称	開催回数	年間活動目標 (大項目のみ)	活動実績
褥瘡予防委員会	11回	褥瘡発生1.0%未満、院内発生55人以下、ステージⅢ以上0件目標 1. 褥瘡予防ケアの知識と技術を身につけ褥瘡対策周知活動を実践 2. 事例検討の実施 3. 褥瘡診療計画書監査 4. 摩擦とずれを最小限にする患者移動とポジショニングスキルの周知活動 5. 入院時褥瘡保有有無と観察強化 6. 褥瘡カンファレンスの継続 7. 紙おむつ使用方法の習得と周知	①褥瘡発生1.58%、発生人数 94人、ステージⅢ以上発生0件であり、目標未達成。終末期患者の発生件数が多く対策が課題。ステージⅢ以上の発生がないことから、皮膚観察が徹底され早期発見につながっている ②リンクナースが褥瘡回診に同行し、処置方法やポジショニングの学びを深めた
看護共育委員会	11回	1. 習得した知識・技術を患者理解につなげる力を育む 2. e-learningなどのデジタル教材を活用した、新しい研修スタイルの基盤を作る 3. 看護補助者の多様な働き方に合わせた共育環境を提供する	①病態学習を看護に活かす、看護論を用いた看護展開、倫理カンファレンス開催等、研修の学びを臨床に繋げる機会を増やしている ②研修評価は、デスクネットのアンケート機能を用いた集計システムを作り上げた ③看護助手の人員不足などがあり、2021年度は着手できなかった
NQC（看護ケア質向上）委員会	9回	質の高い看護を効果的・効率的に提供するための業務検	①看護必要度入力の精度を向上させるためのフィードバック ②看護・検査行為基準と看護助手行為基準の改訂 ③各職場の業務改善
口腔ケアチーム	11回	1. OAGスクリーニングの強化・推進を図る 2. 周術期口腔ケア管理料算定の定着 3. 予防歯科に向けた患者指導	①誤嚥性肺炎併発率は0.1%未満、OAGの定期的な評価と口腔ケアは定着した。訪問歯科の介入延実績は99件と昨年より24件増加した。 ②周術期口腔ケア管理料は対象240件のうち47件算定へつなぐことができた。 術後合併症としてはSSI 1件 誤嚥性肺炎 1件 と術前の歯科受診は合併症予防の一助となった ③口腔機能維持・増進の目的としたパンフレットの作成

薬剤部

部長：塩川 満

人員構成 (2021年4月1日時点)

薬剤師	25名
薬剤助手	2名

運営方針

1. 医療者、患者から必要とされる薬剤師となること
2. 安全で質の高い医療を提供すること

業務内容

調剤業務、製剤業務、病棟業務、
薬剤管理指導業務、医薬品情報業務、手術室業務、
外来業務、医薬品購入管理業務、抗癌剤混注業務、
高カロリー輸液混注業務、持参薬鑑別業務

2021年度総括

①業務の効率化

- ・超勤時間の短縮

2020年度平均残業は17.0時間/人(当直を除くと14.1時間)であったが、2021年度は19.5時間/人(当直を除くと15.8時間)であった。2020年度より増えたのは、2021年度に2名の薬剤師(9月、11月)が退職したことによる影響が考えられた。

②業務の質の向上

- ・2020年4月から薬剤師外来を開始し、入院前面談による術前中止薬のチェックを行った。2020年度は1年間で35件の中止指示漏れを発見しIAを未然に防止したが、2021年度は22件あった。つまり、2021年度は2020年度と比較し薬剤師介入の効果があり中止指示漏れが減少したと考える。
- ・2020年度から開始した連携充実加算算定(化学療法)における院外薬局との連携勉強会は2回開催した。1回目は2021年8月19日に開催し、当院の乳腺科の徳田裕先生から「乳がん診療におけ

る保険薬局薬剤師への期待」、また2回目は2022年2月10日に開催し心臓血管内科 芦田和博先生から「心疾患に対する最新治療と保険薬局薬剤師への期待」と題した講演を行った。

- ・2022年度開始予定である「院外処方箋に関する疑義照会簡素化プロトコル」など、院外薬局との連携を強化するために地域薬局連絡会を3月に立ち上げた。これにより2022年度から、2か月ごとの奇数月第一木曜日に定例会を開催することとなった。
- ・ポリファーマシーへの取り組み
2020年度は薬剤調整加算が年間63件であったが、2021年度は62件と同等であった。
- ③医療安全セミナーの開催
・2021年度はコロナ禍となりWEBにてセミナーを開催した。
テーマは、「転倒転落を防ごう～転倒とくすりについて～」とし、全職員対象で2022年3月7日～3月22日にeラーニングにて開催した。受講率は92.3%であった。
- ④薬剤師の人材育成について
・薬剤部内の勉強会は、薬剤部門長会主催の勉強会として、専門性の向上を目指し、感染・がん・DIの領域で行った。また院内では、病棟担当者勉強会の中で専門領域の知識を強化するために、2021年度は東病棟、西病棟に分かれて毎月新たに開催した。
- ・実務実習生受け入れを6名行った(星薬科大学薬学部6名)。コロナ禍であったが、受け入れを行った。

実 績

	2019年度	2020年度	2021年度	前年度比(%)
外来院内処方箋枚数	2,675	1,363	1,868	137.1
外来院外処方箋枚数	88,264	64,670	77,672	120.1
外来注射箋枚数	22,781	18,022	20,209	112.1
一般名処方枚数	57,475	46,486	49,417	106.3
入院処方箋枚数	55,109	50,019	59,669	119.3
入院注射箋枚数	97,776	84,776	109,300	128.9
薬剤管理指導料2(ハイリスク薬品)件数	2,251	2,349	2,375	101.1
薬剤管理指導料3(その他)件数	5,335	4,322	4,522	104.6
薬剤管理指導件数(合計)	7,586	6,671	6,897	103.4
退院時薬剤情報提供件数	3,640	2,725	2,909	106.8
外来抗癌剤混注件数	958	751	901	120
入院抗癌剤混注件数	108	143	109	76.2
TDM解析報告件数	76	69	93	134.8
製剤件数	3,387	3,473	2,846	81.9
持参薬鑑別件数	4,811	5,175	6,040	116.7

検査課

課長：弘島 大輔

人員構成 (2021年4月1日時点)

臨床検査技師	21名
うち	
認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師	1名
医療情報技師	1名
栄養サポートチーム専門療法士	1名
日本不整脈心電学会認定心電図専門士	2名
超音波検査士(消化器)	4名
超音波検査士(体表臓器)	3名
超音波検査士(循環器)	3名
超音波検査士(血管)	2名
超音波検査士(泌尿器)	1名
乳房超音波検査講習会認定	1名
聴力測定技術講習認定(一般)	2名
聴力測定技術講習認定(中級)	2名
緊急臨床検査士	4名
二級臨床検査士(呼吸生理学)	1名
二級臨床検査士(微生物学)	1名
二級臨床検査士(病理学)	1名
細胞検査士	2名
国際細胞検査士	1名
有機溶剤作業主任者	1名
特定化学物質および四アルキル鉛作業主任者	1名
毒劇物取扱者	4名
受付事務	4名

実績

検査件数	2020年度 (件)	2021年度 (件)	前年度比 (%)
外来採血	31,443	36,258	115
検体検査	1,269,653	1,481,477	117
生体検査	13,238	15,458	117
超音波検査	9,412	10,128	108
耳鼻科検査	6,456	7,692	119
輸血検査	2,410	2,822	117

運営方針

専門性を高め、新しいことにチャレンジする。
精度と迅速性を追求した臨床検査情報を提供する。
知識・技術を常に高め、地域医療に貢献する。
医療人として広い視野を持ち、バランスのとれた行動思考を持つ人材を育成する。
医療情勢を知り変化に迅速に対応する。
多職種と協働しチーム医療に貢献する。

2021年度総括

- ・乳腺、頸動脈エコーにおける報告書の書式や記載内容を標準化し、記載漏れや記載ミスの低減を図った。
- ・臨床工学室と連携し、心電図およびエコー装置について日常・定期点検の対象装置、内容、頻度を共有し、重複や不足のない適切な点検体制を構築した。
- ・心エコー予約枠を水曜3枠、乳腺エコー予約枠を1枠拡大し、診療科からの要望に対応した。
- ・新型コロナウイルス検査について、入院前全例検査や陽性者発生時の接触スタッフ・患者の検査への対応など、当院のコロナウイルス感染対策におけるゲートキーパーとして貢献できたと考えている。

チーム医療参加回数	回数
NST(栄養サポートチーム)	343回
ICT(感染制御チーム)	49回
AST(抗菌薬適正使用支援チーム)	48回
SMBG(自己血糖測定)指導	33回

栄養課

課長：仲戸川 豊

人員構成 (2021年4月1日時点)

管理栄養士	8名
うち NST専門療法士	2名
日本糖尿病療養指導士	2名
調理師	4名
うち 製菓衛生士	1名
介護食士	1名

業務内容

1. 視覚的に美味しそうに見える食事の提供
2. 災害時でも滞りなく食事提供できる体制作り
3. 栄養指導件数の改善
4. 入院から退院までの継続した栄養管理の実施

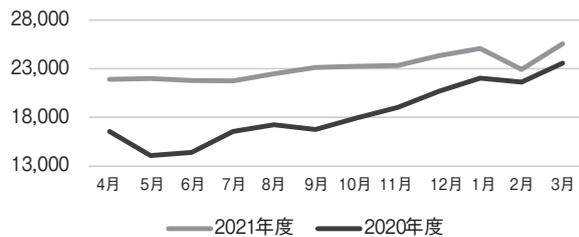
1. 視覚的に美味しそうに見える食事の提供
新規食材の導入、凝った盛付方法の導入、食器の刷新を実施。残食量の調査では約12%の削減につながり、客観的に食事の質向上が評価できた。
2. 災害時でも滞りなく食事提供出来る体制作り
職員食を含めた災害備蓄の見直しを行い、新たに停電時でも提供可能な災害時献立を作成した。栄養課食材庫内にローリングストック食材を整備することで、消費期限の管理が不要な備蓄を確保することができた。
3. 栄養指導件数の改善
栄養指導を必要とする各所（外来化学療法室、血液浄化センターなど）での定期的な栄養指導の実施と骨粗鬆症患者への栄養指導開始により、件数は大きく改善した。
4. 入院から退院までの継続した栄養管理の実施
細かなアレルギー対応やNST介入の強化によって、より安全で適切な食事の提供が可能となった。

実績

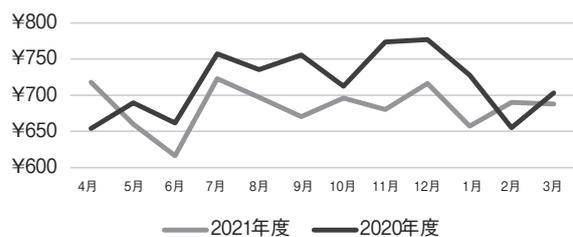
年度平均値	食数	食材料費	特別食比率	栄養指導件数
2021年度	23,126	¥684	40.4%	238
2020年度	18,368	¥717	33.1%	174

食数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
2021年度	21,901	21,988	21,765	21,755	22,462	23,104	23,261	23,341	24,357	25,067	22,928	25,586	277,515	23,126
2020年度	16,532	14,101	14,389	16,546	17,225	16,736	17,939	19,043	20,696	22,013	21,614	23,585	220,419	18,368
(昨年度比)	132%	156%	151%	131%	130%	138%	130%	123%	118%	114%	106%	108%	126%	126%
食材料費	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
2021年度	¥718	¥660	¥616	¥723	¥697	¥670	¥696	¥680	¥716	¥657	¥690	¥688		¥684
2020年度	¥654	¥689	¥662	¥757	¥735	¥756	¥712	¥774	¥777	¥728	¥655	¥703		¥717
(昨年度比)	110%	96%	93%	95%	95%	89%	98%	88%	92%	90%	105%	98%		95%
特別食比率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
2021年度	32.5%	32.6%	34.7%	34.1%	35.0%	37.5%	41.9%	43.8%	48.3%	48.8%	45.3%	49.8%		40.4%
2020年度	31.3%	35.3%	34.6%	33.1%	34.5%	31.4%	32.1%	30.4%	32.9%	33.0%	34.9%	33.6%		33.1%
(昨年度比)	104%	92%	100%	103%	101%	119%	130%	144%	147%	148%	130%	148%		122%
栄養指導件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
2021年度	229	208	228	240	246	227	255	259	260	247	205	250	2,854	238
2020年度	164	128	155	166	161	153	170	170	195	194	189	240	2,085	174
(昨年度比)	140%	163%	147%	145%	153%	148%	150%	152%	133%	127%	108%	104%	137%	137%

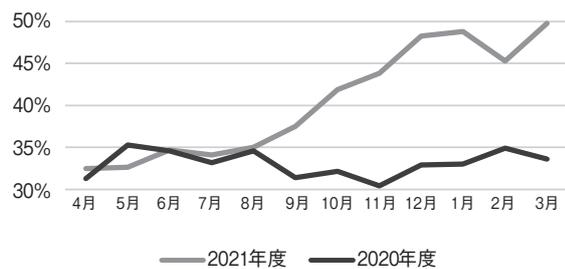
食数



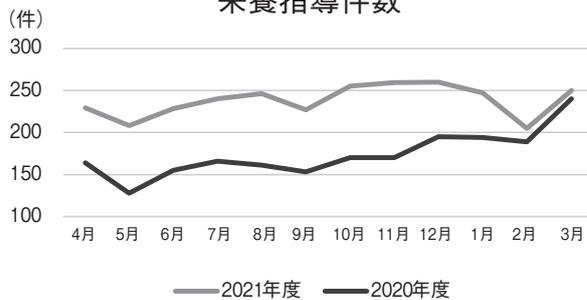
食材料費



特別食比率



栄養指導件数



リハビリテーション課

課長：向井 庸

人員構成 (2021年4月1日時点)

理学療法士 26名 (育休者1名含む)
作業療法士 13名
言語聴覚士 5名 (アルバイト1名含む)
リハビリ助手 1名

運営方針

地域住民のために急性期を中心としたリハビリテーション・サービスを提供し、健康と自己実現に貢献する。

実績

表1：対応指示件数 (摂食機能療法指示含む)

	2020年度	2021年度
理学	2,368	2,928
作業	1,319	1,308
言語	822	1,059
計	4,509	5,295

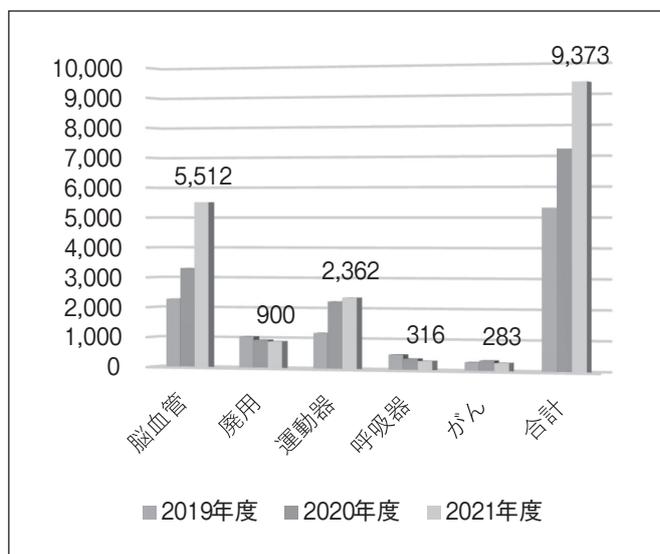
2021年度総括

運用：週末 (特に土曜日) の出勤人数を増やし、平日の担当患者数の均等化を図り、療法士1人あたりの単位数が増加した。また地域包括病棟での取り組みとして、集団療法を開始した。

教育：1～2年目スタッフへの育成シートを導入し、運用することができた。

人材育成：事業団リハビリリーダーを14名が受審した。

図1：疾患別リハビリ単位数 (月平均の年度比較)



臨床工学室

室長：物江 浩樹

人員構成 (2021年4月1日時点)

臨床工学技士 19名

- うち 不整脈治療専門臨床工学技士
- 心・血管カテーテル専門臨床工学技士
- 透析技術認定士
- 3学会合同呼吸療法認定士
- 臨床ME専門認定士
- 認定医療機器管理臨床工学技士
- 消化器内視鏡技師
- 臨床検査技師
- 心血管インターベンション技師
- CPAP療法士 など

運営方針

医療機器を介し、利用者にとって最大限のベネフィットを提供する

1. 医療機器の機能を最大限に活用し、質の高い医療サービスを提供する
2. 医療機器を安全に使用できる環境を構築し、安全な医療サービスを提供する

業務内容

1. 生命維持管理装置を含む医療機器の保守点検
2. 生命維持管理装置を含む医療機器の操作および介助業務
3. 医療機器の安全使用のための研修実施業務
4. 臨床補助業務

2021年度総括

1. タスクシフト・タスクシェアの取り組み
 - ・内視鏡的逆行性胆道膵管造影 (ERCP) での直接介助業務へ本格的に参入し、医師の負担軽減に貢献した。教育体制、手技の評価方法を整備し、2021年度3月末の時点で5名の臨床工学技士が業務に従事している。

- ・臨床工学部門で実施していた一部血液検査を検査課に移譲、運用を見直したことで利用者の負担軽減に貢献できた。
- ・検査課内で実施していた保守点検の一部を臨床工学部門で実施し、医療機器の安全性の維持に努めた。

2. 新規業務

- ・カテーテル室での腹部大動脈ステントグラフト挿入術 (EVAR) が始まり、そこでの直接介助業務に参入した。
- ・人工呼吸器装着患者の喀痰吸引業務に参入し、2021年度3月末の時点で4名の臨床工学技士が業務に従事している。

3. COVID19への取り組み

- ・陽性者の血液透析を自施設で実施するにあたり、シミュレーションを重ね徹底した感染対策の構築に努めた。2021年度は陽性者の血液透析を計7回実施した。

実 績

直接介助件数		2020年度(件)	2021年度(件)	前年度比(%)
内視鏡センター	ERCP	165	205	124
	検査・治療	2,641	2,982	113
心臓カテーテル	EVAR	0	3	
	検査・治療	572	484	85
脳血管カテーテル	検査・治療	180	157	87

検査件数	2020年度(件)	2021年度(件)	前年度比(%)
ペースメーカー検査(外来)	328	338	103
ペースメーカー検査(遠隔モニタリング)	1,024	1,245	122

医療機器保守件数	2020年度(件)	2021年度(件)	前年度比(%)
定期点検	700	730	104
日常点検	18,061	26,045	144
人工呼吸器使用中点検	919	758	82

研修件数(臨床工学室主催)	2020年度(件)	2021年度(件)	前年度比(%)
医療機器関連(eラーニング含む)	34	16	47

事務部

2021年度 実績報告

職場名称	人員構成	業務内容	2021年度総括
医療情報管理課	課長 1名 課長補佐 1名 外来医事係 3名 入院医事係 6.5名 情報システム係 3名 診療録管理室 3.5名 エルダー 1名 (委託・派遣除く) (2021年4月 現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・外来医事係：外来受付、外来会計計算・外来診療報酬請求、予約変更受付等の業務 ・入院医事係：入院受付、DPC分類コーディング、入院会計計算・入院診療報酬請求等の業務 ・情報システム係：電子カルテ等の各種システム保守管理、データ抽出等の業務 ・診療録管理室：診療録の管理・点検、がん登録業務、DPCデータ作成管理、スキャナーセンター運営等の業務 ・課全体：施設基準管理、診療情報分析等の業務、増床対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・SCUの増床対応 ・新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取り扱い対応 ・2022年度診療報酬改定対応 ・オンライン資格確認導入 ・オンライン施設基準監査 ・診療録紙カルテ精査（院外倉庫、外部倉庫） ・医事業務として、請求止めや保留、査定返戻などの圧縮
経理課	一般会計 3名 支払窓口 3名	<ul style="list-style-type: none"> ・出納業務 ・月次、年次決算業務 ・予算管理 ・患者自己負担金の授受 ・資金調達事務 ・資産保全業務（登記事務） 	<p>【特記】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月 支払窓口直雇用化 ・4月 消費税総額表示対応 ・10月 2025年度中期計画作成 ・1月 電子帳簿保存法対応 ・2月 自動精算機改修（新500円） <p>【通年コロナ対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクリーニング（共働） ・ワクチン接種（共働） ・入院前LAMP検体採取（2月から） ・補助金処理（共働）
施設資材管理課	課長代行 1名 資材係 4名 施設係 3名 合計 8名	<p>■資材係</p> <p>院内のあらゆる『もの』に関する管理全般（予算管理、購入管理、在庫管理）</p> <p>■施設係</p> <p>施設管理業務 建築物、電気、空調設備、給排水 防災、医療ガス、環境設備管理業務 増改築・改修工事計画に関わる業務 ・工程、予算、図面、既存改修調整</p>	<p>■主な備品整備実績</p> <p>脊椎手術フレーム、筋電図・誘発電位検査装置、白内障手術装置、近赤外線治療装置 他</p> <p>■主な施設管理実績</p> <p>○エネルギー使用量前年度比 電気 103.8% ガス 94.1% 灯油 86.8%</p> <p>■増改築工事実績</p> <p>○脳卒中ケアユニット増床改修工事</p>
総合企画室	室長 1名 課長補佐 1名	<ul style="list-style-type: none"> ・病院経営分析 ・経営向上に資する業務 ・予算作成 ・病院中期事業計画の策定 ・横浜市輪番病院事業および疾患別救急医療体制にかかる業務 ・新型コロナウイルス感染症に関連した業務（院内の感染予防対策、診療対策、行政との調整、行政からの新規事業の受託、新規事業の運用構築、補助金申請・実績管理 等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・診療部長と患者数増加のための重要指標を設定し、その達成のために関連部署とともに様々なアクションを実行した ・SCU増床（6→9床）を企画し、医師、看護部、総務課、医療情報管理課、施設資材管理課などと協働して2021年10月増床を実現した ・新型コロナウイルス感染症に関連した業務に感染管理委員会と協働して対応した ・新型コロナウイルス感染症に関連した補助金を漏れなく、遅滞なく申請した
総務課	課長 1名 課長補佐 1名 係長 1名 課員 7名	<ul style="list-style-type: none"> ・人事（採用活動、実習受け入れ） ・労務（給与全般、社会保険） ・庶務（補助金、施設基準、免許管理、院内保育園管理など） ・広報（対外的な広報、患者サービス、イベントに関する業務） ・医局事務、電話交換、事務当直 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムカードの電子化を実施。 ・SCU増床に伴う施設基準等の各種届出を実施。 ・コロナ禍の状況に合わせた施設基準届出と管理を実施。 ・YouTubeを利用したオンライン市民公開講座を隔月開催。

医師臨床研修委員会

委員長：新村 剛透

開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第2週水曜日

目標・開催目的

初期臨床研修医の研修内容をさらに向上し、より優秀かつチーム医療を大切にする人材の確保および育成を図る。

初期臨床研修人気地区である横浜において、選ばれ続ける病院となり、募集定員の充足を継続する。

2021年度総括

●医師臨床研修委員会（院内会議）

9回開催

2021年4月8日

2021年5月12日

2021年7月14日

2021年8月11日

2021年9月8日

2021年11月10日

2021年12月8日

2022年1月12日

2022年2月9日

●医師卒後臨床研修管理委員会

（外部委員招聘の拡大会議）

3回開催

2021年6月9日（期首）

2021年10月13日（中間）

2022年3月9日（期末）

2020年度同様、コロナ禍のため各学会への参加・発表および院外の対面勉強会が減少した。

また、剖検数も4件/年と伸び悩む中、病理診断科 末松医師に協力していただきCPCを4回、膠原

病・リウマチ内科 山田医師に協力していただき臨床・病理症例検討会を1回開催することができ、研修医にとって貴重な機会が提供できた。

採用活動に関しては、コロナ禍の影響で何度か病院見学の受け入れを中止せざるを得ないような状況があったが、33名の採用試験受験者を確保することができ、結果的に募集定員の5名をマッチングで充足することができた。

電子での評価（EPOC2）に変更して初めての研修修了者（5名）を送り出すことができた。

2022年度目標

JCEP（臨床研修評価機構）からの指摘事項の改善（退院サマリ作成1週間以内100%、IAレポート作成率向上、規程の改善など）を引き続き行う。研修医向け勉強会の開催数増加や研修環境改善を図る。

臨床・病理症例検討会を、内科系だけでなく、外科系やその他の診療科の医師にも協力していただき、広く症例が報告でき、院内の診療科や年代などの垣根を超えた教育の場として活用できるよう病院の公式行事としていく。

医療ガス設備安全委員会

委員長：木下 真弓

開催実績

開催回数：年1回

定例開催日：不定期

目標・開催目的

医療で供するガスおよびガス設備の安全を確保し、医療ガスの安全な取り扱いと、正しい基礎知識の普及活動の実践

2021年度総括

【活動報告】

・保安講習

医療ガス設備やボンベの安全な取り扱いなどの保安講習を関連職員対象に実施

・医療ガス設備定期保守点検について

点検実施日

4月26日～28日 [12ヶ月点検]

7月29日～31日 [3ヶ月点検]

10月26日～28日 [6ヶ月点検]

1月12日～14日 [3ヶ月点検]

2022年度目標

医療ガス設備の安全管理と患者の安全を確保する。

保安体制強化のため、医療ガス設備を使用する職員向けに保安講習を実施する。

また、保安講習の受講率向上に向け職員への案内強化を図る。

衛生委員会

委員長：兼子 友里

開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第1週水曜日

目標・開催目的

- ①職員健診受診率100%の維持
- ②職員本人の健康意識向上のための取り組み
- ③メンタルヘルスケアへの取り組みの継続
- ④労働環境改善のための活動
- ⑤時間外労働の上限規制に対応した取り組み
- ⑥年次有給休暇の確実な取得に係る取り組み

2021年度総括

- ①職員健康診断・特殊健康診断の実施
夏 2021年4月～5月
冬 2022年1月
長期休職者・病欠者を除く
(ドック受診者含める)
- ②職員に対する予防接種の実施
 - HBワクチン
1回目接種月：2021年7月～8月 接種者：24名
2回目接種月：2021年8月～9月 接種者：24名
3回目接種月：2022年1月～2月 接種者：23名
 - 風疹・麻疹ワクチン
接種月：2021年7月 接種者：46名
 - インフルエンザワクチン
接種月：2021年10月～12月 接種者：786名
 - T-spot検査
医師・研修医・看護師の新入職員全員に対して実施 受検者：33名
- ③職場巡視
巡視記録を作成。
設備故障や棚の整理整頓の指導など、職場環境の改善などに努めている。
- ④メンタルヘルスケア担当者会議の開催
衛生委員会内にメンタルヘルスケア担当者を置

き、職員のメンタルヘルスを推進するため開催している。ストレスチェックの結果分析、メンタル不調者の情報共有とサポート体制の検討を実施している。

- ⑤新卒入職者対象のストレスマネジメント研修、体験カウンセリングの実施
対象者：2021年度新卒入職者、異動者、中途採用者
 - ストレスマネジメント研修
2021年6月10日 参加人数：29名(2021年度新卒)
 - 体験カウンセリング
2021年5月27日より 1人15分程度
参加人数：50名
- ⑥全職場におけるノー残業デイ実施
毎月末に各職場より提出されるノー残業デイ報告書の取りまとめと報告。
各職員が毎月1日以上設けることを目標としている。

- ⑦時間外労働の上限規制への対応
毎月の時間外労働時間が30時間を超えた職員を委員会で把握。
年間360時間以内を目標に各職場への働きかけを実施。
36協定特別条項(年720時間以内、月100時間未満、月45時間超が年6回以内)違反の該当者なし。
- ⑧年次有給休暇の確実な取得への対応
有休消化実績表を活用し、職員の有休消化状況を把握。有休取得義務対象者について、年間取得数が5日未満の該当者なし。

2022年度目標

- ①職員健診受診率100%の維持
- ②職員本人の健康意識向上のための取り組み
- ③メンタルヘルスケアへの取り組みの継続
- ④労働環境改善のための活動
- ⑤時間外労働の上限規制に対応した取り組み
- ⑥年次有給休暇の確実な取得に係る取り組み

栄養委員会

委員長：永井 啓之

開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：奇数月第4週木曜日

目標・開催目的

個々の適切な栄養管理と食事提供のために、食事療養の内容および安全な食事の提供方法について検討を行う。

2021年度総括

1. 食事・栄養関連実績報告
2. 栄養課内発生のIAレポート報告と分析
3. 嗜好調査の結果報告
4. 検食の実施
5. 新規主菜皿の検討
6. 今後の配膳方法の検討

2022年度目標

- ・他部署と連携し、食事提供における安全性を保持
- ・IAレポートの分析と対策検討
- ・検食簿の意見を反映した食事提供
- ・より良い食事サービス提供につながる嗜好調査の実施

化学療法委員会

委員長：野澤 聡志

開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第2週火曜日

目標・開催目的

化学療法を安全かつ適正に推進することを目的とし、レジメンの妥当性の評価や承認、治療計画書の作成、化学療法運用方法の検討、スタッフへの啓発・教育などを行う。

2021年度総括

申請レジメンの検討や承認、血管外漏出の発生報告・検討について年間を通し行った。化学療法を施行した診療科は外科、乳腺科、呼吸器外科、消化器内科、呼吸器内科、泌尿器科、脳神経外科、膠原病・リウマチ内科の計8科であった。

その他に以下の取り組みを行った。

- ・研修医向けに化学療法勉強会開催した。
- ・呼吸器科のCBDCAレジメンの制吐剤をガイドラインに準じた薬剤に更新した。

実績

	通常申請	患者限定申請	既存レジメン改訂
レジメン承認件数	11件	0件	15件

	入院	外来	入院外来合計	前年比
化学療法施行件数	146件	1,601件	1,747件	110.4%
化学療法混注件数	209件	2,464件	2,673件	110.9%

- ・糖尿病増悪リスクの高い膀胱癌レジメンについて、ステロイド省略レジメンを採用した。
- ・コロナワクチンQ&A（「癌治療学会」「癌学会」「臨床腫瘍学会」3学会合同作成）をがん診療を行う診療科医師間へ周知共有した。
- ・化学療法委員会における各職種の役割を明確化した。
- ・揮発性抗がん薬による曝露対策として、より利便性の高い閉鎖式接続器具への採用品変更を行った。

2022年度目標

- ・外来での化学療法を安全に行うために必要な運用の検討や環境整備を行う。
- ・多職種連携による患者支援により、適正ながん治療を推進する。
- ・委員会の開催日時や方法などを効率化し、委員の負担を軽減する。
- ・化学療法マニュアルを改訂する。

感染対策委員会

委員長：野澤 聡志

開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第4週水曜日

目標・開催目的

院内感染予防および感染防止対策の充実と強化を図る。

2021年度総括

- ①職員対象院内感染対策勉強会開催
 - 第1回：「新型コロナウイルス感染症の現状と今後」(受講率96.8%)
 - 第2回：「新型コロナウイルス感染症 ～ワクチンと治療薬～」(受講率95.8%)
 - 抗菌薬適正使用：「耐性菌を増やさないための適切な検査について」(受講率95.3%)
- ②月ごとの検出菌分離状況・耐性菌検出状況・結核陽性患者の把握
- ③特殊抗菌薬使用状況
 - 特殊抗菌薬適正使用率80.0%
- ④針刺し切創および血液体液曝露状況の把握と対策
 - ・針刺し切創16件、皮膚粘膜曝露5件
- ⑤手指衛生実施回数7.37回/患者日(病棟)、34.33回/患者日(急性期ケアユニット)
- ⑥ICT/ASTラウンドの実施(週1回)
 - ・環境ラウンド
 - ・抗菌薬適正使用ラウンド429件
 - ・特殊抗菌薬使用者数540件　うちAST介入件数195件(36.1%)
 - ・TDM実施件数58件
- ⑦血液培養2セット率98.3%
- ⑧横浜保土ヶ谷中央病院および育生会横浜病院と年4回カンファレンスを開催した。
- ⑨済生会横浜市南部病院、横浜栄共済病院、横浜保土ヶ谷中央病院と年3回相互ラウンドを実施した。

- ⑩新型コロナウイルス感染症対策として、各所と情報共有を図り、連携して感染防止に努めた。

2022年度目標

- ・新型コロナウイルス感染症対策
- ・院内感染防止対策の徹底および推進
- ・抗菌薬適正使用支援チーム(AST)活動充実
- ・サーベイランス還元情報の活用

緩和ケア委員会

委員長：木下 真弓

開催実績

年11回 毎月第2週月曜日

目標・開催目的

- 緩和ケア病棟へのスムーズな移行
- 心不全チームとの連携強化
- 一般市民・医療者・研修医への緩和ケアセミナーの開催
- 緩和ケアマニュアルの改訂

実績

入院患者緩和ケアコンサルテーション実績

依頼件数	36	
区分	がん	35
	非がん	1
がん患者について		
依頼の時期	診断から初期治療前	1
	がん治療中	13
	積極的がん治療終了後	21
依頼時のPS	0	0
	1	9
	2	8
	3	9
	4	9
転帰	終了（生存）	0
	退院（うち在宅ケア導入）	19(11)
	死亡退院	6
	緩和ケア病棟転院	10
	その他の転院	1
	入院中	0

2021年度総括

2020年7月に緩和ケア病棟が開棟したことにより、一般病棟に入院するがん患者が減少し、緩和ケアチームへの依頼件数も36件まで減少した。非がん患者の依頼は少なく、ほとんどががん患者の疼痛や消化器・呼吸器症状の症状マネジメントに関する依頼であった。一般病棟で緩和ケアチームが介入した後、10名の患者が緩和ケア病棟に入棟した。一方、緩和ケア病棟の申込をした患者が緩和ケア外来で継続して通院するケースも増え、緩和ケア外来を利用する患者は75名と年々増加している。コロナ感染症の影響により市民や職員対象の緩和ケアセミナーが2021年度も開催できなかったため、2022年度は感染状況を確認し開催を検討する。

2022年度目標

- 緩和ケアマニュアルの改訂
- 非がん疾患の緩和ケアの充実
- 緩和ケア教育プログラムの検討

非がん患者について		
病名	神経疾患	0
	呼吸器疾患	0
	循環器疾患	0
	腎疾患	1
	消化器疾患	0
	膠原病・免疫疾患	0
	内分泌・代謝・血液疾患	0
	感染性疾患	0
	慢性疼痛	0
	その他	0
がん患者・非がん患者の症状		
依頼内容	疼痛	31
	疼痛以外の身体症状	13
	精神症状	2
	家族ケア	2
	意思決定支援	2
	地域との連携/退院支援	4
	その他（緩和ケア病棟依頼）	6

救急委員会

委員長：芦田 和博

開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第4週月曜日

目標・開催目的

聖隷横浜病院における、救急患者の受け入れ強化、院内急変対応の強化など、救急業務全般の効率化を検討することを目的として開催する。

2021年度総括

○救急車受け入れ強化対策

- 1) 搬送患者の報告書を作成し各救急隊へ持参。
その際、意見・要望を把握し委員会の議題に取り上げ改善を行った。
- 2) 救急車・ウォークインの受け入れ状況について月次で情報分析を図った。
 - ・救急車受け入れ状況（受け入れ・要請件数、不応需の振り返りなど）
 - ・救急入院率
- 3) オンライン開催および、医師を消防署に派遣し教育講演会の実施。

実績

救急車受け入れ実績

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
2016年度	320	303	299	366	374	317	324	371	419	469	389	407	4,358
2017年度	415	387	371	453	429	396	412	423	500	560	458	445	5,249
2018年度	418	399	410	520	447	400	477	418	501	558	390	388	5,326
2019年度	430	396	387	452	536	484	462	479	521	526	360	324	5,357
2020年度	279	274	261	254	325	285	334	339	397	366	357	343	3,814
2021年度	308	330	318	377	404	346	381	356	394	459	418	453	4,544

○院内急変対応の強化

1) 院内救急対応システム（RRS）の活動

入院患者の急変を早期に気づき対応できるように、特定行為研修を履修した認定看護師が対応。計219回の対応を実施。

2) 救急救命士の業務拡充

CPRコーチの導入（急変対応時の質の管理役）
JTASによる救急患者のトリアージ実施。
診療・処置介助、患者の問診実施。
防災・搬送訓練、急変対応勉強会の開催。
救急カートの管理・点検。

○特別顧問 相馬一亥 先生

2015年度より特別顧問として着任。救急体制や救急救命士の教育など幅広い見地からご助言・評価をいただいた。

○ICLS講習会

2回開催し院内より12名が受講。

○救急フォーラム

4回開催（オンライン2回・出張2回）し、合計135名の隊員が受講。

○コードブルー対応

8件の要請があり、各々事例について報告を行い適切な対応を検討した。

2022年度目標

救急診療体制の強化と充実

- ①救急医療の体制を強化し地域医療への貢献 救急車受け入れ：年間4,500件
- ②「急性心疾患」、「脳血管疾患」、「外傷（整形外科）救急」の受け入れ体制の充実

クリニカルパス委員会

委員長：大内 基史

開催実績

開催回数：年9回

定例開催日：毎月第3週月曜日

目標・開催目的

疾患に対して科学的根拠に基づいた質の高い水準で保たれた医療を提供できるクリニカルパスの作成を行っていくとともに、情報を共有化しチーム医療を実現、患者および家族と医療を提供していく中での問題点の共有、診療報酬の適正化を図っていくためにクリニカルパスの審査や普及に向けた取り組みを行う。

2021年度総括

1. クリニカルパスの導入支援。整形外科および泌尿器科に運用開始の支援を行い新たに3種類のクリニカルパスが運用を開始している。
2. バリエーションの集計を実施した。クリニカルパスの精度を高めるために3月に1回バリエーションの集計結果を報告している。また、集計結果は院内で共有されている。
3. クリニカルパス関連統計の分析を行った。院内の統計データとクリニカルパス学会で公開されている統計データの比較分析。また、クリニカルパスごとの入院期間の検証などを行った。
4. 2021年度は、クリニカルパス使用患者数2,236名（入院患者数5536名）使用率40.4%であった。（参考: 19年度36.4%、20年度39.9%）

2022年度目標

- ・バリエーションの分析
2021年度に引き続きバリエーションの集計を行う。集計結果を分析・報告してパスの精度を高める。
- ・パス使用率の向上（使用率40～50%）
バリエーションの分析を行い、クリニカルパスの精度を上げて使用率40%から50%を目指す。
- ・クリニカルパスの質の向上
パスの作成やバリエーションについての勉強会を開催して職員の理解を深め、集計しやすいパスの作成に努める。

血液浄化センター委員会

委員長：物江 浩樹

開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第2週火曜日

目標・開催目的

血液浄化センター委員会（以下委員会）は、血液浄化センターの運営を円滑にし、人工腎臓を用いた治療（以下血液浄化療法）に関する機器および使用される透析液の安全管理を行う事を目的に設置されるものである。

2021年度総括

- ・2021年度は腎臓内科常勤医師が2名となり、透析導入5件、外来維持透析患者45名を目標とした。外来維持透析患者の死亡が4例あり、外来患者数の減少と骨折などによる長期入院により外来維持透析件数は2020年度より減少した。しかし、入院透析の増加により総透析件数では2020年度を超える透析を実施することができた。また、年間18件の透析導入があり8名の外来維持患者獲得につながった。年度末にかけて外来および入院透析患者が増加したため、コンソール1台を修理し3月より20床体制に戻した。

実績

	2020年度	2021年度
外来維持透析件数（件/年）	6,293	5,806
入院透析件数（件/年）	276	980
出張透析件数（件/年）	73	142
合計（件/年）	6,642	6,928
外来維持患者数（3月末）	40人	44人
外来維持患者数（平均）	41.3人	39.4人
透析導入件数（件/年）	1	18

- ・新型コロナウイルス感染症対策として、感染対策を継続して実施し外来患者より陽性者は発生したものの、濃厚接触者やクラスターの発生はなかった。神奈川モデルの変更により、東2病棟での陽性者の各離透析を実施した。

透析機器安全管理委員会

- ・徹底した水質管理を実施し、超純粋透析液の基準を維持した。
- ・定期的に機器の保守点検を実施し、機器の安全性の確保に努めた。
- ・自施設で生菌測定ができるように、器材確保、環境整備を行った。

2022年度目標

- ・外来維持透析患者50名目標とし、透析コンソールの安定稼働を目指す。
- ・PD導入2事例（2名以上のPD患者の獲得）により2022年度導入期加算2の取得を目指す。
- ・水質管理を目的とした生菌測定を院内で実施し、運用を確立する。

研修委員会

委員長：阿比留 美幸

開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第4週火曜日

目標・開催目的

病院理念を基盤に、職員一人ひとりが、チームおよび組織の中で自己の役割を自覚し、立案した目標に対して責任をもって遂行することができ、よりよい医療を提供できるようになることを目的に教育活動（階層別研修）を行う。

2021年度総括

<新人職員研修>

2021年6月18日

研修生29名

<2年目職員研修>

A班：2021年7月15日、2022年2月17日

B班：2021年7月16日、2022年2月18日

研修生合計50名

<中堅職員研修>

2021年8月12日、9月14日～9月15日、10月15日、11月9日、2022年2月9日

研修生11名

<アドバンス研修>

2021年12月2日

研修生13名

- ・各階層統一で学習の循環過程を常に意識し、日常の体験を通して自分や他者との関わり方を振り返り、自分やチームのありようを考えられる環境を提案した。また、階層別に研修生の特性を考慮したプログラムを構成することで、自職

場に立ち返った時に役割や将来を各階層で落とし込めるよう努めた。

- ・2021年度も新型コロナウイルス感染を考慮し新人職員研修は宿泊研修を中止し、院内研修とした。また、開催時は研修生の体調確認、座席間の距離を取る、換気をこまめに行うなどの対応を実施し感染拡大の防止に努めた。

2022年度目標

病院理念を常に意識し、変わり続ける人材の特性と、社会の在りように応じて、より効果的な研修内容を探求する。さらに、研修を行う委員自身のスキル研鑽にも取り組む。

減免・無料低額診療委員会

委員長：山本 功二

開催実績

開催回数：年8回

定例開催日：毎月第2週火曜日

目標・開催目的

生活困窮者の医療費の一部または全額を免除し、必要な医療を受け自立した日常生活を営めるよう支援する。

2021年度総括

2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少してしまったため医療費の減免を行った方や、重度の認知症で区役所が介入し施設入所調整、後見人申し立てを行った方の減免相談を行った。自己破産の手続きを進めることになったため減免とはならなかったが、区役所に無料低額診療事業の情報提供をすることで、患者の社会背景に合わせた減免相談の連携につなげることができた。

2022年度目標

- ・無料低額診療事業を行うための条件となる基準を全て満たし、当該事業における減免実績が患者総数の10%以上となるよう努める。
- ・院内外に対する「無料低額診療事業」の啓蒙活動の継続

購入委員会

委員長：山本 功二

開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第4週木曜日

目標・開催目的

3千円以上20万円未満の医療消耗備品・消耗備品の購買および設備修繕における妥当性・必要性・公平性・汎用性等を、多職種からの考察をもって適正に判断するために行う。

2021年度総括

○医療消耗備品の部

申請総数335件のうち新規は108件、増数は66件、消耗交換は161件の申請であった。

新規の多くは、2021年度より開始した心臓血管センター（外科）の手術器材の購入件数が全体の3分の1程度を占めた。増数の多くは、増加傾向がある整形外科手術器材の購入が目立った。

消耗交換の多くは、破損や老朽化による交換であり、交換対象となった器械の中には国立病院時代から使用している器械類も散見された。

○消耗備品の部

申請総数159件のうち新規は24件、増数は75件、消耗交換は60件の申請であった。

2020年度の申請総数と比較すると購入件数が増加しているが、予算内にて終える事が出来た。

2022年度目標

経年劣化が進んでいる備品の更新検討を計画的に行い、購入の価値分析（必要性、効用性、費用対効果、使用満足度、廉価性、標準化）に基づいた審議を行っていく。

広報委員会

委員長：齋藤 徹

開催実績

開催回数：年12回
定例開催日：毎月第2週金曜日

目標・開催目的

利用者および職員に当院を理解していただき、また当院と利用者および職員をつなぐものとしての広報活動を目的とし広報委員会を開催する。

2021年度総括

- ・季刊誌「聖隷よこはま」(No.128～131)を年4回、各2,500部発行
- ・外来診療担当表を毎月1日に3,000部発行
- ・季刊誌および外来診療担当表の企画立案・執筆・校正作業
- ・2020年度年報(第12号)250部
- ・ホームページの「聖隷よこはま～スタッフブログ～」の継続更新、アクセス解析およびモバイル利用件数の把握(毎月)
- ・社内報「SEIREI」の企画立案・執筆
- ・院内掲示管理(年1回)

2022年度目標

- ・広報活動を通し聖隷横浜病院のファンを院内・院外に増やし、「集患」へつなげる。

呼吸ケアサポートチーム (RST)

委員長：大内 基史

開催実績

開催回数：年6回
定例開催日：不定期第1週火曜日

目標・開催目的

院内の人工呼吸器装着患者に対して、安全で適正に呼吸管理できることを前提としたラウンドと人工呼吸器からの早期離脱を目指すために現場でアドバイスすることを目標とした。また患者の苦痛が少ない呼吸に関する治療やケア、最新の治療や器具に関して検討する会とする。

2021年度総括

RSTラウンド回数 40件

2020年度同様、主に脳神経外科の超急性期や外科の術後、心臓血管センター内科の重症心疾患などの人工呼吸器装着患者に対し週1回のRSTラウンドを実施。より早期に離脱が行えるような治療やケアの提案など多職種からのアドバイスを現場の看護師や担当医師に行った。2021年度もVAP(人工呼吸器関連肺炎: ventilator-associated pneumonia)院内発生件数は0件であった。

VAEサーベランス年間集計	
人工呼吸器導入患者数	78名
述べ人工呼吸器使用日数	455日
VAC	3人
IVAC	0人
PVAP	0人

2022年度目標

- ・人工呼吸器使用患者の安全面での注意点や離脱に向けたケアを多職種で提案し、人工呼吸管理における合併症の発生を最小限にする。
- ・最新の治療や器具などを検討し、より安全で安楽な呼吸管理を目指す。

NST委員会

委員長：仲戸川 豊

開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：奇数月第4週木曜日

目標・開催目的

当委員会はNST（栄養サポートチーム）の活動、運営に関する事項の審議や養成セミナー、合同カンファレンスの企画開催など、NST全体のマネジメントを行う。

2021年度総括

1. NSTセミナーを年2回開催

第1回 「嚥下について」 参加者8名

第2回 「栄養補助食品の試食紹介」 参加者18名

第3回 「消化管周術期の栄養管理」 新型コロナウイルス感染拡大のため中止

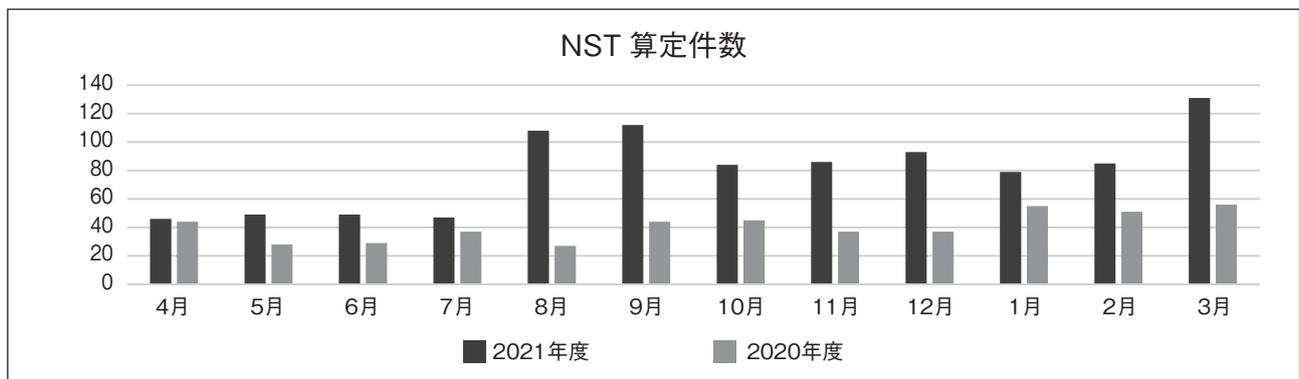
第4回 「NST合同カンファレンス」 新型コロナウイルス感染拡大のため中止

2. NST加算算定病棟での積極的な栄養介入（東2病棟・東3病棟・西1病棟）
3. NST対象患者に配布する栄養評価表の内容改訂
4. 新規栄養剤の採用検討

2022年度目標

- ・栄養管理にかかわる所定の研修を修了した、常勤医師・看護師・管理栄養士・薬剤師の拡大と各病棟への配置
- ・栄養管理における最先端の知識の普及
- ・より実践に活かしやすい内容の勉強会実施
- ・急性期病棟での早期栄養介入

実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年度	46	49	49	47	108	112	84	86	93	79	85	131
2020年度	44	28	29	37	27	44	45	37	37	55	51	56

褥瘡対策委員会

委員長：齋藤 徹

開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：偶数月第4週水曜日

目標・開催目的

推定褥瘡発生率 1.0%未満、ステージ3以上の褥瘡発生ゼロ、院内褥瘡発生患者数60名以下

2021年度総括

2021年度の推定褥瘡発生率は1.58%、褥瘡発生患者数は94名。推定褥瘡発生率と褥瘡発生患者数は上昇したが、ステージ3以上の褥瘡発生はなかった。医療関連機器圧迫創傷（MDRPU）の発生率は0.25%と低下した。推定褥瘡発生率の増加は、院内の病床数の増加や、緩和ケア病棟の褥瘡発生患者数増加の影響もあったと考えられる。緩和ケア病棟の患者は低栄養、疼痛や呼吸困難などによる得手体位があることも多く、体位変換困難や全身の血流灌流の低下など複数の要因が重なりあい褥瘡発生リスクは高い。終末期に発生し特徴的かつ予防困難な褥瘡（KTU）が含まれている可能性も考えられる。KTUを評価し、「予防ができる褥瘡」を発生させないことが課題である。

2022年度目標

推定褥瘡発生率 1.0%未満、ステージ3以上の褥瘡発生ゼロ、院内褥瘡発生患者数60名以下

役割分担推進委員会

委員長：野澤 聡志

開催実績

開催回数：年8回

定例開催日：毎月第3週木曜日

目標・開催目的

医師および看護職員の負担軽減等を目的として、多職種による役割分担を推進・調整する。

診療支援室が行う医師事務作業補助業務の妥当性を評価・検討する。

2021年度総括

新任常勤医師オリエンテーションの実施（3回）
病院勤務医、看護師の負担軽減計画の立案と評価、2022年度計画の検討

医師事務作業補助依頼内容の評価

- ・緩和ケア病棟入棟相談時と緩和ケア病棟への、入院時の他院からの診療情報提供書のテキスト入力
- ・身体障害者診断書更新時のペースメーカー外来患者の胸部X-P・心電図のオーダー代行入力
- ・乳癌患者の病理染色リスト作成と臨床情報の入力
- ・麻酔科、消化器内科（ESD/EMRパス使用患者）の退院サマリの下書き
- ・心臓血管センター内科、救急科、整形外科の入院中患者の介護保険主治医意見書下書き

2022年度目標

医師・看護師の負担軽減支援のみならず事務・医療技術部門の働き方にも配慮しながら、医師・医療従事者の働き方改革プロジェクトとの連携も視野に役割分担を積極的に検討していく。

個人情報管理委員会

委員長：大内 基史

開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第2週木曜日

目標・開催目的

個人情報保護法と厚生労働省のガイドラインに基づき定められた聖隷横浜病院個人情報保護方針に従って、個人情報の正しい管理と運用を行うことを目標とする。

2021年度総括

個人情報管理委員会では、個人情報の提供（診療情報の開示）に関する審査を随時実施し、個人情報の適正な管理のため、院内システムのセキュリティ対策について検討を行っている。

以下に2021年度の主な活動内容を挙げる。

- ・個人情報提供（診療情報の開示）審査
- ・個人情報の取り扱いに関するインシデントの報告と対策
- ・入職者への個人情報取り扱いに関するオリエンテーションの実施
- ・全職員を対象とした個人情報・院内セキュリティ勉強会（e-learning）の実施
2022年2月21日～2022年3月6日開催『2020年度個人情報・プライバシー勉強会』
- ・迷惑メール、インターネット利用における注意喚起
- ・職員への個人情報保護に対する注意喚起
- ・ファイルサーバ等活用によるUSBメモリ利用数の削減の推進
- ・貸出USBメモリ棚卸し
- ・オンライン資格確認システム導入に関する院内規程の改版

2022年度目標

- ・新型コロナウイルス感染症やオンライン資格確認システム導入等による個人情報の取り扱いに関する迅速な審査
- ・ウイルス攻撃に対する個人情報流出防止対策の院内周知
- ・厚生労働省のガイドライン（2021年改版）に基づく院内規程の改版
- ・USBメモリ削減やセキュリティリスクの注意喚起、インシデント発生防止活動

診療情報管理委員会

委員長：大内 基史

開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第2週木曜日

目標・開催目的

診療情報管理業務の効率的な運用のために、診療録に関する事項を検討、討議する活動を行い、質の高い診療録の管理および診療記録を用いた適切なインフォームドコンセントを達成することを目標とする。

2021年度総括

- ・新規診療記録審査
- ・インフォームドコンセント成立のため説明書・同意書作成基準の設定。
- ・診療記録の量的監査実施と結果報告。
- ・診療記録の質的監査実施と結果報告。
- ・診療録管理体制加算1の算定に向けた取り組み。
- ・退院サマリーの退院後14日以内記入に向けた取り組み。
- ・死亡解剖統計報告。
- ・ICD分類別疾病統計表の作成・報告。
- ・貸出し期限を過ぎた紙カルテの早期返却への取り組み。
- ・院内保管規定10年を過ぎた外来・入院診療記録の廃棄と院内カルテ庫の整理。

2022年度目標

- ・診療録管理体制加算1の算定条件である退院後14日以内の退院サマリー記入率90%以上の継続に向けた積極的な取り組みを行う。
- ・診療記録の量的・質的監査を実施し、各診療科へ結果報告を行い診療録の規定に基づいた診療記録の質向上を図る。
- ・病院機能評価に向けてより適切な診療録の作成を目指し周知に努める。

診療報酬適正化委員会

委員長：波多野 孝史

開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第4週金曜日

目標・開催目的

診療報酬請求の適正化を目的として、以下の取り組みを行う。

- ・ 毎月の返戻・減点・再審査請求の傾向分析
- ・ DPC出来高差上位・下位事例からの傾向分析
- ・ 適切なDPCコーディングの理解
- ・ 診療報酬の適性請求のための勉強会を開催

2021年度総括

- ・ 査定事例を毎月報告・検討し、多職種視点で査定対策を行い当該診療科に指導および助言を行った。
- ・ 再審査請求事例の検討を強化し、提出件数および件数における復活率の向上に取り組んだ。
(請求件数：前年度比+120%、復活率：前年度比+157%)
- ・ DPCコーディング確認の取り組みを継続し、部位不明コードについて、10%未満を維持した。
- ・ 保険診療に関する講習会を、年2回実施した。
新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、講習会をe-learningとイントラネット回覧のハイブリッド形式で開催した。

第1回 2021年11月8日～15日 参加者428名

第2回 2022年 2月7日～20日 参加者465名

2022年度目標

- ・ 査定・返戻傾向を毎月分析・共有し、適正な診療報酬請求を多職種間で検討する。
- ・ 積極的な減点再審査請求に取り組み、再審査請求件数および請求復活率の向上を目指す。
- ・ 診療報酬制度の理解のための勉強会を開催し、院内へ発信する。
- ・ DPC制度と適切な傷病名コーディングについて、事例を元に検討し、理解を深める。

接遇委員会

委員長：竹下 宗徳

開催実績

開催回数：年10回

定例開催日：毎月第2週木曜日

目標・開催目的

職員の接遇マナーを向上させることで、利用して下さる方々の安心感・満足感につなげる。また、職員の快適な職場環境の形成を目的として聖隷横浜病院接遇委員会（以下、委員会）を開催する。

2021年度総括

1. 全部門への接遇巡視

2021年度は、確認リストを見直すとともに項目を決め、コロナウイルス感染拡大に注意しながらもスムーズに巡視ができるようになった。また、巡視を続けることにより、職員も身だしなみの確認を自主的に行うようになっている。

2. 接遇勉強会の実施

コロナウイルス感染拡大により病院全体での勉強会が難しくなったため、委員会内だけでなく、希望部署への勉強会を行い、接遇に関して学んでもらう。

3. 接遇だよりの発行

「利用者の声」や職員からの指摘や意見により、改善すべき内容とアドバイスを接遇だよりの発行として月1回配信を実施。親しみやすい内容にこだわった「ワンポイント接遇」を各部署に回覧掲示することで、接遇を毎月違った内容で、定期的に意識して頂いた。結果、職員から「見直す機会になった」という声が上がっており、接遇について考えるきっかけができた。

4. 次回巡視案内の発行

次回巡視の案内を配布し、接遇の巡視への意識を高めてもらうことができた。

2022年度目標

2022年度も巡視と接遇だよりと次回巡視案内を継続。全職員が全ての利用者・患者に対する接遇、および職員同士の接遇への理解を深め、相手を気遣った言葉をかけることや、笑顔で接するなど相手の立場に立った行動ができるよう、接遇のスキルを身につけ向上するよう推進していく。

図書委員会

委員長：伊東 宏

開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：偶数月第3週水曜日

目標・開催目的

- ・ 図書利用の周知
- ・ 定期購読雑誌の継続確認
- ・ 各部署の図書管理

2021年度総括

- ・ 古書の清掃
- ・ 電子ジャーナルの解約と新規契約
- ・ 現図書の整理整頓

2022年度目標

- ・ ジャーナル以外の書籍の充実化

病院安全管理委員会

委員長：大内 基史

開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第3週水曜日

目標・開催目的

当院利用者の安全性の確保および向上を図るため、医療行為、その他業務における危険性の認知、分析と対策、実行を統合して行う。

2021年度総括

1. 安全管理体制の評価と職員間での共有
 - ・13件の事例検討を行い必要に応じて運用、再発防止策などを決定し職員へ周知した。
 - ・医療安全マニュアルについて、27のマニュアル・指針について策定、改訂、廃止を行い、セーフティマネージャーと共有した。
 - ・医療安全標語の募集を行い、職員へ医療安全への関心を高める取り組みを実施した。
2. 研修実施
 - e-ラーニングSafetyPlusにて研修を実施し、未受講者に対して資料および確認テストを配布し伝達講習を実施した。
 - ・職員医療安全研修：「患者確認と指差呼称」受講率98.5%（対象職員758名、受講者747名）
 - ・医薬品安全管理セミナー：「転倒転落を防ごう～転倒とくすりについて～」受講率92.3%（対象職員724名、受講者668名）
3. 医療安全推進週間の取り組み内容
 - 11月21日～27日を当院の医療安全推進週間とし、保健所検査項目と患者誤認防止対策の確認を目的に職場ラウンドを実施した。また、夜間無断離院シミュレーションを実施しマニュアル改善につなげた。さらに、「患者安全GoodJobアワード」と題して、各職場より良い取り組み“GoodJob”をアピールしてもらい優秀作品の表彰を行った。各職場の“GoodJob”

を共有することで職員の安全意識の向上に努めた。

4. 他施設との連携

横浜保土ヶ谷中央病院（加算1連携病院）、育生会横浜病院（加算2連携病院）との相互ラウンドを3回実施した。

2022年度目標

1. 患者誤認事例撲滅
2. 転倒転落予防対策の拡充
～病棟以外における予防対策検討
3. 急変予測、容態変化への早期対応体制の構築
4. 医療安全管理体制の拡充
5. 院内暴力対策と院内セキュリティ体制の再構築
6. 職員医療安全研修の継続
7. 医療安全対策地域連携加算1取得継続

防災委員会

委員長：青井 瑞穂

開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第2週火曜日

目標・開催目的

火災予防および防災対策の強化を図ると共に職員の防災意識、知識の向上を図る。

2021年度総括

○地域防災活動

- ・保土ヶ谷区自衛消防組織連絡会
- ・保土ヶ谷区・南区通信訓練
- ・南区のぼり旗掲出訓練
- ・神奈川県広域災害医療訓練

○安否情報システム（ANPIC）導入

2021年8月 安否情報システム（ANPIC）を導入

○防災訓練

- ・火災訓練

開催日時：10月13日(水)、14日(木)、15(金)、
19日(火)、20日(水)、25日(月)
計6日間

開催時間：各日約1時間実施

訓練内容：夜間時の初期消火の動きと消防設備
の役割と使い方について

- ・地震訓練

開催日時：3月15日（火）

開催時間：15：00～15：45

訓練内容：地震発生時の本部設営・情報伝達・
非常放送・避難経路の確認・職員の
安否確認

○マニュアル作成・改訂

- ・防災管理マニュアル改訂
- ・アクションカード（火災用）作成

○防災備品の定数見直し

ヘルメット・ランタンの不足分整備

2022年度目標

災害時に医療継続が出来るように防災計画の検
討およびマニュアルの整備を行う。

安全運転委員会

委員長：青井 瑞穂

開催実績

開催回数：年4回

定例開催日：毎月第2週火曜日

目標・開催目的

交通事故撲滅と安全運転意識の向上。

2021年度総括

- 車両届・業務用車両運転者申請書のWEB化
- 交通安全講習会の開催（アンケート機能）
期間：2022年3月14日（月）～ 3月31日（木）
内容：交通事故、あおり運転、道路交通法改正
（アルコール検知器）
- 交通安全クイズの実施
期間：2022年1月4日（火）～ 1月31日（月）
内容：交通安全に関するクイズ
- 業務用車両運転前の酒気帯び確認
道路交通法改正に伴い、公用車使用前後の酒気
帯び確認の実施

2022年度目標

交通安全関連の法令・マナーに関する情報の発信や安全運転講習会などにより、職員の安全運転意識の向上に努め、交通事故の撲滅を目指す。

薬事（治験）委員会

委員長：塩川 満

開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：偶数月第4週火曜日

目標・開催目的

医薬品等選択の審議決定を通し、医薬品の適正使用および薬剤管理の合理的運営に資する。

2021年度総括

- ・委員会は隔月（偶数月）の第4火曜日に計6回（第111～第116回）開催され、各薬剤の採用・中止等について討議・決定された。
- ・DPC対策として、経済性、安全性、情報提供の充実度などを総合的に考慮した結果、第112回委員会において1薬剤を、第113回委員会において2

実績

2021年3月31日現在の採用薬剤数

	内服	外用	注射	計
採用薬剤数	941	386	524	1,851
院外限定	449	149	13	611
用時購入	54	18	120	192
その他採用区分	438	219	391	1,048
後発品目数	176	48	116	340
後発品目数（院外限定）	31	13	1	45
後発品比率（院内）	29.47%	14.77%	22.50%	23.79%

2022年3月31日現在の採用薬剤数

	内服	外用	注射	計
採用薬剤数	1,006	408	544	1,958
院外限定	465	166	12	643
用時購入	71	16	138	225
その他採用区分	470	226	394	1,090
後発品目数	190	49	123	362
後発品目数（院外限定）	36	13	1	50
後発品比率（院内）	28.47%	14.88%	22.93%	23.73%

薬剤を、第116回委員会において1薬剤を、後発品へ変更した。

この結果2022年3月度の後発使用の数量割合は基準値の90%を超え、約90.8%であった。後発品使用体制加算1を算定している。

- ・2022年3月31日現在、後発医薬品採用品目率（院外限定を除く）が23.73%となり、中核的医療機関として使用促進を図った。
- ・使用期限切迫薬剤および使用期限切れ薬剤の削減のための採用区分変更検討を行い、第111回で4剤、第113回で3剤、第114回で2剤、第115回で2剤、第116回で1剤の採用区分変更が承認された。
- ・医薬品による健康被害情報報告書作成の報告は1件、医薬品安全性情報報告書作成は2件であった。

2022年度目標

- ・DPC対策として、後発医薬品採用品目・採用率の増加検討。
- ・医薬品の適正使用、安全使用のための対策を検討。

輸血療法委員会

委員長：永井 啓之

開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：奇数月第4週金曜日

目標・開催目的

1. 輸血運用について検討し、必要に応じて改善する
2. 輸血マニュアルを最新の情報に基づき作成・改訂し、随時更新および啓発することで安全な輸血療法実施を推進する
3. 血液製剤および血漿分画製剤の適正使用を推進し、適正使用加算の再取得を目指す
4. 安全な輸血療法実施を目的とした輸血勉強会を、年1回以上開催する
5. 輸血療法の説明および同意書取得・輸血実施時の3点認証の徹底を推進する
6. 定期的に注意喚起を行うことで、同意書取得漏れおよび内容不備件数の更なる減少を目指す

2021年度総括

1. 院内における血液製剤および血漿分画製剤の使用状況と輸血副作用の把握
2. 輸血同意書、血漿分画製剤同意書取得状況および記載内容不備の把握
3. 輸血管理料Ⅱおよび適正使用加算取得状況の把握
4. 交差適合試験における副試験省略の検討および承認
5. e-learning (Safety Plus) を用いた輸血勉強会開催
6. 輸血セットの差込み不良に関する注意喚起

2022年度目標

1. 輸血運用について検討し、必要に応じて改善する
2. 輸血マニュアルを最新の情報に基づき作成・改訂し、随時更新および啓発することで安全な輸血療法実施を推進する
3. 血液製剤および血漿分画製剤の適正使用を推進し、適正使用加算の再取得を目指す
4. 安全な輸血療法実施を目的とした輸血勉強会を、年1回以上開催する
5. 輸血療法の説明および同意書取得・輸血実施時の3点認証の徹底を推進する
6. 同意書取得漏れおよび内容不備件数の減少

臨床検査適正化委員会

委員長：伊東 宏

開催実績

開催回数：年3回

定例開催日：偶数月第4週金曜日

目標・開催目的

1. 外部精度管理調査に参加し、検査精度の向上に努める
2. 医療安全と検査効率を考慮した運用方法を検討する
3. 新規検査項目導入や測定方法の変更などを検討し、関係部署への迅速な啓発を行う
4. 検査依頼件数および診療報酬査定状況をふまえ、臨床検査の適正化を図る

2021年度総括

1. 外部精度管理調査の結果報告
2. 新規採用および受託中止項目について報告
3. 院内実施検査項目および外部委託検査項目の内容変更について報告
4. B棟ポータブルエコー取り扱いについて、診療部へ注意喚起

2022年度目標

1. 外部精度管理調査に参加し、検査精度の向上に努める
2. 医療安全と検査効率を考慮した運用方法を検討する
3. 新規検査項目導入や測定方法の変更などを検討し、関係部署への迅速な啓発を行う
4. 検査依頼件数および診療報酬査定状況をふまえ、臨床検査の適正化を図る

倫理・臨床研究審査委員会

委員長：兼子 友里

開催実績

開催回数：年11回

定例開催日：毎月第3週火曜日

目標・開催目的

聖隷横浜病院において行う医療行為および医学研究の実施にあたり、「ヘルシンキ宣言」の趣旨に沿った倫理上の指針を尊重し倫理的配慮を図る。

2021年度総括

2021年度は当院の倫理指針に基づき13件の審議検討を行った。

第1回：2021年4月20日

- ・食物経口負荷試験
- ・ヒスタミン加人免疫グロブリン製剤（ヒスタグロビン）治療

回覧審査：2021年5月11日

- ・医療の質を高めるための日本人結節性硬化症レジストリ（JTSRIM）を用いた結節性硬化症医療情報統計システム（TSCレジストリDB）の構築と経年的実態調査

第2回：2021年7月6日

- ・成毛式ソラコットン（適応外使用）について

第3回：2021年8月3日

- ・回復期リハビリテーション病棟を退棟した脳卒中患者のQuality Of Lifeと関連因子の検討

回覧審査：2021年8月11日

- ・0.5%バンコマイシン点眼液の院内製剤採用

回覧審査：2021年8月18日

- ・障害を抱える子どもを持つがん末期患者の「親亡き後の子の生活場所」の意志決定支援プロセス

第4回：2021年9月7日

- ・アルミホイル適応外使用について

第5回：2021年10月19日

- ・新型コロナワクチンの皮膚試験（プリックテスト、皮内テスト）
- ・Seirei-CAREプログラム導入について

回覧審査：2021年11月16日

- ・ペディクルスクリューシステム刺入方法における固定性・術後変化に関する調査

第6回：2022年2月1日

- ・日本運動器看護学会認定看護師の活動の実態調査

回覧審査：2022年3月1日

- ・骨折リエゾンサービス（FLS）立ち上げと薬剤師の介入

2022年度目標

病院として検討すべき臨床倫理に関する課題および臨床研究に関する事項について、2名の外部委員を加え、リスボン宣言やヘルシンキ宣言に示された倫理規範や、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、改定個人情報保護法等を踏まえた審議を引き続き実施する。

また、新たな診療・治療を実施する場合は、倫理面や安全面に配慮しながら組織的に検討および承認ができる体制づくりを目指したい。

医療の質改善委員会

委員長：大内 基史

開催実績

開催回数：年5回

定例開催日：偶数月第3週月曜日

目標・開催目的

目的

1. 病院機能評価を受けて、改善後の機能を維持し更新できる
2. 院内のマニュアル管理や現場巡視などを行い、改善を行う

目標

1. 前回受審B評価項目の改善（使用済みリネンのランドリーボックスの保管管理）
2. 2023年病院機能評価更新に向けたタスクメンバー選出とスケジュール作成

2021年度総括

①期中の評価結果への対応

- ・病棟各フロアに東西病棟共有のリネン庫を新設し、ランドリーボックスが患者の目に触れないよう改善した。
- ・ドック・健診室、リハビリテーション課、放射線課設置のランドリーボックスについて、患者が安全かつ清潔に使用できるよう検討した。

②院内ラウンド

- ・4回実施（6月、8月、10月、12月）
- ・物品の期限切れ確認をラウンド項目に追加した。

③その他

- ・病院機能評価更新訪問調査の受審日程および今後の予定を検討し、病院方針を決定した。

2022年度目標

1. 2023年度病院機能評価更新に向けたタスクメンバー選出、プロジェクトチーム結成
2. 新バージョンの情報収集と院内周知、カルテレビューに向けた取り組み着手

特定行為管理委員会

委員長：大内 基史

開催実績

開催回数：年4回

定例開催日：不定期

目標・開催目的

看護師による特定行為についての実践状況や、安全管理上の問題・有害事象の有無などを院内で把握する。

2021年度総括

救急・集中関連1名と血糖コントロール関連1名のみの体制となったが、それぞれが関連部署で医師と協働した。創傷処置関連に関しては1名、特定行為研修へ参加を勧め受講が決定した。

特定行為に関しては有害事象の報告なし。

2022年度目標

2022年度は、創傷処置関連の特定行為研修修了生が誕生する。また、特定行為を組み込んだ乳がん看護認定看護師教育課程と慢性呼吸器疾患看護認定看護師教育課程にそれぞれ1名ずつ進学するため、その活動推進を支えるための体制整備も検討する。

実績

2020年度 特定行為者 実践件数

特定行為分野		計
救急・集中関連	1名	530
血糖コントロール関連	1名	289

外来運営会議

委員長：山田 秀裕

目標・開催目的

- ・外来運営に関する現状を共有し、問題点の解消、新規事項の検討を行う
- ・新型コロナウイルス感染症に対する対応の共有

2021年度総括

○外来診療申請書の承認

新規開設に伴う運用検討、周知

- ・2021年 4月 アレルギー内科、禁煙外来
- ・2021年 4月 眼科土曜外来
- ・2021年 4月 泌尿器科セカンドオピニオン
- ・2021年10月 小児アレルギー外来

○総合内科診療についての共有

内科系疾患で該当する専門診療科の判断が付かない場合は内科系診療科が担当制で診察

- ・2021年 5月 対応診療科変更（消化器内科→アレルギー内科）
- ・2021年 5月 金曜日は総合内科外来担当医師

○外来満足度調査の実施

実施期間：2021年10月18日（月）～10月22日（金）

回答数（初診）：75枚

回答数（再診）：442枚

回答数（合計）：517枚

○患者待ち時間調査の実施

実施期間：2021年9月6日（月）～9月11日（土）

- ・外来看護：予約患者の診察待ち時間
- ・放射線課：XP・CT・MRI検査
- ・検査課：採血検査
- ・医療情報管理課：会計

○看護部外来健康講座実施について

毎月テーマを決めてチラシを配布した

○診察室適正使用ワーキンググループ発足について
診察室の適正使用を目的に2022年2月外来運営会議の下部組織としてワーキンググループを発足。診察室における各診療科の需要や診察室別患者数を共有し診察室の適正な配置、使用を検討。2021年度3回開催。

2022年度目標

- ・外来運営に関する問題点の共有や新規運用についての検討
- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応の共有
- ・外来診察における待ち時間調査を実施し、改善事項について検討
- ・診察室適正使用ワーキンググループを継続開催し、診察室における課題や改善点を共有、検討
- ・外来患者増加に向けた取り組み

手術室運営委員会

委員長：木下 真弓

2022年度目標

1. 手術枠の効率的な運用と救急手術への対応
2. コロナ感染症を含めた手術室感染対策の検討と強化
3. 新しい術式への安全で迅速な対応

開催実績

開催回数：年9回

定例開催日：毎月第1週水曜日

目標・開催目的

1. コロナ感染症を含めた手術室感染対策の検討と強化
2. 手術における問題の共有と対策の検討
3. 手術室の枠の柔軟な運用と、救急手術への対応

2021年度総括

- ・ COVID-19感染症対策関連の情報共有と対策検討（術前検査・エアロゾル対策・品薄医療材料の対応検討等）・術式の多様化に伴う手術準備マニュアルの改訂・借用機器の増数に伴う運用検討 など
- ・ COVID-19感染症が猛威を振るう中、各部署協力の元に対策を図り以下の手術件数を提供することができた。

実績

(単位：件)

科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	昨年度
腎・高血圧内科	2	1	0	1	2	1	2	2	2	4	2	3	22	8
脳神経外科	6	11	13	9	8	9	6	8	8	8	8	12	106	111
外科	27	22	24	30	37	32	28	30	33	18	20	31	332	346
呼吸器外科	6	8	7	8	5	7	8	6	7	7	8	6	83	52
整形外科	46	47	52	38	54	58	54	62	52	57	58	60	638	446
泌尿器科	10	9	10	10	7	12	7	8	10	11	8	7	109	12
眼科	13	16	27	10	15	11	23	18	12	15	15	18	193	178
耳鼻咽喉科	17	11	13	14	21	19	21	14	19	14	14	20	197	160
乳腺科	9	5	3	5	6	6	7	3	7	6	4	2	63	59
心臓内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4	8	0
麻酔科	2	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	6	4
合計	138	130	149	126	155	156	157	152	150	141	140	163	1,757	1,376

セーフティマネージャー 運営会議

委員長：清水 宏恵

開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：奇数月最終週月曜日

目標・開催目的

セーフティマネージャーの役割に基づき、医療事故および利用者からの苦情・クレーム防止活動を行い、患者および職員・病院を守るとともに医療安全管理および患者サポート体制の充実・改善・強化を目指す。

2021年度総括

- ・2020年度IAレポート年間報告
- ・2021年度当運営会議の年間計画周知、医療安全管理室重点施策の共有
- ・ワーキンググループ活動の実施

患者誤認撲滅、せん妄予防対策、有害事例発生対応、院内防犯体制構築（A）離院対策/不審者侵入対策、院内防犯体制再構築（B）院内暴力/虐待防止対策の5グループにて、活動計画を策定し取り組んだ。結果として、各種マニュアルの改訂および周知、シミュレーション実施による課題の気づき等、セーフティマネージャーの役割に基づいた活動が実践できた。

- ・患者安全管理活動の実施
各職場の安全に関する目標を「患者安全管理活動計画書」を活用し安全管理室と共有、共に活動した。

糖尿病療養運営会議

委員長：升田 雅史

開催実績

開催回数：年9回

定例開催日：毎月第1週金曜日

目標・開催目的

- ・院内の糖尿病療養指導を担うスタッフの指導内容の刷新や向上
- ・関わる患者指導についての医師の指示を主とした情報共有を行い、患者にとってよりよい指導・療養環境となるように、話し合う場としている。
- ・スタッフそれぞれの実績報告
- ・最新の治療や機器、薬剤に関する勉強会を開催する。

2021年度総括

外来・病棟間の教育対象患者の教育や治療の引き継ぎの場として展開することができ、またそれぞれの学会の新しい情報を交換することができた。院内全体の慢性疾患の教育体制が確立していない部分に対して、スタッフ教育に関してどのように携わっていくかを検討することができたが、2021年度は検討の段階でとどまっている。

2022年度目標

- ・新しいスタッフの育成に向けての検討
- ・新薬導入、使用に関わる勉強会と意見交換
- ・引き続き患者情報の共有と起こりうるリスク対策
- ・高齢患者の教育内容を深める
- ・スタッフ教育を具現化するための検討

ボランティア運営会議

委員長：兼子 友里

開催実績

開催回数：年3回

定例開催日：奇数月最終週月曜日

目標・開催目的

ボランティアの募集、受け入れ、活動支援を行い、ボランティア個人のモチベーションの維持、活性化を促すとともに、職員全体でサポートできる体制の強化を図る。

2021年度総括

2020年3月からのコロナ禍での活動自粛の状態が続いている。感染状況を鑑みながら、縫製活動については継続しているが、他の活動については、2022年度4月からの再開に向けて動き出した。10月にボランティア活動継続の意思確認を行った結果、全員活動継続を希望していただいた。しかしながら、感染状況が落ち着かないため、4月再開は一旦延期となる。その後、感染対策委員会の見解を考慮しながら、条件付きで5月より総合案内・園芸活動の再開が決まり準備を進めていった。

新たな活動として、季節を感じる写真展「山の上ギャラリーat聖隷横浜病院」の展示に動く。展示を通して患者や地域の利用者に、温かい気持ちや声援の気持ちをお届けできたらとの願いを込めての活動である。近隣、施設などに案内を送付し、テーマに沿った写真を募集、3月には院内に展示し、好評をいただいている。今後もテーマごとに募集を行い、展示を続ける予定である。

2022年度目標

コロナ禍の状況は緩やかに好転しているように思えるが、まだまだ油断せず、新たな生活スタイルを考慮しつつ、注意深く活動を後押しする。そして安全でやりがいのあるボランティア活動の強化と拡大を目指していく。

リハビリテーション課 運営会議

委員長：佐々木 亮

開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：奇数月第4週水曜日

目標・開催目的

リハビリテーション運用の安定・効率向上のため、関連する各部署の職員の参加を要請し、共同（協同）して課題解決に向けて取り組む。

- ・回復期病棟基準Ⅰ維持安定可能な体制づくり（人員配置）を検討する。
- ・現在リハビリテーション課が係わっている領域の安定運営を図る。

2021年度総括

- ・リハビリテーション実績（月報）の報告を行った。
- ・ヒアリング要望内容の報告を行った。
- ・関連医師および病棟スタッフと情報交換・意見交換を行った。

2022年度目標

- ・回復期病棟 一患者リハ提供単位6.0単位／日に向けた増員計画
- ・地域包括病棟 リハビリ指示患者の介入方法基準作成、病院方針確認と増員計画

ドック・健診運営会議

委員長：平野 進

開催実績

開催回数：年4回

定例開催日：3ヶ月毎第4週水曜日

目標・開催目的

私たちは、隣人愛の精神のもと、安全で良質な医療を提供し、地域に貢献し続けることを理念とし、利用者の方々が安心して選び続けられる施設であるよう、関係各課の代表者により円滑な運営の検討をおこなう。

2021年度総括

- ・2021年度の各検査実施件数予測の周知確認
- ・聖隷横浜病院職員健診の運用調整
- ・横浜エデンの園職員健診の運用調整
- ・運用確認と改善案の検討
- ・日曜乳がん・婦人科健診の運用調整
- ・インフルエンザワクチン接種（院内・出張）運用調整
- ・健診予約枠の調整についての検討

2022年度目標

- ・健診と病院診療が連携できるメリットを生かしながら、予防医学を推進し、利用者に永続的に選び続けていただけるドック・健診室を目指す。

地域連携・患者支援センター運営会議

委員長：山田 秀裕

開催実績

開催回数：年11回

定例開催日：毎月第3週木曜日

目標・開催目的

地域住民・近隣医療機関のニーズに貢献するため、院内関連部署と連携・情報共有を図ること。

2021年度総括

- ・紹介、逆紹介件数報告、検討
- ・紹介返信状況の件数報告、検討
- ・時間外紹介受け入れに関する報告、検討
- ・転院、在宅サポート入院に関する報告、検討
- ・入退院支援に関する報告、検討
- ・地域連携に携わる訪問活動・各行事の報告、検討
- ・コロナ禍における院内外の状況把握を行い、オンラインでの市民公開講座開催企画および開催
- ・紹介患者受診日の即日返信を目標に掲げ、対策・実施（2022年3月即日返信率 97.3%）

2022年度目標

地域住民のために近隣医療・福祉・介護機関との効果的な連携について引き続き検討するとともに、院内外の状況を把握し、戦略的且つスムーズな連携を目標とした活動を行う。

病床管理センター運営会議

委員長：大内 基史

開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第4週水曜日

目標・開催目的

経営状況を踏まえ患者入退院をコントロールすることを目的とする。

数値目標は病棟稼働率95%、平均患者数285名。

【業務内容】

1. 入院しやすい病棟稼働への支援
2. 空床に関する情報収集と提供
3. 適正な平均在院日数への支援
4. 患者の治療状況に応じた病床環境の支援
5. 地域連携・患者支援センターと連携し、長期に渡る入院患者の転棟・転院等の支援
6. 医療・看護必要度管理の安定的な基準達成に向けた取り組み

実績

病棟別病床稼働率

：%

病棟	定床	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
東1病棟	38	—	—	—	55.7	91.0
東2病棟	53	88.6	81.1	79.3	37.8	53.5
東3病棟	52	96	91.9	88.3	74.9	94.3
東4病棟	60	92.3	95.5	93.7	66.9	92.6
西1病棟	34	99.5	95	89.8	79.5	97.8
西2病棟	47	92.5	96.8	98.6	93.9	101.7
西3病棟	46	94.8	95.8	91.5	70.5	88.2
急ユニ	8	80.1	81.5	73	72.7	81.7
脳ユニ	9	—	98.4	99.5	99.7	100.0
B3病棟	20	—	—	—	59.2	84.2
全病棟	367	93.4	92.2	89.8	70.2	87.6

※東2病棟：新型コロナウイルス感染症回復後患者受入病棟 24床休床（1月20床）

2021年度総括

- ・各月入院患者数報告
- ・他院からの転院の受け入れ検討
- ・入院患者増加による入退院調整
- ・地域包括ケア病棟の安定稼働
- ・HCU・SCU稼働への取り組み
- ・退院予定指示の早期化
- ・転棟対象情報の提供
- ・診療科別入院経路
- ・年末年始等の連休対応
- ・判定会の実施
- ・病棟入退室運用規程の更新

2022年度目標

病院理念に基づき、以下をふまえて効果的な病床管理に貢献するとともに、回復期病棟、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟に焦点を立て、総合的に多様なニーズに合わせた病床管理を実践する。

1. 最後の一床まで活用し地域医療に貢献する
2. 地域住民のために急性期を中心とした医療提供と救急医療を提供する

内視鏡センター運営会議

委員長：吹田 洋將

開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：偶数月第1週金曜日

目標・開催目的

- ・安全かつ効率的な内視鏡運営のための検討を行う
- ・内視鏡室における問題の共有と対策を検討する

2021年度総括

- ・日本消化器内視鏡学会の提言に基づき、各種内視鏡検査・治療の前におけるCOVID19スクリーニング、COVID19対応マニュアル（上下部内視鏡・気管支鏡）の見直し
- ・内視鏡検査枠および業務の検討・整備
- ・内視鏡治療検査におけるタイムアウトの拡大
- ・内視鏡室におけるIAの共有および薬剤使用の整備
- ・内視鏡および画像管理システム更新
- ・内視鏡修理報告の共有

2022年度目標

内視鏡センターにおける検査、治療を安全かつ円滑に施行するために、問題点の抽出・解決、関連部署の連携、設備・機器の検討を行う。

脳血管センター運営会議

委員長：佐々木 亮

開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第3週水曜日

目標・開催目的

脳卒中診療の急性期から回復期までを包括的に、より効率よく行うために、多職種の意見を集約して病院運営にフィードバックしていくことを目的とする。

2021年度総括

脳血管障害患者の包括的治療について多職種で情報交換を行った。

・西1・SCU・ACUの稼働状況

実績

入院単価

：点

診療科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2021年度 平均	2020年度 平均
脳神経外科	5,460	5,437	5,437	4,902	5,203	5,610	5,147	5,112	5,373	5,207	5,000	5,101	5,249	5,764
全科平均	5,720	5,330	5,572	5,619	5,666	5,641	5,564	5,648	5,635	5,405	5,389	5,420	5,551	5,771

病棟稼働率

：%

病棟 (定床)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2021年度 平均	2020年度 平均
西1病棟 34	73.7	76.1	75.2	73.7	73.9	82.3	75.4	84.6	87.5	92.7	98.6	97.0	82.2	79.5
ユニット 8	87.9	91.1	83.3	79.0	86.3	88.8	75.8	81.7	67.7	82.7	77.7	82.3	82.0	72.7
SCU 9	98.3	100.5	100.0	97.8	100.0	93.9	98.2	98.9	100.4	99.3	98.4	100.0	98.9	99.7
一般病棟平均 232	76.5	72.1	75.3	72.4	78.7	82.2	79.1	82.6	85.0	84.9	88.8	91.2	80.6	71.3
全病棟平均 367	79.1	76.7	79.7	77.1	81.0	85.0	82.4	84.8	86.3	86.4	87.7	90.7	83.0	70.2

- ・リハビリ介入実績、急性期病棟から回復期病棟への介入状況
- ・放射線学的検査（CT・MRI）の実績
- ・地域連携室より紹介実績、救急車受け入れ状況
- ・医療機器購入や機器の情報報告
- ・脳卒中治療に関する薬剤や栄養療法の情報交換・栄養指導について
- ・回復期・地域包括病棟への転棟、早期退院を目指し医療ソーシャルワーカーの介入状況
- ・入院単価・稼働率・手術件数等の医事データの報告

2022年度目標

SCU9床を活用し2021年度の診療実績を維持しつつ、より地域に貢献できる、急性期から慢性期までの脳卒中診療継続を目標に、多職種からの意見を集約していく。

膠原病内科・ リウマチセンター運営会議

委員長：山田 秀裕

2022年度目標

引き続き、多職種連携チーム医療の元、安全性を重視した先端的医療を提供する。近隣クリニックとのオンライン面談を介した病診連携をさらに活発化させ、広報活動とともに、新規患者の獲得と逆紹介率を増やす。

開催実績

開催回数：年10回

定例開催日：毎月第1週火曜日

目標・開催目的

- ・スタッフ間の連携を円滑に行い、入外患者の診療の質を高める。
- ・毎月第1火曜日にセンター運営会議を開催し、情報共有と今後の方針を相談する。
- ・関節リウマチ患者を対象としたリウマチ包括ケアを推進する。
- ・地域連携室や総務課と共同して広報活動やホームページ作成を行う。

2021年度総括

多職種が連携したチーム医療を推進するため、2021年度も、入院・外来とも、リウマチ専門看護師、リウマチ専門薬剤師、フットケア看護師、リハビリテーション技師などが積極的に連携して診療にあたった。特に、リウマチ看護外来、フットケア外来が一層充実した。その成果として、関節リウマチ診療における重症感染症が極めて少ないことがあげられ、日本リウマチ学会等で発表した。また、地域連携室と共同で、各種講演会、地域連携会、ホームページの更新など、広報活動を積極的に行った。

新型コロナウイルス感染予防のため、診療間隔を3ヶ月に延長し、電話診療を積極的に採用したため、外来受診者数が減少した。しかし、免疫抑制療法を行う患者に対し、日頃から多職種連携して感染予防指導が徹底されていたためか、重症感染症を合併する患者はほとんど見られなかった。

乳腺センター運営会議

委員長：徳田 裕

開催実績

開催回数：年11回

定例開催日：毎月第4週火曜日

目標・開催目的

患者中心の最先端医療を提供するために、多職種のスタッフより構成されるセンターのシステム構築とその改良および発展を目標とする。

構成メンバーは、以下のとおりである。

化学療法担当看護師、病棟看護師、放射線課（マンモトームを含む）、検査課（遺伝子検査、超音波検査）、地域連携室（センチネルリンパ節生検用RI注射およびリンパ節スキャン）、医師事務作業補助者、医療情報管理課、施設資材管理課などのスタッフ

2021年度総括

世界標準的な診断システムであるOncotypeDXが2021年12月1日より保険承認された。しかし、登録システム不備のため承認延期となり無償提供として2022年3月までに2例実施した。

2021年12月24日術後乳がん症例に対するページニオが承認された。有害事象の頻度が高く、また、高薬価製剤であるため在庫調整が難しい経口抗がん剤である。そこで、院内処方への適応とすべく準備中である。

健診科に導入された多遺伝子パネル検査の第1例目が遺伝カウンセリング外来を経て実施された。

実績

- ・BRCA1/2検査の施設認定を獲得しており、2021年度の検査数は、25例（2020年度20例）であった。
- ・センチネルリンパ節生検実施症例数の増加にともない、新たにみなと赤十字病院にRI注射を委託し、運用を開始した。2021年度の症例数は、16例（2020年度5例）であった。
- ・マンモグラフィで発見されたカテゴリ3以上の微細石灰化巣に対するステレオマンモトーム生検を2020年2月13日より開始し、第2、3木曜日午後各2例の予約で継続している。2021年度の実績は、27例（2020年度20例）であった。

2022年度目標

総合企画室からの提案に基づき、月間紹介患者数を2022年度の目標に設定した。

回復期リハビリテーション 病棟運営会議

委員長：鈴木 祥生

開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第1週木曜日

目標・開催目的

回復期リハビリテーション病棟は、脳血管障害や骨折の手術後などの急性期治療後の病状が安定した時期に、集中的なリハビリテーションを行うことで低下した能力を再び獲得することを理念としている。そのために、多職種で情報を共有し、入退院調整や各種指標、療法の確認を実施することで患者から選ばれる病棟運営を検討する。第一に、効率的かつ質を落とすことなく、回復期リハビリテーション病棟入院料1の取得と安定稼働を目指す。

2021年度総括

- ・回復期リハビリテーション病棟入棟基準更新
- ・各指標管理（実績指数、重症患者割合、在宅復帰率）
- ・判定会議開催
- ・東1病棟庭園整備
- ・回復期リハビリテーション病棟入院基本料1取得
- ・厚生局施設基準定期報告

緩和ケア病棟プロジェクト

委員長：木下 真弓

開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：偶数月金曜日

目標・開催目的

- 患者獲得へ向けての広報活動の検討
- 効果的な病床運用の検討
- 緊急入院初期加算取得へ向けての検討
- 夜間・休日緊急入院フローの作成

実績

2021年度 緩和ケア病棟 入退棟データ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入棟相談外来件数	37	37	49	38	49	47	47	40	42	37	33	50	506
院内紹介	4	8	4	4	4	7	5	10	6	6	6	7	71
院外	35	29	45	34	45	40	42	30	36	31	27	43	437
入棟患者数	22	23	32	30	24	28	24	31	32	22	22	27	317
緊急入院加算				8	5	6	2	2	4	4	3	3	37
転帰	死亡退院	19	18	22	21	17	20	22	21	20	17	23	244
	自宅退院	4	4	5	6	4	4	4	6	10	2	4	55
	施設退院	1	1	1	0	3	2	3	3	1	0	1	18

2021年度総括

- ・新型コロナウイルス感染症への感染対策を考えながら、患者獲得へ向けての広報活動を行い、効果的な入院の検討、レスパイト入院の受け入れについて検討を行った。また、当院でも面会制限を余儀なくされており、家族との最期の時間をゆっくり過ごせるように面会制限の内容検討を行った。
- ・入棟相談後、緊急入院依頼中にCPA（心肺機能停止）になり緩和ケア病棟への入院が叶わなかった事例を受けて、緩和ケア病棟への緊急入院の再整備を行った。

2022年度目標

- 患者獲得へ向けての広報活動の検討
- 効果的な病床運用の検討など
- 近隣の在宅医・訪問看護との連携方法の検討など

OLS(骨粗しょう症リエゾンサービス)運営会議

委員長：竹下 宗徳

開催実績

開催回数：年10回

定例開催日：毎月第1週金曜日

目標・開催目的

脆弱性骨折を起こしている骨粗しょう症患者に対して多職種連携で治療介入し、骨折の連鎖を止め、ADL(日常生活動作)の低下、寝たきりとなることの防止を目的とする。

2021年度総括

2021年6月よりプロジェクトをスタートし骨粗しょう症患者の再骨折を防ぎ、健康寿命を延ばすことを目標とし、自施設の問題点や現状把握を多職種で協議を実施。その後、FLSクリニカルスタンダードに沿い、「大腿骨近位部骨折」および「椎体骨折」の患者に対する治療継続のプロトコルを作成・検証し、10月から導入に至る。

また、2022年度の診療報酬改定にあたり新設された「二次骨折予防継続管理料」算定に向けた協議を行った。

【OLSチームメンバー】

整形外科医師 看護師 薬剤師 理学療法士
管理栄養士 診療放射線技師
社会福祉士 事務職

【介入実績】

- ・大腿骨近位部骨折 36件
- ・椎体骨折 35件

2022年度目標

- ・二次骨折予防継続管理料の適切な算定
- ・院内外に対するOLSの取り組みを発信
- ・地域開業医へ手術後の患者の紹介を推進
(地域医療連携による、二次骨折予防継続管理料3の推進)
- ・院内転倒転落患者へOLSチームの介入

情報システム運営会議

委員長：大内 基史

開催実績

開催回数：年10回

定例開催日：毎月第2週月曜日

目標・開催目的

2015年に設置された本運営会議においては、病院の基幹システムである電子カルテを中心とした情報システムの導入や稼働に関わる運用の検討、周知を行っている。電子カルテをはじめとする院内の情報システムのユーザは他職種にまたがり、その運用も複雑となる。このため、本運営会議では医師・看護師・メディカルスタッフ・事務と各部署から代表者が集まり、職種間で運用等を議論し集約することにより、安全かつ効率的な運用を目指す。

2021年度総括

2021年度は2017年稼働の現行システムのライフサイクルの中間となるため、システム導入・新規稼働に関わる検討は少ない年だった。本運営会議においては、既存システムの変更・障害時などの運用検討や周知のほか、システム停止時対応マニュアル等の改版などを実施した。

1. 情報システムの障害発生状況とメンテナンス情報を共有し、現場影響を最小限に抑えるための議論、対応を調整した。
2. 電子カルテの機能や課題に関して、改善の議論、周知を行った。
3. COVID-19に関わるものなど、緊急的なシステムへの要求について部門間で協議し運用変更の検討を行った。
4. 電気設備点検のための計画停電時の対応方法の検討を行い、突発的なシステムも想定し、システム停止時の運用マニュアルについて継続的な改善を行った。

5. SCU病棟増床などシステムの改変にともなう作業スケジュールや対応内容に関し、各部門の情報共有と対応の進捗確認を行った。
6. 標的型攻撃メールへの注意喚起など情報リテラシー向上のための注意喚起を行った。

2022年度目標

2022年度は4月に診療報酬改定が行われる。本運営会議においては、新しい機能の周知のほか、各部門の運用における課題や要望を集約し必要な対応の検討を行う予定である。また、現行の基幹システムにおいては2022年度で5年を経過するため、次期システムへの更新に向けた意見集約を想定している。

医師・医療従事者の 働き方改革プロジェクト

委員長：新美 浩

開催実績

開催回数：年5回

定例開催日：不定期

目標・開催目的

医師や医療従事者の働き方に関する事項を検討し、病院で働くすべての職員の働き方の適正化を図る。

2024年4月から施行される医師の働き方改革関連法案の中で求められている時間外労働時間や連続勤務時間の適正化、勤務間インターバル時間の確保などの要件を病院として達成するために、勤務時間などの現状の把握、分析、解決策の検討および実行を行う。

2021年度総括

本プロジェクト発足の目的を医師、看護、医療技術、事務など多職種からなるプロジェクトメンバー間で共有した。

医師の時間外労働時間の概況をプロジェクト内で共有した。

面談や説明に関する時間外労働時間を軽減するための取り組みとして、2021年12月から診療内容の説明・相談を行うための医師等との面談の時間を、原則、平日（月～金）の8：30～17：00に変更した。

医師の正確な把握のために、時間外労働時間の申請に関する運用を見直し、2022年4月から他職種と同じように医師の時間外労働時間の申請を電子化した。

2022年度目標

医師個々の労働時間を分析し、1) 個別に働き方の適正化を提案するアプローチ、2) 院内の仕組みや体制を整備することで改善を図るアプローチ、3) 労働基準監督署や行政の求める2024年4月に向けた動きに当院の状況を適応させていくアプローチを行う。

内科、外科、心臓血管センター内科、脳神経外科の日当直体制に関して、勤務実態を把握し、可能な範囲で宿日直許可申請を行う。

会議時間の短縮や開催方法の適正化を図る。

タスクシフト・シェアに関してより具体的な実行策を模索する。

教育・症例検討・講演会実績・市民公開講座

病院学会

- ・第19回 聖隷横浜病院学会 開催日 2022年2月26日

職員研修

- ・新入職員研修
開催日 2021年6月18日 場所 聖隷横浜病院
- ・2年目職員研修
開催日 A班：2021年7月15日、2022年2月17日、B班：2021年7月16日、2022年2月18日 場所 聖隷横浜病院
- ・中堅職員研修
開催日 2021年8月12日、9月14日～9月15日、10月15日、11月9日、2022年2月9日 場所 聖隷横浜病院
- ・アドバンス研修
開催日 2021年12月2日 場所 聖隷横浜病院

委員会主催研修・講演会・e-learning

- ・病院医療安全管理委員会
第1回 職員医療安全研修「患者確認と指差呼称」
受講期間 2021年 5月24日～6月21日
- ・安全運転委員会
2021年度交通安全講習会
受講期間 2022年3月14日～3月31日
- ・感染対策委員会
第1回 感染対策勉強会「新型コロナウイルス感染症の現状と今後」
受講期間 2021年7月9日～8月2日
第2回 感染対策勉強会「新型コロナウイルス感染症～ワクチンと治療薬～」
受講期間 2021年11月15日～12月6日
第3回 感染対策勉強会 抗菌薬適正使用勉強会「耐性菌を増やさないための適切な検査について」
受講期間 2022年2月10日～2月28日
- ・個人情報管理委員会
2021年度 個人情報・プライバシー勉強会
開催日 2022年2月21日～2022年3月6日

症例検討会

- ・第123回
症例 食道狭窄で経口摂取困難となった一例
開催日 2021年5月25日
- ・第124回
症例 急性間質性肺炎の治療経過中に死亡した一例
開催日 2021年9月28日
- ・第125回
症例 意識障害、発熱、SpO2低下を主訴に救急搬送され、精査加療中の第6病日に死亡した一例
開催日 2021年10月26日
- ・第126回
症例 重症心不全の発熱コントロールに難渋しIABP除去後に急激な血圧低下、死亡した一例
開催日 2022年2月22日

セミナー

- ・リウマチ膠原病オンラインセミナー
講義 リウマチ性疾患の医療連携/生物学製剤を用いたステロイドの減量
講義 リウマチ包括ケアの実践と将来
開催日 2021年6月15日
- ・循環器疾患 WEBセミナー
講義 ガイドラインに基づく心不全薬物診療の発展と当院の取り組み
開催日 2021年6月17日
- ・せん妄ケアセミナー
講義 せん妄とせん妄予防
講義 必要時処方薬の分析と当院の不穏・不眠時薬剤について
講義 認知症ケアチームの立ち上げ
開催日 2021年8月10日
- ・高尿酸血症WEBセミナー
講義 心不全：薬物治療のトレンドと尿酸値上昇について～解決への理論的アプローチ～
開催日 2021年9月10日
- ・NSTセミナー
講義 嚥下について
開催日 2021年10月6日
- ・地域で考える心不全診療セミナー
講義 心不全の連携医療 今、病院でできること ～AF合併心不全を例えに、薬物治療と多職種連携について考える～
開催日 2021年11月16日
- ・NSTセミナー
講義 栄養補助食品の試食紹介
開催日 2021年12月1日
- ・骨粗鬆症治療 地域連携セミナー
講義 骨粗鬆症性骨折と手外科
講義 骨粗鬆症性骨折と脊椎外科
開催日 2021年12月7日

聖隷横浜病院 健康講和

- オンライン市民公開講座
- ・あなたの息切れ、浮腫み、それ心不全ではありませんか？
芦田院長補佐
- ・夜間頻尿から出る身体のサインを知り予防しよう！
泌尿器科 波多野部長
- ・入院になったら残された家族が心配？大丈夫です！
地域連携・患者支援センター 伊藤課長
開催日 2021年5月21日
- ・いつまでも元気に食べたいっ！ 野澤院長補佐
- ・75歳になってから考えるがん医療との向き合い方
看護相談室 根岸課長
開催日 2021年7月30日
- ・アナフィラキシーを来たす主な疾患
アレルギー内科 渡邊医長
- ・アナフィラキシーから命を守る 薬剤部 阿部
開催日 2021年9月24日

- ・笑顔で健康長寿!!【股関節編】 関節外科 竹下部長
- ・今日からできるフレイル予防 リハビリテーション課 木村
開催日 2021年11月26日
- ・脳梗塞、冬場にご用心! 鈴木院長補佐
- ・今日からできるフレイル予防Ⅱ リハビリテーション課 小林
開催日 2022年1月28日

実習生受入

- ・看護部
横浜市医師会聖灯看護専門学校
横浜中央看護専門学校
関東学院大学
横浜未来看護専門学校
神奈川県立保健福祉大学
横浜市病院協会看護専門学校
- ・薬剤部
星薬科大学
- ・検査課
杏林大学
- ・栄養課
神奈川工科大学
関東学院大学
鎌倉女子大学
駒澤大学
東京聖栄大学
相模女子大学
- ・リハビリテーション課
帝京科学大学
文京学院大学
東京工科大学
帝京平成大学
城西国際大学

2021年度 学術業績 講演会・学会発表

リウマチ・膠原病センター	
区分	講演会
演題名	IL-6のミステリー：老化予防とIL-6
演者・共同演者	山田秀裕
学会名等	Rheumatology Forum in Kochi 2021.4.16 高知
区分	講演会
演題名	乾癬性関節炎や膠原病診療のUp-to-Date
演者・共同演者	山田秀裕
学会名等	皮膚症状を伴う膠原病関連疾患の医療連携を考える会 2021.4.22 WEB配信
区分	講演会
演題名	Closing Remarks
演者・共同演者	山田秀裕
学会名等	オレンシア合併症全国講演会 (Comorbidities Seminar 2021) 2021.5.15 オンライン
区分	講演会
演題名	関節リウマチ治療の最新の話
演者・共同演者	山田秀裕
学会名等	リウマチ膠原病オンラインセミナー 2021.6.15 オンライン
区分	講演会
演題名	関節リウマチにおける医療連携のポイント
演者・共同演者	伊東宏
学会名等	リウマチ膠原病オンラインセミナー 2021.6.15 オンライン
区分	講演会
演題名	関節リウマチ治療は寛解導入から再燃予防の時代へ
演者・共同演者	山田秀裕
学会名等	第3回RA治療戦略WEBカンファレンス in 和歌山 2021.8.20
区分	講演会
演題名	関節リウマチの治療戦略～寛解導入から再燃予防へ～
演者・共同演者	山田秀裕
学会名等	Comorbidities Seminar in Hokkaido 2021.8.20
区分	講演会
演題名	高齢関節リウマチ患者さんに対するケアを考える
演者・共同演者	川原早苗
学会名等	第8回神奈川県リウマチ診療を支えるNsの会 2021.9.4
区分	講演会オンライン
演題名	慢性肺感染症を合併したリウマチ性疾患における院内連携について
演者・共同演者	伊東宏
学会名等	第12回神奈川膠原病肺を語る会 2021.10.12オンライン
区分	講演会
演題名	関節リウマチの治療戦略～寛解導入から再燃予防へ～
演者・共同演者	山田秀裕
学会名等	第61回リウマチカンファレンス 2021.10.16
区分	講演会
演題名	聖隷横浜病院における血管炎治療の取り組み
演者・共同演者	山田秀裕
学会名等	高知血管炎エキスパートミーティング 2021.11.19
区分	講演会
演題名	症例から学ぶ不明熱の診断とマネジメント
演者・共同演者	山田秀裕
学会名等	南区医師会学術講演会 2021.12.7 オンライン
区分	講演会
演題名	関節リウマチの寛解から治癒を目指して
演者・共同演者	山田秀裕
学会名等	神奈川県内科医学会新春学術講演会 2022.1.20 オンライン
区分	講演会
演題名	全身性エリテマトーデス診療と連携
演者・共同演者	山田秀裕
学会名等	SLEの診療を考える会 2022.2.15 オンライン
区分	学会発表
演題名	当院における関節リウマチに対するJAK阻害薬の使用状況と安全性の検討
演者・共同演者	鈴木幹人、伊東宏、花岡洋成、山田秀裕
学会名等	第65回日本リウマチ学会 2021.4 横浜 (オンライン)

区分	学会発表
演題名	多職種連携チーム医療のもとでのJAK阻害薬の安全性に関する検討
演者・共同演者	小林 恵、白田奈美、小柳諒子、小川寿子、山崎宜興、山田秀裕
学会名等	第65回日本リウマチ学会 2021.4 横浜 (オンライン)
脳神経血管・高次脳機能センター	
区分	シンポジウム
演題名	慢性硬膜下血腫と認知症
演者・共同演者	鈴木祥生、青井瑞穂、佐々木亮、大高稔晴、荒木孝太
学会名等	第5回日本脳神経認知症学会
区分	シンポジウム
演題名	頭蓋内動脈狭窄に対する血管内治療：適応と問題点
演者・共同演者	鈴木祥生、佐々木亮、青井瑞穂、荒木孝太、田村 智
学会名等	第39回The Mt. Fuji Workshop on CVD
区分	学会発表
演題名	中大脳動脈狭窄症に対する脳血管内治療の有効性
演者・共同演者	鈴木祥生、佐々木亮、大高稔晴、荒木孝太、青井瑞穂
学会名等	STROKE2021 (第46回日本脳卒中学会)
区分	学会発表
演題名	慢性硬膜下血腫と認知症
演者・共同演者	鈴木祥生、青井瑞穂、佐々木亮、大高稔晴、荒木孝太
学会名等	第40回日本認知症学会
区分	学会発表
演題名	中大脳動脈狭窄症に対する脳血管内治療の有効性
演者・共同演者	鈴木祥生、佐々木亮、大高稔晴、荒木孝太、青井瑞穂
学会名等	第37回日本脳神経血管内治療学会
人工関節センター (関節外科)	
区分	講演会
演題名	人工関節や骨折の低侵襲手術と安心な内科連携～DVTを含めて～
演者・共同演者	竹下宗徳
学会名等	第7回内科疾患定例講演会
区分	講演会
演題名	OLS多職種連携の最初の大きな一歩
演者・共同演者	竹下宗徳
学会名等	第1回多職種連携OLS会議
区分	講演会
演題名	他職種連携OLSでの地域連携～変形性股関節症への神経障害性疼痛関与を含め～
演者・共同演者	竹下宗徳
学会名等	地域で考える慢性疼痛治療 2021.4.22
区分	講演会
演題名	骨粗鬆症治療における治療薬選択と継続について
演者・共同演者	竹下宗徳
学会名等	骨粗鬆症治療をひろげる会in Kanagawa 2021.6.16
区分	講演会
演題名	最小侵襲手術での人工股・膝関節～近況とOLS～
演者・共同演者	竹下宗徳
学会名等	第3回横浜東骨粗鬆症を語る会 2021.7.30
区分	講演会
演題名	整形外科からみたフレイル～原因か結果か～
演者・共同演者	竹下宗徳
学会名等	フレイルを考える～整形外科・循環器領域から～ 2021.10.26
区分	講演会
演題名	最近の聖隷横浜
演者・共同演者	竹下宗徳
学会名等	第2回横浜耳鼻整形連携会議 2021.12.17
画像診断センター	
区分	講演会
演題名	循研学術Web News 第29回日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT2020) 報告
演者・共同演者	石毛良一
学会名等	循環器画像技術研究会 第374回定例会 2021.4.10
区分	講演会
演題名	Dynamic Digital Radiography ～X線動画の臨床応用と期待～ 中規模病院における動態撮影使用感と臨床経験について
演者・共同演者	石毛良一
学会名等	第37回日本放射線技師会学術大会 2021.11.13 (ランチョンセミナー)

区 演 演者・共同演者 学会名等	分 題 名 名 等	講演会 看護師・技師合同シンポジウム Protect Code Stroke COVID-19時代の脳卒中治療 COVID-19否定目的に撮影した入院前胸部単純CTを用いた大動脈弓部3D追加作成画像の有用性と留意点についての検討 石毛良一 第37回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術集会 2021.11.25-11.27 (シンポジウム)
区 演 演者・共同演者 学会名等	分 題 名 名 等	講演会 ZioStation2とXtravisionによるIVR頭頸部領域画像支援の一例 石毛良一 循環器画像技術研究会 第382回定例会 2022.2.12
区 演 演者・共同演者 学会名等	分 題 名 名 等	講演会 Case Discussion ; Giant Aneurysm Next Generationによる同一症例検討会「あなたならどう撮る」 石毛良一 第57回神奈川アンギオ撮影研究会 × 第5回PRESSING研究会 2022.2.26
区 演 演者・共同演者 学会名等	分 題 名 名 等	学会発表 胸部単純CTを用いた大動脈弓部3D追加画像の有用性と留意点についての検討 石毛良一 佐々木亮 青井瑞穂 大高稔晴 荒木孝太 鈴木祥生 第20回NPO法人日本脳神経血管内治療学会 関東地方会学術集会 2021.8.20 (一般web口述)
区 演 演者・共同演者 学会名等	分 題 名 名 等	学会発表 再撮影率調査結果から見た技術的要因と技術的以外の要因 石毛良一 吉村朋子 釜谷秀美 第37回日本放射線技師会学術大会 2021.11.12 (一般web口述)
区 演 演者・共同演者 学会名等	分 題 名 名 等	学会発表 急性期MCA閉塞患者に対する機械的血栓回収療法時のMRI追加撮像の有用性について 鈴木駿太郎 石毛良一 渥美裕 釜谷秀美 第37回 日本診療放射線技師学術大会 (JART2021) 2021.11.12-11.14 (web口述発表)
区 演 演者・共同演者 学会名等	分 題 名 名 等	学会発表 撮影介助時の水晶体被ばく低減に対する検討 三枝あかり・石毛良一・串間可菜・高橋朋子・鳥山遥希・吉村朋子・釜谷秀美 第37回 日本診療放射線技師学術大会 (JART2021)
区 演 演者・共同演者 学会名等	分 題 名 名 等	学会発表 被ばく線量低減を目的とした外科用イメージ装置の透視条件についての検討 串間可菜・石毛良一・一木俊介・吉村朋子・釜谷秀美 第37回 日本診療放射線技師学術大会 (JART2021) 2021.11.12-11.14 (web口述発表)
区 演 演者・共同演者 学会名等	分 題 名 名 等	学会発表 新しい頸動脈ステントの造影剤至適希釈濃度の検討 石毛良一 佐々木亮 青井瑞穂 大高稔晴 荒木孝太 鈴木祥生 第37回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術集会 2021.11.25-11.27 (デジタルポスター)
区 演 演者・共同演者 学会名等	分 題 名 名 等	学会発表 COVID-19スクリーニング目的の胸部CTにおける乳癌の偶発的発見について 阿部宏美・吉村朋子・鳥山遥希・串間可菜・釜谷秀美・徳田裕・劉 孟娟 日本乳癌画像研究会第31回乳癌画像研究会 2022.2.5~2.6 名古屋市公会堂・web
腎臓・高血圧内科		
区 演 演者・共同演者 学会名等	分 題 名 名 等	学会発表 マクロファージ活性化症候群、血球貪食症候群を合併した成人スティル病の一例 ○大石真理子 ¹⁾ 宮本研 ¹⁾ 伊東宏 ²⁾ 1) 聖隷横浜病院 腎臓・高血圧内科 2) 聖隷横浜病院 リウマチ・膠原病内科 第66回日本透析医学会学術集会・総会
心臓血管センター内科		
区 演 演者・共同演者 学会名等	分 題 名 名 等	学会発表 コメンテーター：CTO PCI Live Course 芦田 和博 第2回CCT Web Live 2021.4.16
区 演 演者・共同演者 学会名等	分 題 名 名 等	学会発表 座長：冠動脈インターベーションLive 第5部 芦田 和博 第3回横浜ライブデモンストレーション PCIライブ 2021.4.17
区 演 演者・共同演者 学会名等	分 題 名 名 等	学会発表 コメンテーター：Live Case Transmission4 芦田 和博 第21回 CTO Club 2021.6.11
区 演 演者・共同演者 学会名等	分 題 名 名 等	学会発表 座長：Case Competiton “My most impressive bailout case for complication in CTO PCI” 芦田 和博 第21回 CTO Club 2021.6.12

区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 コメンテータ：PCI Live Demonstrtion 4 Special Focus Live 芦田 和博 TOPIC2021 2021.7.9-7.10
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 座長：Fireside Session 1 見えるを広げる～ヒカリノチカラ～ 芦田 和博 TOPIC2021 2021.7.9-7.10
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 座長：Anigopicture2021 online congress in Russia 芦田 和博 Anigopicture2021 online congress in Russia 2021.10.1
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 コメンテータ：PCI Video Live 第5部 芦田 和博 第58回日本心臓血管インターベンション治療学会 関東甲信越地方会 2021.10.15-10.16
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 コメンテータ：倉敷ゆかりの循環器研究会 セッション1 芦田 和博 第11回倉敷ゆかりの循環器研究会 2021.10.23
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 新しくなったScorefix～実症例から考察したその進化（深化）～ 芦田 和博 TOPIC2021 2021.10.28-10.30
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 座長：CTO Live Demonstration (Part4) 芦田 和博 Yokohama CTO Summit V 2021.11.26
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 コメンテータ：PCI case 3,PCI case 4 芦田 和博 KAMAKUEA Calcification Live 2022.2.19
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 座長：PCI Live (CTO) 芦田 和博 中国四国ライブ in 倉敷2022 2022.2.25
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 座長：EAST Live 2022 第1部 芦田 和博 EAST Live 2022 2022.2.25
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 コメンテーター：Oral Presentation29 PCI 芦田 和博 第86回日本循環器学会学術集会 2022.3.11-13
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 冠動脈2枝が同時に閉塞したと思われる急性心筋梗塞の1例 山田 亘 第262回日本循環器学会関東甲信越地方会 2021.12.4
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 コメンテータ：ACSの困った症例に遭遇、あなたならどうする？ 福田 正 第58回日本心臓血管インターベンション治療学会 2021.10.15-10.16
外科・消化器外科		
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	講演会 いつまでも元気に食べたいっ! ～高齢化する消化器がん治療～ 野澤聡志 聖隷横浜病院 市民健康講話・2021.7.16・横浜市南区
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	講演会 いつまでも元気に食べたいっ! 高齢化する消化器がん 病気を知り予防や早期発見・早期治療へ! 野澤聡志 聖隷横浜病院オンライン市民公開講座・2021.7.30
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 胆石による閉塞性イレウスと胆嚢十二指腸瘻に対して一期的手術を行った一例 山本祐也, 横山元昭, 永井啓之, 齋藤徹, 野澤聡志 第57回日本胆道学会学術集会・2021.10.8・東京都港区

区分	学会発表
演題名	超高齢者に発症したIgG4関連小腸腫瘍が疑われた1例
演者・共同演者	山本祐也、齋藤徹、横山元昭、永井啓之、野澤聡志
学会名等	第1445回千葉医学会例会・2021.11.23・千葉市
呼吸器外科	
区分	講演会
演題名	呼吸器外科に於ける術前癒着評価
演者・共同演者	大内 基史
学会名等	第3回X線動態画像セミナー
区分	講演会
演題名	『私の頭の中を教えます～肺癌における免疫チェックポイント阻害剤と化学療法～』
演者・共同演者	座長 竹内健 演者 下川 恒生 (横浜市民病呼吸器内科)
学会名等	聖肺癌薬物療法セミナー2022.7.7 19時—20時主催中外製薬会社
区分	学会発表
演題名	切除14年後に両肺転移を認めた外耳道腺様嚢胞癌の1切除例
演者・共同演者	竹内 健、(演者) 早川 信崇、大内 基史、末松 直美
学会名等	第38回日本呼吸器外科学会学術集会2021.5.20～5.21 長崎 (WEB)
区分	学会発表
演題名	肺生検後に肺膿瘍を併発した肺癌手術症例の検討
演者・共同演者	竹内 健、(演者) 早川 信崇、大内 基史
学会名等	第38回日本呼吸器外科学会学術集会2021.5.20～5.21 長崎 (WEB)
区分	学会発表
演題名	複数回のTBLBとliquid biopsyを施行しT790M陰性でTKI rechallengeが奏功したEGFR遺伝子変異陽性肺腺癌の1例
演者・共同演者	竹内 健、(演者) 小西建治、大内 基史
学会名等	第44回日本呼吸器内視鏡学会学術集会2021.6.24～7.30 Web開催
区分	学会発表
演題名	バスケット鉗子が異物除去に有用であった脱落歯牙による気道異物の1例
演者・共同演者	竹内 健、(演者) 小西建治、大内 基史
学会名等	第44回日本呼吸器内視鏡学会学術集会2021.6.24～7.30 Web開催
区分	学会発表
演題名	EGFR遺伝子重複変異を有する原発性肺腺癌に対するEGFR-TKIおよび免疫チェックポイント阻害剤の1治療経験
演者・共同演者	竹内 健、(演者) 小西建治
学会名等	第62回日本肺癌学会学術集会2021.11.26～11.28 パシフィコ横浜
区分	学会発表
演題名	当科におけるUniportal VATSにおける肺動脈損傷症例の検討
演者・共同演者	竹内 健、(演者) 小西建治
学会名等	第62回日本肺癌学会学術集会2021.11.26～11.28 パシフィコ横浜
耳鼻咽喉科	
区分	学会発表
演題名	鼓室内Glomus tumorの1例
演者・共同演者	勝又徳行、松井和夫、吉見亘弘、呉晃一
学会名等	第31回 頭頸部外科学会 2022.3.4-5 大阪
区分	学会発表
演題名	外耳道入口部が閉鎖して外耳道に真珠腫を形成した側頭骨線維性骨異形成症の1例
演者・共同演者	勝又徳行、松井和夫、吉見亘弘、呉晃一
学会名等	第31回 日本耳科学会
麻酔科	
区分	講演会
演題名	男女共同参画を進める取り組み—制度改革と意識
演者・共同演者	木下 真弓
学会名等	日本麻酔科学会第68回学術集会
区分	講演会
演題名	これからのダイバーシティ社会 どう振る舞えばいい
演者・共同演者	木下 真弓
学会名等	日本麻酔科学会第68回学術集会
区分	講演会
演題名	シンポジウム：ペインクリニックの医師としての働き方について 自分自身のキャリア・アンカーを見つけて自分らしく仕事を続ける
演者・共同演者	木下 真弓
学会名等	日本ペインクリニック学会第55回学術集会
アレルギー内科	
区分	講演会
演題名	クロージングリマークス
演者・共同演者	渡邊直人
学会名等	第39回西横浜喘息・COPD懇話会 2021.4.9横浜

区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 名 等	講演会 知ってほしい色々な喘息 渡邊直人 聖隷横浜病院院内講演 2021.5.18院内大鍵室
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 名 等	講演会 喘息の診断と最新の治療について 渡邊直人 保土ヶ谷 喘息・アレルギー疾患診療連携の会 2021.6.29横浜
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 名 等	講演会 座長：特別講演 喘息の長期管理において吸入薬をどう使い分けて行くのか？～デュアル製剤かトリプル製剤か～(演者 斎藤純平先生) 第40回西横浜喘息・COPD懇話会 2021.9.10横浜
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 名 等	講演会 座長：Severe Asthma Session 重症喘息～Type2炎症を攻略したバイオ製剤の選択(演者 小屋俊之) 第41回西横浜喘息・COPD懇話会 2021.11.5横浜
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 名 等	講演会 重症喘息治療における生物学的製剤の役割と在宅自己注射の有用性～メボリズムマブを中心に～ 渡邊直人 GSK Severe Asthma WEB Seminar 2021.11.30東京(WEB)
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 名 等	講演会 重症喘息治療における生物学的製剤の役割と在宅自己注射の有用性～メボリズムマブを中心に～ 渡邊直人 重症喘息Web講演会(GSK) 2021.12.9東京(WEB)
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 名 等	講演会 座長：特別講演 好酸球性炎症を考慮した重症喘息治療(演者 新実彰男先生) 第42回西横浜喘息・COPD懇話会 2021.12.17横浜
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 名 等	講演会 クロージングリマークス 渡邊直人 第42回西横浜喘息・COPD懇話会 2021.12.17横浜
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 名 等	講演会 クロージングリマークス 渡邊直人 第43回西横浜喘息・COPD懇話会 2022.3.4横浜
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 名 等	講演会 座長：Session2 これからの重症喘息治療(演者 加志崎 史大先生) 喘息疾患診療連携を考える会 2021.3.29横浜
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 名 等	講演会 アナフィラキシーを来たす主な疾患 渡邊直人 オンライン市民公開講座 2021.9.24 より
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 名 等	学会発表：国際学会 Results of questionnaire survey on the use of new type tobacco (heated or electronic cigarettes) in households with minors NAOTO WATANABE, ATSYSHI ISOZAKI, ERIKO ANDO, KAZUNORI ARAI, SOHEI MAKINO, YOICHI NAKAMURA 25th APSR2021 2021.11.21～22 Kyoto Japan (Hybride開催)
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 名 等	学会発表 気管支喘息のSAS合併率～ESSの有用性～ 渡邊直人、中村陽一 第61回日本呼吸器学会、2021.4.23～25 東京(Hybride開催)
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 名 等	学会発表 山形県立農業高校職員の家庭内受動喫煙曝露実態調査結果 渡邊直人、荒井一徳、川合厚子 第61回日本呼吸器学会、2021.4.23～25 東京(Hybride開催)
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 名 等	学会発表 気管・肺と胃におけるTRPV1の比較検討 渡邊直人、堀江俊治、John V. Priestley、Clive P. Page 第86回日本温泉気候物理医学会、2021.5.22～23 横浜(WEB開催)
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 名 等	学会発表 アンケート調査にみる通学高校の偏差値と家庭における高校生の受動喫煙曝露率の関係 渡邊直人、荒井一徳、南部光彦、福田啓伸、吉原重美 第244回日本呼吸器学会関東地方会、2021.5.29 (WEB開催)

区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	学会発表 未成年者のいる家庭における新型タバコ（加熱式または電子タバコ）の使用に関するアンケート調査結果 渡邊直人、磯崎 淳、安藤枝里子、荒井一徳、中村陽一 第37回日本小児臨床アレルギー学会、2021.5.31～6.23（オンデマンド）
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	学会発表 気管支喘息に対するインフルエンザワクチンフルービックHAの有用性について 渡邊直人、中村陽一 第2回日本喘息学会、2021.7.17～18 大阪（Hybride開催）
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	学会発表 アトピー性皮膚炎合併喘息患者におけるデュピルマブの有効性の検討ー重症喘息ではCATもQOL評価指標に成り得るー 渡邊直人 第87回臨床アレルギー研究会、2021.7.31 東京（WEB開催）
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	学会発表 アトピー性皮膚炎合併喘息患者におけるデュピルマブの有効性の検討ー重症喘息ではCATもQOL評価指標に成り得るー 渡邊直人 第23回日本咳嗽学会、2021.9.18～19 神戸（Hybride開催）
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	学会発表 コバルトが原因でアナフィラキシーショックを来したと思われる食物アレルギー症例 渡邊直人 第70回日本アレルギー学会総会、2021.10.8～10 横浜（Hybride開催）
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	学会発表 インフルエンザワクチンフルービックHAの有用性についての検討 渡邊直人、中村陽一 第70回日本アレルギー学会総会、2021.10.8～10 横浜（Hybride開催）
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	学会発表 包括的アレルギー診療へのアプローチ「一般総合病院における取り込み」 渡邊直人、中村陽一 第70回日本アレルギー学会総会、2021.10.8～10 横浜（Hybride開催）
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	学会発表 アンケート調査にみる通学高校の偏差値と家庭における高校生の受動喫煙暴露率の関係 渡邊直人、荒井一徳、南部光彦、福田啓伸、吉原重美 第15回日本禁煙学会、2021.10.16～17 大分（Hybride開催）
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	学会発表 コロナワクチン接種後のアレルギー症状にピラスチン予防投与が有効であった3症例 渡邊直人 第6回日本アレルギー学会関東地方会、2021.11.27 東京（Hybride開催）
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	学会発表 Usefulness of influenza vaccine 'Flubik HA' for bronchial asthma Naoto WATANABE, Yoichi NAKAMURA 第30回国際喘息学会日本・北アジア部会、2021.12.3～4 高知
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	学会発表 オマリズマブ自己注射の印象についてのアンケート調査結果 渡邊直人 第7回日本アレルギー学会関東地方会、2022.3.12 東京（Hybride開催）
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	学会発表 デュピルマブ自己注射オートペンについてのアンケート調査結果 渡邊直人 第7回日本アレルギー学会関東地方会、2022.3.12 東京（Hybride開催）
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	学会発表（共同演者） Questionnaire survey on the changes in secondhand smoke exposure among children during the refraining from going outside under COVID-19 pandemic Kazunori Arai, Manabu Miyamoto, Mitsuhiko Nambu, Akihiko Terada, Yoshinobu Fukuda, Shinya Yoshihara, Yoshihide Terashi, Shigemi Yoshihara, Naoto Watanabe 第61回日本呼吸器学会学術講演会、2021.4.23～25 東京（Hybride開催）
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	学会発表 Questionnaire survey on the differences on opinions among pharmacists and those among clerical staffs in dispensing pharmacies about tobacco controls Kazunori Arai, Naoto Watanabe 第61回日本呼吸器学会学術講演会、2021.4.23～25 東京（Hybride開催）
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	学会発表 栃木県立5高校生の家庭内受動喫煙曝露実態調査結果の比較検討 荒井一徳、福田啓伸、吉原重美、渡邊直人、牧野荘平 第37回日本小児臨床アレルギー学会、2021.5.31～6.23（オンデマンド）

区分	学会発表
演題名	栃木県立5高校生の市中における受動喫煙曝露実態調査結果の比較検討
演者・共同演者	荒井一徳, 福田啓伸, 吉原重美, 渡邊直人, 牧野荘平
学会名等	第37回日本小児臨床アレルギー学会、2021.5.31～6.23 (オンデマンド)
区分	学会発表
演題名	住居壁面のネコアレルゲン量垂直分布とネコ用品設置位置の検討
演者・共同演者	白井秀治、阪口雅弘、澤田健行、戸部真太郎、南部光彦、渡邊直人、牧野荘平
学会名等	第37回日本小児臨床アレルギー学会、2021.5.31～6.23 (オンデマンド)
区分	学会発表
演題名	都道府県別のアレルギー学会指導医・専門医数と喘息受療率の不均等状況および双方の関連
演者・共同演者	荒井一徳, 渡邊直人
学会名等	第2回日本喘息学会総会学術大会、2021.7.17～7.18 大阪 (Hybride開催)
区分	学会発表
演題名	オフィス環境の室内塵中微生物とアレルゲン量の検討
演者・共同演者	白井秀治、阪口雅弘、高鳥浩介、田中巧、渡邊直人
学会名等	第70回日本アレルギー学会総会、2021.10.8～10 横浜 (Hybride開催)
区分	学会発表
演題名	個人向けダニアレルゲンDer 1測定郵送検査法の検討
演者・共同演者	白井秀治、瀧本陽介、西脇奈菜子、松原明子、松本美保、遠藤啓一、相澤大輔、渡邊直人
学会名等	第70回日本アレルギー学会総会、2021.10.8～10 横浜 (Hybride開催)
区分	学会発表
演題名	1都6県14都県立高校生の家庭における受動喫煙曝露と市中における受動喫煙曝露との関係
演者・共同演者	荒井一徳, 吉原重美, 福田啓伸, 宮本学, 南部光彦, 望月博之, 川合厚子, 渡邊直人
学会名等	第58回日本小児アレルギー学会学術大会、2021.11.13.～14 横浜
区分	学会発表
演題名	個人向けダニアレルゲン郵送検査法と酵素免疫測定法 (ELISA) の相関の検討
演者・共同演者	白井秀治、瀧本陽介、藤田真由美、松原明子、松本美保、遠藤啓一、相澤大輔、渡邊直人
学会名等	2021年室内環境学会学術大会、2021.12.2～3 京都
泌尿器科	
区分	講演会
演題名	外用剤治療が果たす役割
演者・共同演者	波多野孝史
学会名等	第3回結節性硬化症オンライン講座・2021.4.7・東京
区分	講演会
演題名	結節性硬化症の薬物治療update
演者・共同演者	波多野孝史
学会名等	横浜国立大学 TSCミーティング・2021.4.28・横浜
区分	講演会
演題名	結節性硬化症のチーム医療、将来への展望
演者・共同演者	波多野孝史
学会名等	Kanagawa TSC summit・2021.5.14・横浜
区分	講演会
演題名	夜間頻尿が健康および生命に及ぼす影響
演者・共同演者	波多野孝史
学会名等	オンライン市民公開講座・2021.5.22・横浜
区分	講演会
演題名	結節性硬化症に対する持続可能なチーム医療の実践
演者・共同演者	波多野孝史
学会名等	2021聖マリアンナ医科大学 TSCボード・2021.6.17・川崎
区分	講演会
演題名	結節性硬化症に対する連携推進と患者支援
演者・共同演者	波多野孝史
学会名等	結節性硬化症診療連携セミナーin広島・2021.6.23・広島
区分	講演会
演題名	結節性硬化症へのオンライン診療の導入と今後の展開
演者・共同演者	波多野孝史
学会名等	結節性硬化症ウェブセミナー・2021.7.19・横浜
区分	講演会
演題名	超高齢化社会における夜間頻尿
演者・共同演者	波多野孝史
学会名等	横浜泌尿器疾患カンファレンス・2021.10.26・横浜
区分	講演会
演題名	TSC診療連携：これまでの取り組みから見えてきたこと
演者・共同演者	波多野孝史
学会名等	帝京大学結節性硬化症webセミナー企画・2021.10.28・東京

区 演 演 学	分 題 者・共同 会 名等	講演会 結節性硬化症診療のニューノーマル 波多野孝史 TSC web seminar・2021.11.19・東京
区 演 演 学	分 題 者・共同 会 名等	講演会 TSCにおける医療スクラム 波多野孝史 TSC medical web seminar・2021.12.15・東京
区 演 演 学	分 題 者・共同 会 名等	学会発表 結節性硬化症 外用剤による治療から見えてきたこと 波多野孝史 第29回日本小児泌尿器科学会総会・2021.4.1・東京
区 演 演 学	分 題 者・共同 会 名等	学会発表 小児に発生した結節性硬化症に伴う腎血管筋脂肪腫に対するエベロリムス長期治療成績 波多野孝史 第29回日本小児泌尿器科学会総会・2021.4.2・東京
区 演 演 学	分 題 者・共同 会 名等	学会発表 結節性硬化症に伴う小径腎血管筋脂肪腫に対するエベロリムスの効果 波多野孝史 第86回日本泌尿器科学会東部総会・2021.9.4・札幌
区 演 演 学	分 題 者・共同 会 名等	学会発表 夜間頻尿が健康へ及ぼす影響 波多野孝史 第29回横浜臨床医学会学術集談会・2021.12.4・横浜
区 演 演 学	分 題 者・共同 会 名等	学会発表 多発性嚢胞腎に対するトルバブタン導入に伴う排尿状態の変化 波多野孝史 第109回日本泌尿器科学会総会・2021.12.8・横浜
看護部		
区 演 演 学	分 題 者・共同 会 名等	講演会 クリティカル領域における特定行為実践報告 坂田 稔 厚生労働省 看護師の特定行為に係る研修機関の養成力支援事業
区 演 演 学	分 題 者・共同 会 名等	講演会 75歳になってから考える がん医療との向き合い方 根岸 恵 聖隷横浜病院 市民公開講座 2021.7.1 web
区 演 演 学	分 題 者・共同 会 名等	講演会 アドバンス・ケア・プランニング 根岸 恵 聖隷浦安地区職員研修 2021.12.8 千葉
区 演 演 学	分 題 者・共同 会 名等	講演会 みんなで知ろう! 人生会議 根岸 恵 戸田中央医科グループ看護局研修 2021.12.15 埼玉
区 演 演 学	分 題 者・共同 会 名等	学会発表 糖尿病をもつ成人期患者の語りを「聴く」を支えるもの 小川実花 第26回日本糖尿病教育・看護学会学術集会
血液浄化センター		
区 演 演 学	分 題 者・共同 会 名等	学会発表 維持血液透析患者を対象とした事前指示書の取り組みと課題 渡邊 和美 透析医学会
薬剤部		
区 演 演 学	分 題 者・共同 会 名等	講演会 基幹病院から地域への緩和:医薬品安全責任者の立場から 塩川 満 第7回 熊本緩和薬物療法研究会 2021.11.6
区 演 演 学	分 題 者・共同 会 名等	講演会 排便コントロールに対する薬剤師の関わり 相原未希 南・保土ヶ谷区慢性便秘症WEBフォーラム 2021.7.7

区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 オキシコドン及びヒドロモルフォン経口から注射への切り替えに影響を与える因子の探求 吉田春菜、宮城明実、塩川満 薬剤部門 学術発表会 2021.2.5
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 骨折リエゾンサービス (FLS) 立ち上げと薬剤師の介入 安田佳世、柏谷里美、徳富江里、米川史織、建部宏子、塩川満 薬剤部門 学術発表会 2021.2.5
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 緩和ケア病棟における病棟薬剤師の取り組みと今後の展望 小林大記 聖隷横浜病院 第2回地域連携勉強会 2021.8.19
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 阿部隆介 心疾患に対する薬剤師の取り組み 聖隷横浜病院 第3回地域連携勉強会 2022.2.10
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 回復期リハビリテーション病棟における薬剤師の役割～薬学的介入事例の分析と経済的効果～ 建部宏子、安部光咲、塩川満 第31回日本医療薬学会年会 2021.10.9
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 当院の骨折リエゾンサービス開始までの取り組み 柏谷里美、長野加奈子、柳田悠太、竹下宗徳 第23回日本骨粗鬆症学会年会 2021.10.8
栄養課		
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	講演会 臨地実習に向けて 仲戸川豊 関東学院大学 健康栄養学部
リハビリテーション課		
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 姿勢推定プログラムOpenposeの臨床応用に向けた取り組み 木村航汰 廣江圭史 田中和也 吉田寛 第40回関東甲信越ブロック理学療法士学会
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 姿勢推定プログラムOpenposeを用いた人工膝関節全置換術前後の歩行比較 木村航汰 廣江圭史 竹下宗徳 田中和也 吉田寛 第9回日本運動器理学療法学会
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 姿勢推定プログラムOpenposeを用いた脳卒中片麻痺患者におけるTrailing姿勢破綻時の代償運動の推定 木下峻太郎 ¹⁾ 木村航汰 ¹⁾ 廣江圭史 ¹⁾ 吉田寛 ²⁾ 田中和哉 ³⁾ 1) 聖隷福祉事業団聖隷横浜病院リハビリテーション課 2) 日本電信電話株式会社 3) 帝京科学大学医療科学部理学療法学科 第19回日本神経理学療法学会
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 重度片麻痺患者へ長下肢装具で歩行訓練を行った治療効果の一考察～覚醒向上に伴い異食症が改善した一症例～ 中井慎也 第38回神奈川県理学療法士学会 2022年2月6日 (web開催)
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 口頭教示が起立動作に与える影響について ～重度感覚鈍麻、注意機能低下を呈した一症例での検討～ 黒須香琳 第3回聖隷リハビリテーション学会
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表・オンラインWeb発表 脳梗塞上肢麻痺に手指テーピングと人工知能AIでの動画分析feedbackを併用した症例 前田優 第18回神奈川県作業療学会
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 当院の摂食嚥下リハビリテーション中に経験した「拒食」の分類と対応 提坂由紀、中野夕子、前田広士 第26・27回合同学術大会 日本摂食嚥下リハビリテーション学会
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 急性期アテローム血栓性脳梗塞患者の症状増悪に関わる因子の検討 廣江圭史 第19回日本神経理学療法学会 Web学会

臨床工学室	
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	講演会 はじめの一步 人工呼吸器にまつわる基礎 物江 浩樹 第4回 神奈川県臨床工学会 学術セミナー 2021.11.14 神奈川県
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	学会発表 臨床工学技士(CE)の脳血管内業務に対するQI活動～組織としての医療の質を真剣に考えて～ 森田 斗南 第37回 NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術集会 2021.11.25-27 福岡県
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	学会発表 Rota導入後、初使用症例までの臨床工学技士としての関り 掛谷 祐太 CCT2021 2021.10.28-30 WEB開催
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	学会発表 透析患者に対しRotaおよびOASを施行した1例 杉村 淳 CCT2021 2021.10.28-30 WEB開催

2021年度 学術業績 その他（院外活動等）

リウマチ・膠原病センター	
区分	その他（院外活動等）
演題名	病態治療論Ⅴ（免疫）
演者・共同演者	伊東宏
学会名等	聖灯看護専門学校 講義 （2021.4.17 4.24）
画像診断センター	
区分	その他（院外活動等）
演題名	Vessel wall imaging and Metal Artifact Reduction
演者・共同演者	石毛良一 佐々木亮 青井瑞穂 大高稔晴 荒木孝太 鈴木祥生
学会名等	第20回NPO法人日本脳神経血管内治療学会 関東地方会学術集会 2021.8.20（一押し！画像コンテスト）
区分	その他（院外活動等）
演題名	患者さんや他職種へ向けた画像支援
演者・共同演者	石毛良一 佐々木亮 青井瑞穂 大高稔晴 荒木孝太 鈴木祥生
学会名等	第20回NPO法人日本脳神経血管内治療学会 関東地方会学術集会 2021.8.20（一押し！画像コンテスト）
区分	その他（院外活動等）
演題名	濃度の異なる造影剤を2段階注入して撮影した3D-RA
演者・共同演者	石毛良一 佐々木亮 青井瑞穂 大高稔晴 荒木孝太 鈴木祥生
学会名等	第21回NPO法人日本脳神経血管内治療学会 関東地方会学術集会 2022.1.29（一押し！画像コンテスト）
区分	その他（院外活動等）
演題名	石毛良一（司会）
演者・共同演者	石毛良一（司会）
学会名等	循環器画像技術研究会 第382回定例会 2022.2.12
区分	その他（院外活動等）
演題名	児山 貴之（座長）
演者・共同演者	児山 貴之（座長）
学会名等	Brilliance Kanto Alliance 2022.3.18 web開催
外科・消化器外科	
区分	その他（院外活動等）
演題名	横浜市医師会聖灯看護専門学校非常勤講師
演者・共同演者	野澤聡志
学会名等	野澤聡志
泌尿器科	
区分	その他（院外活動等）ラジオ講演
演題名	腎細胞癌の診断と治療
演者・共同演者	波多野孝史
学会名等	みんなの健康ラジオ、ラジオ日本・2022.3.17, 24・横浜
看護部	
区分	その他（院外活動）
演題名	看護管理の概要・病院組織とリーダーシップ
演者・共同演者	兼子友里
学会名等	横浜市医師会聖灯看護専門学校
区分	その他（院外活動等）
演題名	倦怠感・嘔気のケア
演者・共同演者	根岸恵（講師）
学会名等	神奈川県保健福祉大学実践教育センター
区分	その他（院外活動）
演題名	看護とマネジメント
演者・共同演者	兼子友里
学会名等	横浜市医師会聖灯看護専門学校
区分	その他（院外活動）
演題名	看護の統合（医療安全・感染対策・国際化・制度等）
演者・共同演者	兼子友里
学会名等	横浜市医師会聖灯看護専門学校
区分	その他（院外活動）
演題名	成人看護学（終末期看護に特徴的な看護）
演者・共同演者	利根川 綾
学会名等	横浜市医師会聖灯看護専門学校
区分	その他（院外活動）
演題名	成人看護学の終末期看護について（終末期にある人の全人的苦痛）
演者・共同演者	利根川 綾
学会名等	横浜市医師会聖灯看護専門学校

区分	その他(院外活動)
演題名	何か変を活かすコミュニケーション
演者・共同演者	清水 宏恵
学会名等	聖隷沼津病院
区分	その他(院外活動)
演題名	RRS研修のススメ・フィジカルアセスメント研修
演者・共同演者	坂田 稔
学会名等	中央林間病院
区分	その他(院外活動)
演題名	呼吸のフィジカルアセスメント
演者・共同演者	坂田 稔
学会名等	中央林間病院
区分	その他(院外活動)
演題名	フィジカルアセスメント
演者・共同演者	坂田 稔
学会名等	横浜市医師会聖灯看護専門学校
区分	その他(院外活動)
演題名	感染予防対策について
演者・共同演者	山下 綾子
学会名等	社会福祉法人ほしづきの里 工房ひしめき
区分	その他(院外活動)
演題名	感染予防対策について
演者・共同演者	山下 綾子
学会名等	湘南乃えん 西湘サービスえん
区分	その他(院外活動)
演題名	教育プログラムの立案・運営・評価
演者・共同演者	田淵 かおり
学会名等	神奈川県ナースセンター
区分	その他(院外活動)
演題名	成人看護学Ⅴ(放射線療法・化学療法)
演者・共同演者	鶴田 華林
学会名等	横浜市医師会聖灯看護専門学校
区分	その他(院外活動)
演題名	感染看護認定看護師の役割
演者・共同演者	山下 綾子
学会名等	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター
区分	その他(院外活動)
演題名	手術看護技術Ⅰ
演者・共同演者	渡邊 怜治
学会名等	昭和大学認定看護師教育センター
薬剤部	
区分	その他(院外活動等) 司会
演題名	特別講演:緩和医療のありかたと薬剤師の役割 AIによって社会はどうか変わるか?
演者・共同演者	松岡 順治(岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学学域)
学会名等	第14回日本緩和医療薬学会年会 2021.5.13
区分	その他(院外活動等) 司会
演題名	新入局員に知ってほしい病院薬剤師業務の法的根拠
演者・共同演者	一般社団法人 日本病院薬剤師会 顧問 赤羽根 秀宜
学会名等	令和3年度日本病院薬剤師会新人研修 2021.10.17
リハビリテーション課	
区分	その他(院外活動等)
演題名	嚥下障害症例検討会 急性期症例
演者・共同演者	堤坂由紀
学会名等	第20回横浜嚥下研究会ZOOM配信 症例検討会
区分	その他(院外活動等)
演題名	当院の摂食嚥下リハビリテーション中に経験した「拒食」の分類と対応
演者・共同演者	堤坂由紀
学会名等	第8期嚥下障害臨床講座(通年講座)ZOOM配信 追加配信 日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術集会再演会
区分	講義
演題名	臨床実習Ⅳ学内演習(前編)
演者・共同演者	廣江圭史
学会名等	東京工科大学医療保健学部理学療法学科 2021年4月
区分	講義
演題名	臨床実習Ⅳ学内演習(後編)
演者・共同演者	廣江圭史
学会名等	東京工科大学医療保健学部理学療法学科 2021年5月

区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 名 者 等	講義 クリニカルキネシオロジー「小脳症状」 廣江圭史 東京工科大学医療保健学部理学療法学科 2021年6月
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 名 者 等	講義 物理療法学演習「脳卒中患者への物理療法」 廣江圭史 東京工科大学医療保健学部理学療法学科 2021年12月

2021年度 学術業績 著書論文

外科・消化器外科	
区 分	著書論文
演 題 名	金属片誤飲による十二指腸穿通から遅発性に発症した肝膿瘍の1例
演者・共同演者	永井 啓之, 野澤 聡志
学 会 名 等	日本腹部救急医学会雑誌41巻5号 Page397-401 (2021.07)
心臓血管センター内科	
区 分	著書論文
演 題 名	『上級医を目指す循環器治療手技PCI』P74-84 4章 バルーン 4-1 バルーン通過困難
演者・共同演者	芦田和博
雑 誌 名 等	日本医事新報社 2021.11.12 発行
区 分	著書論文
演 題 名	『新PCI・カテーテル室のピンチから脱出法—達人が教える119のテクニク—』P457-460 ChapterX 合併症もドンと来い! 冠動脈穿孔時 107.CHIP症例の対応は?
演者・共同演者	芦田和博
雑 誌 名 等	社南江堂出版 2021.12 発行
アレルギー内科	
区 分	著書論文
演 題 名	『おとな』の食物アレルギー 思春期～成人の食物アレルギー43のCase Study P.11,15,45,181執筆
演者・共同演者	鈴木慎太郎・正木克宣 編著
雑 誌 名 等	文光堂 2021.10.8 発行
区 分	著書論文
演 題 名	専門医のための遷延性・慢性咳嗽の診断と治療に関する指針 2021年度版:遷延性咳嗽の原因疾患P.68-73 執筆
演者・共同演者	藤村政樹、新実彰男、内藤健晴、石浦嘉久、松本久子ら
雑 誌 名 等	NPO法人日本咳嗽学会 前田書店 2021.12.20 発行
泌尿器科	
区 分	著書論文
演 題 名	Efficacy and safety of low-dose everolimus treatment for renal angiomyolipoma associated with tuberous sclerosis complex.
演者・共同演者	Takashi Hatano, Katsuhisa Endo, Mayumi Tamari
学 会 名 等	International Journal of Clinical Oncology 2021; 26: 163-168.
区 分	著書論文
演 題 名	The characteristics and optimal treatment of urolithiasis associated with tuberous sclerosis complex
演者・共同演者	Takashi Hatano and Katsuhisa Endo
学 会 名 等	International Urology and Nephrology 2021; 53: 1785-1790.
区 分	著書論文
演 題 名	Short-term changes in micturition patterns with tolvaptan treatment for autosomal dominant polycystic kidney disease
演者・共同演者	Takashi Hatano and Katsuhisa Endo
学 会 名 等	Asian Journal of Surgery 2021; 44: 1332-1333.
西2病棟	
区 分	著書論文 (看護雑誌)
演 題 名	現場のナースに直撃インタビュー 整形外科ならではの○○な話
演者・共同演者	寺田有稀
学 会 名 等	『整形外科看護』2021.8. Vol26 P6～8
区 分	著書論文 (看護雑誌)
演 題 名	もう起こさない! シーン別整形外科病棟の転棟・転落予防の実践 入浴時の転倒・転落防止の実際
演者・共同演者	青沼梓
学 会 名 等	『整形外科看護』2021.10 Vol.26 P73～75

第19回 聖隷横浜病院 病院学会

開催日：2022年2月26日（土）

場 所：聖隷横浜病院 A棟4階大会議室

第1群（座長：検査課 課長 弘島 大輔）

1	脳卒中急性期患者におけるアロマセラピーの有効性について	脳卒中ケアユニット	中川 ちひろ
2	リハビリダイアリーを作成・活用し、リハビリに対する	西2病棟 認知症ケアグループ	佐山 純子
3	地域包括ケア病棟での集団リハビリの運用が病棟業務に与えた影響	リハビリテーション課	藤森 泰徳
4	地域で選ばれる相談室をめざして ～現状と今後の取り組み～	地域連携・患者支援センター	百武 紗英
5	TV室における水晶体被ばく低減活動報告	放射線課	渥美 裕
6	当院における新型コロナウイルスワクチン接種の取り組み	医療の質管理室	山下 綾子

第2群（座長：西3病棟 課長 内野 友美）

6	超音波骨折療法の積極導入の取り組み ～多職種連携により実現！より良質な医療提供を!!～	施設資材管理課	角田 龍次
7	看護リスクマネジメント委員会の取り組みによる 身体行動制限ゼロへの影響	看護リスクマネジメント委員会	渡邊 和美
8	食事の視覚的改善による残食量減少の効果	栄養課	岩松 そのみ
9	多職種介入における心不全教育入院の効果	ハートサポートチーム	伊東 路子
10	放射線課における転倒防止の取り組みについて	放射線課	倉敷 純子 北村 恵子 釜谷 秀美
11	歯科がない当院での周術期口腔機能管理を目指して	看護部 口腔ケアチーム	渡邊 怜治

第3群（座長：診療部 泌尿器科 部長 波多野 孝史）

12	当院における医師事務作業補助の現状と課題	診療支援室	鈴木 美里 河合 美桜 細水 由加利
13	地域包括ケアにおける外来看護の役割 ～コロナ禍での未来院患者への電話介入から見てきたこと～	外来	木村 紀子
14	タスクシェアで得られた経験	臨床工学室	山内 寛二
15	多職種で関わった終末期患者の意思決定支援の一例	東3病棟	橋本 真弓
16	骨折リエゾンサービス (FLS) 立ち上げと薬剤師の介入	薬剤部	安田 佳世
17	意識障害の鑑別～低血糖脳症の症例から～	臨床研修室	藤江 清香

「2021年度 聖隷横浜病院 年報」 第15号 2022年8月31日

〒240-8521 神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町125

TEL：045-715-3111（代表） FAX：045-715-3387

URL：http://www.seirei.or.jp/yokohama/

●発行者 林 泰広 ●編集責任 広報委員会

